

1421  
342

大正五年三月

# 蔬菜試驗成績

第四報

茨城縣立農事試驗場



# 始





緒言

本報ハ當場細谷試験地ニ於テ大正四年度ニ施行セル

蔬菜試験成績及大正三年度ニ於テ完結セルモノ

摘録輯載ス

大正五年三月

茨城縣立農事試験場



### 例言

- 一、本報記載セル各試験ノ耕種梗概ハ其部ノ初メニ特種ノ事項ハ之ヲ施行シタル試験ノ項目中ニ記入セリ
- 一、試験ノ完結ヲ告ゲタルモノニハ説明ヲ附シ否ラザルモノハ説明ヲ省クカ或ハ之ヲ附スルモ決定ヲ與ヘザルコト、セリ
- 一、各品種試験ニ於ケル品種特性ハ數年間ニ涉リテ綿密ニ調査シ勉メテ誤謬ナカラシムコトヲ期シタリ
- 一、各試験ニ於ケル播種量施肥量及ビ收量等ハ總ベテ是ヲ一畝歩ニ改算記入セリ
- 一、各試験ニ供用シタル肥料ノ種類及ビ含有三成分並ニ其市價等ハ次表ノ如シ但シ肥料市價ハ時々多少ノ變アリシト雖モ概略平均價ヲ示セリ

肥料名	十貫匁市價	三成分		
		窒素	磷酸	加里
堆肥	〇、一〇〇	〇、〇五八	〇、〇三〇	〇、〇五〇
人糞	〇、二〇〇	〇、〇五七	〇、〇一三	〇、〇二七
大豆粕	二、四三〇	〇、七〇〇	〇、一五〇	〇、二〇〇
菜種油	二、七五〇	〇、五〇五	〇、二〇〇	〇、一三〇
米糠	一、二五〇	〇、二〇八	〇、三七八	〇、一四〇
硫酸安母尼亞	六、二〇〇	二、〇〇〇		





一、肥料配合法試驗.....	四〇丁
一、西瓜耕種梗概.....	四三丁
一、品種試驗.....	四五丁
一、菜豆耕種梗概.....	四八丁
一、品種試驗.....	四九丁
一、菜豆耕種梗概.....	五二丁
一、品種試驗.....	五三丁
二、播種期試驗.....	五五丁
一、蔥頭耕種梗概.....	五七丁
一、品種試驗.....	五九丁
二、直播對移植試驗.....	六一丁
三、平畦對揚畦比較試驗.....	六二丁
四、播種期對移植期試驗.....	六二丁
一、甘藍耕種梗概.....	六四丁
一、品種試驗(秋播).....	六六丁
二、假植回數試驗.....	六九丁
三、定植期試驗.....	七〇丁

四、磷酸成分增減試驗.....	七一丁
五、春播甘藍品種試驗.....	七二丁
一、瓜哇薯耕種梗概.....	七四丁
一、品種試驗.....	七五丁
二、除蘗試驗.....	七八丁
三、栽植期試驗.....	七九丁
四、種薯大小比較試驗.....	八一丁
五、種薯切斷法試驗.....	八二丁
六、種薯截切可否比較試驗.....	八三丁
一、牛蒡耕種梗概.....	八四丁
一、品種試驗.....	八五丁
二、播種期試驗.....	八七丁
一、藍耕種梗概.....	八八丁
一、品種試驗.....	八九丁
一、里芋耕種梗概.....	九〇丁
一、品種試驗.....	九二丁
二、種芋栽植法試驗.....	九五丁

三、直植對移植試驗.....	九六丁
四、種芋親子比較試驗.....	九七丁
一、玉蜀黍耕種梗概.....	九八丁
一、品種試驗.....	九九丁
一、落花生耕種梗概.....	一〇一丁
一、品種試驗.....	一〇二丁
二、播種期試驗.....	一〇四丁
一、葱耕種梗概.....	一〇五丁
一、品種試驗.....	一〇七丁
二、窒素成分增減試驗.....	一〇九丁
三、葱苗乾燥試驗.....	一一一丁
一、胡蘿蔔耕種梗概.....	一二二丁
一、品種試驗.....	一二三丁
二、窒素成分增減試驗.....	一五五丁
三、刺戟肥料加用試驗.....	一七七丁
一、蘿蔔耕種梗概.....	一八八丁
一、下葉摘除試驗.....	二〇〇丁

二、煮食用蘿蔔一要素多量試驗.....	二二一丁
三、澤庵用蘿蔔肥料配合法試驗.....	二二三丁
四、追肥回數對施肥期試驗.....	二六六丁
一、蕪菁耕種梗概.....	二八八丁
一、一要素多量試驗.....	二九九丁
二、追肥回數對施肥期試驗.....	三一一丁
一、結球白菜耕種梗概.....	三二二丁
一、追肥回數對施肥期試驗.....	三三三丁
二、肥料配合法試驗.....	三五五丁
三、肥料反應試驗.....	三八八丁
四、磷酸成分增減試驗.....	四一四丁
五、病害豫防法試驗.....	四二二丁
六、平畦揚畦比較試驗.....	四三三丁
一、菠薐草耕種梗概.....	四四四丁
一、品種試驗.....	四六六丁
二、刺戟肥料加用試驗.....	四七七丁
一、豌豆耕種梗概.....	四八八丁

- 一、品種試驗.....一四九丁
- 一、蠶豆耕種梗概.....一五一丁
- 一、品種試驗.....一五二丁
- 二、乾實用蠶豆摘心可否試驗.....一五四丁
- 一、草莓耕種梗概.....一五五丁
- 一、品種試驗.....一五八丁

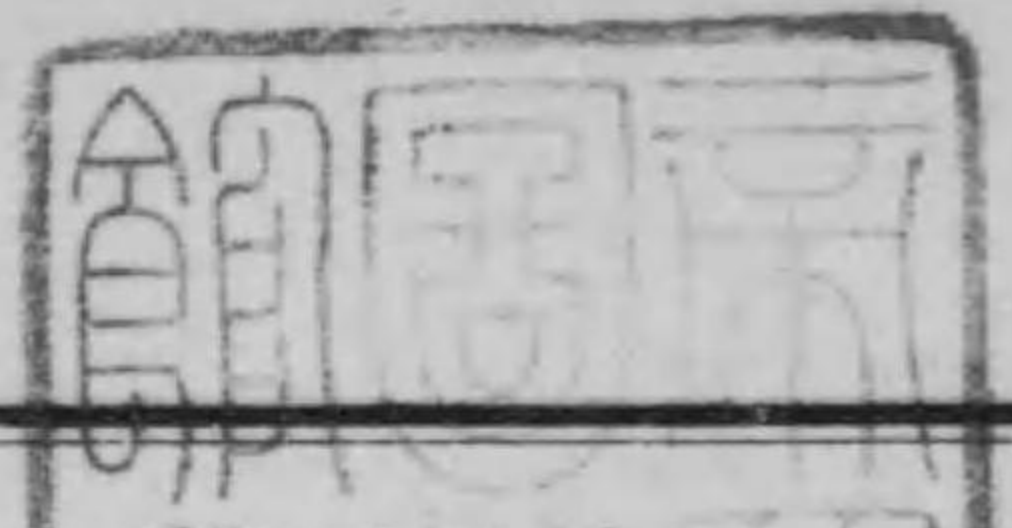
## 蔬菜試驗成績 第四報

### ●茄子

耕種梗概

苗床構成 當試驗地事務室ノ側方面地ヲ相シ苗床場ニ宛テ周圍ニ深ク明渠ヲ穿テ排水ノ便ヲ計シ西北ニ面ヲ高サ九尺ノ藁圍ヲ其他空所ハ高サ六尺ノ各藁圍ヲ造リ以テ寒風ヲ遮ルハ勿論直接中風ヲ避ク此圍内ニ東西十二尺南北四尺ノ地ヲ劃シテ深サ一尺四五寸餘ニ掘リ下ゲ底ノ周縁ヲ中央ヨリ五六寸深ク所謂蒲鋒形トナシテ之ニ硝子障子附木框ヲ据エ付ケ醱熱物ヲ踏ミ込ム裝置ニナセリ木框ハ幅四尺長サ十二尺ニシテ深サハ前部一尺後部一尺七寸側面之ニ準スルモノニシテ框ノ四隅及ヒ前後側ノ中央ニ各二寸角ノ脚ヲ附シ其上縁三尺毎ニ一寸五分角ノ桁ヲ前後ニ架シ之ニ幅三尺餘長サ四尺三寸餘ノ硝子障子四枚ヲ貼架スルニアリテ障子ハ三尺幅ニ縱ニ二條ノ支材ヲ架シ十二枚ノ小板硝子ヲ貼用シタルモノナリ

木框ヲ据エ付クルニハ前面深サノ約三分ノ一ヲ地中ニ埋メ糞ニ堀リ上ゲシ土ヲ框ノ四周ニ寄セテ雨水ノ管内ニ侵入セザルコトヲ期シタリ恣クテ管内周圍ニ炭ノ空俵ヲ圍ヒ以テ土ノ崩壞ヲ防ギ併セテ鼯鼠ノ侵入ヲ阻止スルノ用ニ供セリ諸般ノ裝置終リテ其中ニ新鮮厩肥ニ木葉ノ類ヲ混シタルモノヲ



二  
填人シ汚水及ビ稀薄人糞尿等ヲ層々ニ注キツ、固ク均一ニ踏ミ込ミ一尺三四寸ニ至ラバ止メ表面ヲ平ニ均ラシ尙ホ中熟堆肥ヲ二寸餘ノ厚サニ投入シテ更ニ踏ミ直シ地均ラシヲ行ヒ其上ニ腐熟堆肥ト園土及ビ少量ノ河砂トヲ混ジテ夏季ヨリ堆積調合シ置キタルモノヲ三寸餘ノ厚サニ入レ床面ヲ均平シテ障子ヲ架シ尙菰ニテ二重ニ蔽ヒ以テ四五日間其儘ニ放置シ床温一定スルヲ俟テ播種ニ着手セリ下播スルニハ豫メ床土中ニ木灰(床面一坪ニ付一升ノ割合)ヲ撒布シテ立枯病豫防ニ供シ床温ハ毎日午前十時午後二時ノ二回ニ檢温器ヲ以テ觀測シタリ而シテ障子上面ニハ菰ヲ蔽ヒ夜間及ビ雨天ノ温度下降ヲ阻止シ晝間晴天ニハ必ズ菰ヲ撤去シ障子ノ後方ヲ徐々ニ開キテ太陽光線ノ射入及ビ框内ノ通氣ヲ計リ專ラ苗ノ強健ナル發育ヲ期シタリ

一、播種 三月八日(大正三年) 三月五日(大正四年)

一、播種量 一畝當一勺

一、床ノ坪數 一坪五勺ノ割合

一、選種及種子豫措 水選シテ鮮黃色ヲ呈スルモノ、ミヲ用ヒ播種前一晝夜間微温湯中ニ浸シ後充分水ヲ滴ラシ木灰ヲ塗抹シテ下種ニ便セリ

一、播種法 床温一定セシ後床面ヲ均ラシ二寸幅ニ篠ヲ以テ播條ヲ設ケ之ニ條播ン薄ク床土ヲ被ヒ細孔ノ如露ニテ均一ニ微温水ヲ撒布シ更ニ藁ヲ一寸位ノ厚サニ被ヒ障子ヲ閉ジ菰ヲ重ネテ發芽

ヲ待チ催芽ノ後直ニ被藁ヲ除去セリ

一、間引 三月廿八日及ビ四月一日ノ二回ニ分ケテ密生部ヲ間引キ最後ノ間引ニテ各株間ヲ五六分ノ距離トナセリ

一、假植 四月十日ニ播種床ト同様ノ温床ニ畦幅五寸株間三寸五分位ノ割合ニ假植ヲ行ヒタリ

一、待肥 五月一日豫定シタル圃地麥隴中ニ一定ノ株間ヲ隔テ、植孔ヲ穿チ原肥ヲ投ジ表土ト能ク攪拌シテ後孔ヲ埋メ定植ヲ待チタリ

一、定植 五月九日(大正三年) 五月十九日(大正四年)

一、苗ノ選擇 定植前苗ノ對生葉ナルモノ、徒長セルモノ、萎縮セルモノ、病蟲害ニ侵サレタルモノ等ヲ夫々淘汰シテ葉ノ互生シテ丈ケ高カラズ強健ニ發育シテ且ツ鬚根多キモノ、ミヲ用ヒテ栽培シタリ

一、定植法 定植一二時間前苗床ニ多量ノ撒水ヲナシテ其充分床上ニ浸潤スルヲ待チ移植ニテ苗根ヲ損傷セザル様根土ヲ附シテ丁寧ニ掘リ取り靜ニ圃地ニ搬出シ豫テ準備セル待肥上ニ植孔ヲ穿テテ眞直ニ栽植シ根際ニ立枯病豫防ノタメ一株ニ付約半握許リノ木灰ヲ撒布シ更ニ糞糞ヲ根邊ニ圓ク敷キテ土地ノ乾燥ト降雨中泥土ノ葉裏ニ附着スルヲ防ギ周圍ニ笹ヲ建テ、日陰ヲ與ヘ活着ヲ扶ケ五六日ノ後之ヲ撤去シタリ



一、畦 幅 三尺(前秋大麥ヲ三尺畦ニ播種シ茄子用畑ニ豫メ準備シ置キタリ)

一、株 間 二尺

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	追肥				
		一回	二回	三回	四回	五回
堆肥	20,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
大豆粕	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
人糞尿	5,000	8,000	9,000	11,000	11,000	10,000
精過燐酸石灰	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
木灰	11,000	11,000	0,000	0,000	0,000	0,000
		價額	加里	燐酸	窒素	
		11,000	0,000	0,000	0,000	11,000

一、追肥 五月廿九日、六月廿六日、七月二十日、八月八日、九月三日 (大正三年)  
 六月三日、六月廿八日、七月十三日、八月十二日、九月六日 (大正四年)

一、中耕土寄 五月廿九日、六月廿六日、七月二十日 (大正三年)  
 六月三日、六月廿八日、七月十三日 (大正四年)

一、其他ノ手入 培養中常ニ雜草ノ除去ニ勉メ夏季ノ旱魃ヲ防グタメ畦上ニ麥稈類ヲ敷キ又風害豫防ノタメ一株ニ二三本ノ短キ篠ヲ斜ニ建テ、其動搖ヲ防ギ尙ホ最下枝ニ二本ヲ剪去シテ光氣ノ透過ヲ計リ併セテ施肥中耕ニ便ナラシメ蚜蟲其他ノ病蟲害豫防驅除ハ臨機ノ處置ヲ講シタリ

一、收穫 最初ハ顆實ノ過大ニ陥ラザル様稍々早ク缺ヲ以テ叮嚀ニ顆梗ヨリ切り採リ生育ノ

進ムニ隨ヒ漸次肥大ナラシメテ採收セリ

### 一、品種試驗

(大正三年度ニテ完結)

一、目的 汎ク各品種ヲ蒐集栽培シテ其生育狀態、收量及ビ品質等ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選出セントス

二、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	早生蔓細千成	東京	第七	巾着	大阪
第二	東京中生山茄子	全	第八	晚生丸茄子	東京
第三	佐土原	宮崎	第九	清國大丸茄子	清國
第四	札幌丸茄子	札幌	第十	パルピス	米國
第五	古河	伊勢	第十一	ブラツクビユテイ	熊本
第六	東京晚生山茄子	東京			

一、生育狀況 苗床中ハ勿論定植後ノ發育頗ル良好ナリシモ七月ヨリ八月ニ涉リテ稀有ノ旱魃ニ遭遇セシタメ生育上多大ノ打撃ヲ蒙ムリタリ又八月末ノ暴風雨ニ邂逅シ悉ク倒伏シタリシヲ以テ風ノ風グヲ待テ直ニ應急ノ手入ヲ施セシモ爲是生産上著シキ減耗ヲ來シタリ

一、特 性

區 名	品 種 名	熟 期	花 色	葉ノ大小 及 色 澤	穎 部 針ノ多少	穎 部 色 澤	形 狀	部 大小	品 質	用 途	強 弱
第 一	早生蔓細千成	甚早	淡紫	黑中綠	濃紫	全	長卵	稍小	上	漬用及 煮食用	強
第 二	東京中生山茄子	早	稍濃	黑大綠	全	全	長圓筒	中	全	全	全
第 三	佐 土 原	中	全	黑大綠	紫斑有	濃紫	長圓筒	中	中	漬用及 煮食用	全
第 四	札幌丸茄子	甚早	全	黑大綠	濃紫	濃紫	卵形	小	稍上	漬用及 煮食用	稍強
第 五	古 河	稍晚	全	黑中紫	濃紫	濃紫	長尖卵	中	上	全	強
第 六	東京晚生山茄子	中	全	黑大綠	全	全	長卵	全	全	全	全
第 七	巾 着	晚	全	黑大綠	全	濃紫	長形	大	下	全	全
第 八	晚生丸茄子	稍晚	淡紫	全	少	全	球形	大	上	全	全
第 九	清國大丸茄子	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第 十	清國大丸茄子 パイピニス、アラ ラツクビユテイ	最晚	最淡	甚大 淡綠	全	全	全	全	全	全	全
第 十 一	春 竹	晚	淡紫	黑大綠	少粗 多	濃紫	尻卵 大圓	全	中	全	全

一、收 量 (一畝當)

第 一	區 名	大正元年		大正二年		大正三年		三ヶ年平均		大正三年 採 收 期
		個數	重 量	個數	重 量	個數	重 量	個數	重 量	
七、九〇八	八、六二四	四、四〇〇	五、三三〇	九、七八〇	一、四六三	七、三六六	九、九三三	三、三	自六月十六日 至十月十日	

第 二	區 名	大正元年		大正二年		大正三年		三ヶ年平均		大正三年 採 收 期
		個數	重 量	個數	重 量	個數	重 量	個數	重 量	
八、五八〇	一〇〇、二九六	三、八〇八	六〇、八二六	八、〇七〇	一、二八、五六〇	六、八一九	九六、五五七	一、五	全	
七、七〇四	九七、五〇〇	三、六五一	四七、七三六	七、一四〇	一、一七、五七〇	六、一六五	八七、三九二	一、四	自七月十四日 至十月十二日	
五、二八〇	五〇、八〇〇	三、七七八	四五、〇〇〇	六、五九〇	九三、九八〇	五、一九六	六四、五九三	一、三	自六月二十日 至七月二十日	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
七、七四〇	一〇〇、五五六	四、〇六六	五四、四〇〇	六、二二〇	一一、四七〇	五、八六〇	一一、四七〇	二、四	自七月二十日 至十月二十日	
五、三三六	一〇五、〇〇〇	一、六五五	五四、四〇〇	六、二二〇	一一、四七〇	五、八六〇	一一、四七〇	二、七	自六月廿二日 至七月廿二日	
五、二〇八	九八、九四〇	二、一四〇	七四、一四〇	三、五九〇	一一、三〇七	三、四〇九	九四、九九五	二、七	自七月廿二日 至十月廿二日	
五、五九二	九七、一四〇	一、九八二	七六、七五八	二、七四〇	一〇、三六七	三、四三六	九二、四九五	三、〇	自六月廿五日 至十月十五日	
一、二七三	八、四三六	—	—	八、八〇〇	八、六、七四〇	一、〇七六	八四、五八八	三、三	全	
四、四三三	一一、五六〇	二、〇〇六	六九、七五五	四、一〇〇	一四、三、九〇〇	三、九五五	一〇八、七四三	三、三	自七月十日 至十月十日	

備考 表中(1)及(2)トアルハ一年又ハ二年ノ平均ヲ示シタルモノナリ

前表ニヨレバ各年ノ成績ニ稍々一致セザル点ナキニ非レドモ要スルニ漬物兼食用種(自第一區至第六區)中早生蔓細千成、東京中生山茄子全晚生山茄子ノ三種最モ良好ニシテ殊ニ前二種ハ早時ノ採收ニ適ヒ加之品質優良收量饒多ナリ又古河茄子ハ稍晚生ナレドモ品質優良收量亦不尠殊ニ色澤ノ良好ナルハ内地種中稀レニ見ル所ナリ、其他札幌丸茄子ハ性質早熟ナルモ收量寡少ナルヲ以テ有望種ニ數ヘ難ク佐土原茄子ハ栽培容易收量尠カラザルモ品質不良形狀醜惡ナルヲ以テ市場ニ不向ナリ  
煮食用種ニアサテハ收量品質共ニ優良ナルハ晚生丸茄子及ビ清國大丸茄子ノ二種ニシテ殊ニ前種ヲ以

テ最モ有望種トナス之ニ亞ナハ春竹種ナリ本種ハ品質上等ナラザルモ栽培容易且ツ收量最モ多キヲ以テ自家用ニ供シテ有利ナリ反之「ブラックビユテイ」種ノ如キハ品質卓絶セルモ收量他種ニ稍々劣リ加フルニ性虛弱培養甚ダ困難ニシテ一般ノ栽培ニ適セズ又市着茄子ハ性質強健ニシテ栽培容易ナリト雖モ品質劣等形狀不良ナルヲ以テ良種ト認メ難シ

一、肥料配合法試験

一、目的 配合法ヲ異ニセル諸種ノ肥料ヲ用ヒテ茄子ヲ栽培セバ其油粕ヲ主肥トセルモノト收量其他ニ如何ナル差異アルカヲ驗知セントス

一、供試品種 東京中生山茄子

一、試験區別

肥料名	用量	追肥					窒素	燐酸	加里	價額
		一回	二回	三回	四回	五回				
堆肥	1000									0.60
大豆粕	1000									0.60
人糞	1000									0.60
精過燐酸石灰	1000	800	900	1100	1300	1000				0.60

木	2000									
灰	2000									

第二、大豆粕區

堆肥	大豆粕	人糞	精過燐酸石灰	木	硫酸加里	追肥					窒素	燐酸	加里	價額	
						一回	二回	三回	四回	五回					
1000	1000	1000	1000	1000	1000										0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000										0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000										0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60

第三、油粕區

堆肥	油粕	人糞	精過燐酸石灰	木	硫酸加里	追肥					窒素	燐酸	加里	價額	
						一回	二回	三回	四回	五回					
1000	1000	1000	1000	1000	1000										0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000										0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000										0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60
1000	1000	1000	1000	1000	1000	6000									0.60

第四、硫酸安母尼亞區

肥料名	用量	原肥	追肥					空 素 價 額
			一回	二回	三回	四回	五回	
堆肥	50,000	11,000						
大豆粕	1,000	1,000						
硫酸安母尼亞	1,000							
精過燐酸石灰	0,000							
木灰	3,000							
空素							0,000	
加里							0,000	
價額							1,000	

第五、智利硝石區

肥料名	用量	原肥	追肥					空 素 價 額
			一回	二回	三回	四回	五回	
堆肥	50,000	11,000						
大豆粕	1,000	1,000						
智利硝石	1,000							
精過燐酸石灰	0,000							
木灰	3,000							
空素							0,000	
加里							0,000	
價額							1,000	

第六、錫 粕 區

肥料名	用量	原肥	追肥					空 素 價 額
			一回	二回	三回	四回	五回	
堆肥	50,000	11,000						
錫 粕	1,000	1,000						
精過燐酸石灰	0,000							
木灰	3,000							
空素							0,000	
加里							0,000	
價額							1,000	

一、生育狀況 大正三年度迄ハ品種試験ト全一ナリ、大正四年ハ七月中ノ大旱魃ニ遭遇シテ生育中止サレ收量上ニ著大ノ打撃ヲ被ムレリ其他晩秋風害ヲ受ケタリ

一、收 量 (一畝當)

區 名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三ヶ年平均
		個數	重 量	個數	重 量	個數	重 量	
第一	標準肥料	3,600	5,500	2,000	2,900	1,800	2,400	7,700
第二	大豆粕區	3,000	3,900	1,100	1,500	8,000	1,100	7,500
第三	油 粕 區	3,200	4,500	1,200	1,700	8,000	1,100	7,500
第四	硫酸安母尼亞區	3,000	4,100	1,300	1,800	8,000	1,100	7,500
第五	智利硝石區	3,500	4,800	1,100	1,500	8,000	1,100	7,500
第六	錫 粕 區	3,500	4,800	1,100	1,500	8,000	1,100	7,500

前表ニヨレバ年ニヨリ多少豊凶ノ差アリト雖モ三個年ノ平均收量ニ於テハ油粕區最高位ヲ占メ智利硝石區及ビ大豆粕區之ニ亞ギ硫酸安母尼亞區最下位ニ在ルヲ知ルニ足ルナリ、然レドモ油粕區ハ大正三年度ニ於テ異例ノ高收穫ヲ舉ゲタルヲ以テ從テ平均收量ニ影響セシノミナラズ肥料ノ價額亦不廉ナル

ガ故ニ却テ智利硝石區ヲ以テ合利のトナスガ如シ而シテ品質ニ於テハ各區共大ナル差異ナキヲ以テ收  
 量多キ經濟的肥料配合法即チ智利硝石區ノ如キ方法ヲ講ズルヲ最モ得策トナスヲ認ム

### 三、栽植法試験

一、目的 當地方ノ習慣上茄子ヲ栽植スルニハ麥圃(二尺)中ニ二畦連續シテ植エ込ミ次ノ一  
 畦ハ通路トシテ空畦トナシ畢竟其面積ハ三尺畦ニスルモノト同一ナリ仍テ本試験ニ於テハ其何レガ  
 有利ナル方法ナルカラ査定セントス

一、供試品種 東京中生山茄子

一、試験區別

第一、在來法 (二尺畦二條連續シテ一畦ヲ空虛ニスルモノ)

第二、正條植法 (耕種梗概ニ準ズ)

一、生育狀況 大体第二試験ニ全シ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正三年度		大正四年度		二個年平均	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	在來法	七、四九五	一三、五七〇	六、五二五	一〇、八〇〇	七、〇〇五	一三、一七〇
第二	正條植法	七、九一〇	一三、一八〇	七、〇〇〇	一三、〇一〇	七、四五五	一三、三三〇

右表ニヨレバ一見第二區ヲ有利トスルニ似タレドモ畦幅廣キタメ麥ノ收量ニ著シキ減耗ヲ來スノ損失  
 アルヲ以テ土地ノ狀況ニヨリ宜シク斟酌スベシ

### ●蕃茄

一、苗床ノ構造 茄子ニ全シ

一、播種 三月二十日(大正三、四兩年共)

一、播種量 一畝當一勺ニ才

一、播種法 概略茄子ニ全シ

一、間引 四月上中旬ノ間ニ二回ニ分チテ密生部ヲ間引キテ各株間ヲ七八分ノ距離トナシ專  
 ラ苗ヲ強健ナラシメタリ

一、假植 四月十五日(大正三年)  
 四月十三日(大正四年)

一、待肥 五月五日(大正三年)  
 四月廿七日(大正四年)

一、定植 五月九日(大正三年)  
 五月十四日(大正四年)

- 一、定植法 茄子ニ全ジ
- 一、畦幅 三尺
- 一、株間 二尺
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥		追肥		價額
		一回	二回	一回	二回	
堆肥	三,000	三,000	10,000			0.33
大豆粕	1,500	1,000	0.400			0.165
人糞	10,000		4,000			0.165
精過燐	0.500	0.100	0.100			0.033
石灰	1,500	0.500				0.033
葉灰		1,500				0.033
空素						0.33
燐酸						0.165
加里						0.033
價額						0.33

- 一、追肥 五月廿七日、六月二十日 (大正三年)  
五月廿六日、六月十九日 (大正四年)
- 一、中耕土寄 五月廿七日、六月二十日、七月一日 (大正三年)  
五月廿六日、六月十九日、七月一日 (大正四年)
- 一、支柱建 五月十四日一株ニ一本宛ニ長サ五尺ノ竹ヲ建テ、地上四尺ヲ出シ更ニ横竹ヲ二段ニ結縛シテ垣根トナシ以テ風ノタメニ倒伏セザランコトヲ期シタリ
- 一、整枝法 最初真直ニ誘引シテ支柱ニ結縛シ高サ垣根(四尺)ヲ超ユルニ及ビ始メテ頂端ヲ摘

心シテ其上向ヲ防ギ單幹直立形トナシ各葉腋ヨリ發生スル不用腋芽ハ悉ク之ヲ摘去シ以テ主枝ノ發育及ビ顆實ノ美大ヲ助クルニ勉メタリ

一、收穫 七月中旬ヨリ順次採收セリ

二、手入 大正三年度ニハ病害豫防ノタメ五月四日苗床ニ三斗式ぼると合劑ヲ六月八日六月十九日ノ二回ニ尙全式合劑ヲ撒布シタリ又大正四年度ニハ五月廿一日全ぼるど合劑ヲ一回撒布シタリ

一、品種試驗 (大正三年度ニテ完結)

一、目的 生食用ニ供スルタメ數多ノ品種ヲ蒐集栽培シテ其生育、收量及ビ品質ヲ比較考照シ以テ本縣ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品名	種名	原產地	區名	品名	種名	原產地
第一	ミカド	米	米國	第六	チャムピオン	米	米國
第二	ボンテロザ	全	全	第七	ドワーフ、ジャイアント	全	全
第三	マツチレス	全	全	第八	ニュー、アーヴィー	全	全
第四	クリムソン、カツシヨン	全	全	第九	コンピネーション	全	全
第五	札幌	札幌	札幌	第十	テーブル、クキーン	米	英國

一、生育狀況 苗床中白絹病發生ノ兆候アリシヲ以テ直ニ豫防劑ヲ撒布シテ之ヲ防ギ定植後ハ發育頗ル良好ナリシモ茄子ト全様早害ニ罹リ尙ホ八月末ノ暴風雨ニ垣根諸共倒伏セシヲ以テ應急ノ策ヲ講ジタリモ爲是爾後結實頓ニ衰ヘタリ

二、特性

區名	品種名	熟期	草勢	色澤	形状	實部	品質
第一	ミカド	中	稍高	朱赤	扁圓	大	多
第二	ボンテロザ	全	全	紅	全	大	多
第三	マツチレス	晚	稍高	濃紅	稍圓	甚大	少
第四	クリムソン、カツシヨン	稍早	稍高	朱赤	扁圓	中	多
第五	札	中	強高	濃紅	扁圓	大	全
第六	チャンピオン	全	強矮	朱赤	裝條有	中	少
第七	ドワーフ、ジャイアント	晚	全	全	裝條有	甚大	全
第八	ニュー、アーリー	早	稍高	濃紅	扁圓	中	多
第九	コンビチーシヨン	中	強高	濃朱赤	全	大	全
第十	テーブル、クケン	全	稍高	全	扁圓	中	少

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	三ヶ年平均	大正三年度採收期
第一	ミカド	二、〇八五	二、九四二	二、三六〇	二、九八九	自七月十六日至九月廿一日
第二	ボンテロザ	二、三三五	三、一九〇	二、八六四	二、九二六	全
第三	マツチレス	一、八三〇	二、八二〇	二、九三〇	二、三九七	自七月十九日至九月廿一日
第四	クリムソン、カツシヨン	二、五五五	三、三七〇	三、九三〇	三、九五七	自七月十三日至九月廿一日
第五	札	四、二一〇	四、六五〇	四、九三〇	四、七九〇	自七月十一日至九月廿一日
第六	チャンピオン	一、九三五	三、七三〇	三、四〇〇	三、五四五	自七月十三日至九月廿一日
第七	ドワーフ、ジャイアント	一、八八五	一、八九〇	一、九〇〇	一、九二三	自七月十一日至九月廿一日
第八	ニュー、アーリー	五、六四〇	三、四〇〇	五、六四〇	三、六〇五	自七月十三日至九月廿一日
第九	コンビチーシヨン	四、〇〇〇	二、七三〇	三、四〇〇	三、八六三	自七月十一日至九月廿一日
第十	テーブル、クケン	一	三、一四〇	九、〇七〇	四、一〇五	自七月十一日至九月廿一日

備考 表中(2)トアルハ二ヶ年ノ平均ヲ示セルモノナリ

前表ニヨレバ年ニヨリ多少豊凶アリト雖モ要スルニ生食用ニ供スル蕃茄ハ單ニ收量ノ多キヲ以テ貴シトスベカラズ必ズ品質ノ優良ニ俟ツヤ大ナルヲ以テ此目的ニ向ツテ有望ナルハ「ニュー、アーリー、フリードム」及ビ「テーブル、クケン」ノ二種ニシテ「ミカド」及ビ「クリムソンカツシヨン」等之ニ亞ギ又良好ナリ其他品質前諸種ニ遜色アルモ性質強健收量饒多ナルハ札幌ナルヲ以テ品質ヲ擇バザル場合ニハ本種ノ如キ確ニ有望ナル品種ト謂フベシ

### 一、整枝法試驗

一、目的 蕃茄栽培上如何ナル整枝法ニ倚ルヲ經濟上得策トナスカヲ研究セントス

一、供試品種 ニュー、アーリー、フリードム

一、試驗區別

第一、單幹直立コルドン (一本仕立)

第二、二本カンテラブル (斧脚形)

第三、ブツシユ (自然形)

一、整枝ノ方法 第一ハ耕種梗概ニ準ジ第二ハ苗ヲ中心トシ之ヨリ兩側へ各五寸(合計一尺)ヲ隔テ

支柱ヲ各二本宛建テ横竹ハ最下段地上六寸ニ張り其上更ニ二段ニ竹ヲ架シ(都合三段)苗ノ七八寸

ニ伸長セシ頃六寸位ニテ頂端ヲ摘心ス然ルトキハ各葉腋ヨリ數多ノ腋芽發生スルヲ以テ就中先端ニ

位スル強健ナル二芽ヲ殘シ他ハ悉ク之ヲ摘去シ其伸ビルニ從ツテ下段ニ水平ニ誘引シ本幹ヨリ各五

寸ヲ距ラバ更ニ上向セシメテ支柱ニ縛着シ高サ四尺ニ達スレバ其頂端ヲ摘心シテ二本ノ主枝ヨリ發

生スル側芽ハ第一ト全樣處理スルニアリ第三ハ定植後自然ニ放置シテ少シモ摘芽ノ勞ヲ採ラズ從ツ

テ發枝スレバ從ツテ支柱及横竹ニ結縛スルニアリ支柱ノ建方及ビ其他ハ悉ク他區ト同一ニ取扱ヒタ

リ

一、生育狀況 大正三年度迄ハ品種試驗ト同様ナルモ大正四年度夏季ハ稀有ノ早魃ニ遭遇セシタ

メ生育中止サレ收量上ニ多大ノ影響ヲ來セリ殊ニ第三區ニ於テ甚シ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三個年平均收量	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	單幹直立コルドン	二、三九〇	七、九〇〇	四、七四〇	一四〇、三六〇	二、五二〇	六五、三五〇	三、二二二	九二、三三三
第二	二本カンテラブル	二、四九〇	五、六五〇	五、四九〇	一六四、七〇〇	二、六六五	五五、六七〇	三、五四八	九四、六七三
第三	ブツシユ	六、八八〇	二、四、〇〇〇	八、三〇〇	二二二、三三〇	二、七四五	五〇、五二〇	五、九五三	一五八、九一七

前表ニヨレバ第三ブツシユ(自然放任)區ノ收量最高位ヲ占メ第一區單幹直立コルドン區最少ナリト雖  
モ第二區トノ差異極メテ僅少ナリ而シテ第二、三兩區ハ顆實ノ初期收穫量比較的少キヲ常トシ殊ニ第  
三區ハ顆實ノ形狀不正且ツ矮小ナルヲ以テ形狀ヲ重セサル場合ノ外ハ濫リニ應用スベキ方法ニ非ルニ  
似タリ要スルニ生食用ヲ目的トスルニハ單幹直立コルドン整枝ヲ最モ適當トス



●胡瓜

耕種梗概

- 一、苗床 茄子ニ全シ
- 一、播種 三月二十日(大正三年) 三月十五日(大正四年)
- 一、播種量 一畝當三勺
- 一、床ノ坪數 三勺ノ種子ハ約半坪ノ床面ニ播下シタリ
- 一、種子豫措 能ク充實セル種子ヲ擇ビテ一夜間浸水シテ下種セリ
- 一、播種法 床上三寸ノ距離ニ深サ三分位ノ播條ヲ設ケ之ニ條播シ輕ク被土シテ灌水ヲ行ヒ更ニ薄ク藁ヲ蔽フテ發芽ノ均一ヲ計レリ
- 一、間引 二回ニ別チテ行ヒ各株間ヲ八分内外ニ保テリ
- 一、假植 四月十一日(大正三年) 四月十日(大正四年)
- 一、待肥 四月廿九日(大正四年度ハ四月廿七日)
- 一、定植 五月八日(大正三年) 五月十四日(大正四年)
- 一、定植法 大体茄子ニ全シ

- 一、畦幅 二尺五寸
- 一、株間 二尺
- 一、肥料 (一畝當)

肥料者	用量	原肥	追肥			窒素	燐酸	加里
			一回	二回	三回			
堆肥	三五〇〇〇	三五〇〇〇				〇.四七五		
大豆粕	一、〇〇〇	一、〇〇〇				〇.二三八		
人糞	四、〇〇〇	一	一〇、〇〇〇			〇.七五〇		
精過磷酸石灰	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇					一、四七五	
葉灰	二、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇					一、四七五

- 一、追肥 六月一日、六月十九日、七月六日 (大正三年度) 五月廿六日、六月十九日、七月三日 (大正四年度)
- 一、中耕及土寄 全上
- 一、支柱建 大正三年度ハ五月十四日、大正四年度ハ五月廿七日一株ニ付一本宛長サ六尺余ノ竹ヲ苗ノ側ニ真直ニ建テ、地上五尺ノ高サト成シ繩ヲ畦ノ方向ニ三段ニ横張シテ支柱ニ結縛シ所々ニ藁ヲ下垂シテ巷鬚ノ纏絡ニ便セリ
- 一、敷藁 第一回追肥中耕ノ後株ノ兩側ニ少量ノ麥稈類ヲ敷キテ雨中泥土ノ葉裏ニ附着スル

ヲ防ギ尚ホ最後ノ追肥中耕ヲ行ヒテ畦上一面ニ敷藁シ以テ乾燥ヲ豫防セリ

一、摘心

節成種ハ一般ニ摘心ヲ行ハズ唯萌葉ノ過生部ヲ僅ニ剪去スルニ止メ他種ハ單幹直立形成トナシテ最初摘心スルコトナク眞直ニ主蔓ヲ支柱ニ添フテ誘引シ高サ五尺余ニ到ラバ其頂端ヲ摘ミ取り以テ上向ヲ防ギ其後腋枝ノ發生シテ其一二節目ニ雌花ノ出現ヲ見バ其凋花ヲ待チテ花上一節ヲ殘シテ再ビ心ヲ摘ミ専ラ顆實ノ發育及ビ空氣ノ透過ヲ計リ採顆後該枝ハ不用ニ歸スル故基部ヨリ剪去シ其他雌花ノ着生セザル無駄蔓ハ悉ク之ヲ其基部ヨリ剪リテ繁茂ヲ防ギタリ

一、手入

培養中除草ニ注意シ且ツ瓜守ノ豫防驅除及ビ露菌病豫防ノタメ各種藥劑ヲ撒布シタリ

一、收穫

初成ハ一般ニ顆實ノ未ダ肥大セザル間ニ採收シ生育進行スルニ從ヒ漸次大ナラシメテ收穫セリ

一、品種試驗

(大正三年度ニテ完結)

一、目的

有望ト認メラル、數多ノ品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質等ノ優劣ヲ比較研究シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	早生三枚目節成	東京	第六	清國三尺	支那
第二	白節成	全	第七	青大胡瓜	福岡
第三	青節成	神奈川	第八	英國三尺	英國
第四	刈羽節成	新潟	第九	成瀬節成	石川
第五	針ヶ谷節成	埼玉	第十	秋胡瓜	支那

一、生育狀況

發育良好ナリト雖モ例年ニ比シ露菌病ノ發生多カリシ故自六月上旬至七月中旬間四回ニ分チテ石灰ボルドー及ビ安母尼亞ボルドー合劑ヲ撒布シテ蔓延ヲ豫防セリ

一、特性

區名	品名	熟期	主蔓ニ雌花多或少	主蔓節間長短	形	狀	之部	品質	
第一	早生三枚目節成	早	多	短	圓筒	中	綠	稍大、稍多	上強
第二	白節成	全	全	全	長圓筒中央縮レ兩端(細シ)	全	淡綠	稍小、稍多	中稍弱
第三	青節成	稍早	全	全	圓筒形兩端細シ	大	濃綠	大、多	上強
第四	刈羽節成	早	全	全	全	稍小	稍淡	小、稍多	全稍弱
第五	針ヶ谷節成	稍早	全	稍長	全	中	稍濃	大、多	全強
第六	清國三尺	晚	少	全	細長梗端細シ	甚大	綠	稍小、少	全稍弱

一、收量 (一畝當)

第 七	第 八	第 九	第 十
青大胡瓜	英國三尺	成瀨節成	秋胡瓜
全	全	稍早	中
全	全	多	少
全	全	全	短
圓筒(太シ)	清國三尺ニ似タリ	細長圓筒梗端細シ	圓筒(太シ)
全	大	稍小	稍大
濃綠	綠	濃綠	淡綠
大、少	大、稍多	小、少	大、稍少
全	全	中	上
強	弱	稍弱	全

區 名	品 種 名	大正元年度		大正二年度		大正三年度		三ヶ年平均		大正三年採收期
		本數	重量	本數	重量	本數	重量	本數	重量	
第 一	早生三枚目節成	一、七六四	二一、八九七〇	一、六六〇	二二、九〇〇	三、一八〇	二六、三八〇	二、二二八	二六、四八〇	自六月十二日至八月九日
第 二	白 節 成	二、〇八八	一三、四七〇	一、六三三	一〇、八五〇	二、一六六	一八、七五〇	一、九〇二	一五、〇七五	全
第 三	青 節 成	一、七六六	二八、四七〇	一、七〇〇	二〇、七三〇	二、五〇八	二八、〇七〇	一、八三二	二七、六六八	自六月十六日至八月九日
第 四	刈羽節成	一、〇六六	六、五五〇	一、〇八〇	五、二〇〇	一、五八八	八、〇三三	一、二二五	六、四六〇	自六月九日至八月九日
第 五	針ヶ谷節成	—	—	一、三三四	八、〇八〇	二、三三八	二〇、六三三	一、七八二	一四、二四六	自六月九日至八月九日
第 六	清國三尺	一、七五五	三三、七〇〇	一、二三八	一〇、五二〇	一、四八八	四八、二九三	一、四七二	一四、〇六〇	自六月九日至八月九日
第 七	青大胡瓜	一、八七五	一六、七〇〇	一、二六〇	一五、七五〇	一、六五六	一五、六三三	一、五九八	一四、七〇七	全
第 八	英國三尺	一、一七二	二二、五八〇	三、三三六	五、九〇〇	一、一三四	九八、一〇〇	一、〇二二	八六、六六〇	自六月十六日至八月九日
第 九	成瀨節成	—	—	—	—	一、七〇四	一〇、七三〇	一、四三八	八四、四七三	自六月十二日至八月九日
第 十	秋胡瓜	—	—	—	—	一、六八〇	一七、〇三〇	一、六八〇	一七、〇三〇	全

備考 表中(2)或(1)トアルハ二ヶ年又ハ一ヶ年ヲ示スモノトス

前表ニヨレバ年ニヨリ多少收量ニ相異アリト雖モ節成種ニ於テハ收量品質共ニ他種ニ優レタルハ早生三枚目節成及ビ青節成ノ二種ニシテ就中前種最モ有望ナリ而シテ之ニ亞テ有望ナルハ針ヶ谷節成ニシテ白節成ノ如キハ收量ニ於テ以上諸種ニ遜色ナキモ品質稍劣リ加フルニ少シク採收ヲ怠レバ直ニ顆實赤變スルノ缺点アルヲ以テ良種ト謂ヒ難シ反之刈羽節成ノ如キハ品質優良形状亦良好ナルモ收量少ク殊ニ性質虛弱本縣ノ氣候ニ適セザルガ如シ又節成以外ノ品種ニ於テハ青大胡瓜最モ有望ニシテ清國三尺之ニ亞グト雖モ形状長大ナルヲ以テ市場ノ賣行良好ナラズ其他英國三尺ノ如キハ性著シク虛弱且ツ形状清國三尺ニ類似シテ需要多カラズ本縣ノ現狀ニテハ栽培ノ價值ナキモノ、如シ尙ホ秋胡瓜ハ僅々一ヶ年ノ栽培ナルヲ以テ充分特質ヲ究メザルモ寧ロ晩播スルヲ適當ト認ム

要是販賣ヲ目的トスル場合ニハ早生種ヲ擇ブヲ得策トシ此目的ニ向ツテ有望ナルハ早生三枚目節成及ビ青節成ノ二種ニシテ早取ヲ望マザレバ青大胡瓜ヲ栽培スルヲ有利ト認ム

一、整枝法試驗

- 一、目的 胡瓜ヲ栽培スルニ方リ如何ナル整枝法ニ倚ルヲ經濟上得策トナスカラ驗知セントス
- 一、供試品種 青大胡瓜
- 一、試驗區別

第一、單幹直立形 (耕種梗概ニ準ズ)

- 第二、一回摘心單幹直立形 (一本仕立)
- 第三、二本カンテラブル (筭脚形)
- 第四、ブツシユ仕立 (自然仕立)

一、整枝法 第一區ハ耕種梗概ニ準シ第二區ハ本葉六七枚ヲ着生セシトキ之ヲ三葉目ニテ摘心シ腋枝發生セバ最モ強勢ナル一枝ヲ真直ニ誘引シテ他枝ヲ悉ク基部ヨリ剪去シ爾後ハ總ベテ第一區ト全一ノ手入ヲ成シタリ第三區ハ第二區ノ一枝ニ代フルニ二枝ヲ以テシ最初左右水平ニ誘ヒ本幹ヨリ各五寸(合計一尺)位距ルニ及ビ其頂端ヨリ上向セシ筭脚形ニ仕立テ其後ハ第二區ト全樣處理セリ又第四區ハ全ク摘心及摘芽セズ自然ニ放任シ各腋枝發生スルニ從ヒ悉ク之ヲ支柱ニ纏絡セシメタリ

一、生育狀況 大正三年度迄ハ品種試驗ト略ボ全樣ナリシモ大正四年度ハ露菌病ノ發生甚ダシキノミナラズ六月下旬ヨリ早魃ニ遭遇シ爲是當年ノ生産上多大ノ打撃ヲ被ムレリ

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三箇年平均收量
		本數	重量	本數	重量	本數	重量	
第一	單幹直立形	一、五九三	一、三六、七五〇	一、四三八	一、三〇、八七〇	一、一〇九	一、二五、四七〇	一、三三〇
第二	一回摘心單幹直立形	一、二六〇	一、三六、〇八〇	一、三〇八	一、三三、三九〇	九九〇	一、二五、四七〇	一、三三〇
第三	二本カンテラブル	一、三八〇	一、四〇、〇六〇	一、七六四	一、七四、九〇〇	九〇〇	一、〇一、八四〇	一、三三〇
第四	ブツシユ	一、四四〇	一、三〇、八八〇	二、〇二八	二、三三、八八〇	一、四二二	一、四二、〇八〇	一、三三〇

前表ニヨレバ第三第四兩區ヲ有望トスルニ似タレドモ第二區以下ハ顆實ノ初收穫期後ル、ヲ以テ假令收量ニ於テ增收ヲ見ルモ其利潤却テ少キヲ常トス殊ニ第二三兩區ハ整枝上非常ノ手數ヲ要スルノ不利アリ又第四區ハ枝蔓繁茂ニ失シテ病害ヲ醸シ易ク加フルニ顆實ノ形狀不整ニ陥リ易キヲ以テ第一區ヲ最モ適法ト認ム

三、肥料配合法試驗

- 一、目的 胡瓜ヲ栽培スルニ方リ一般農家ハ油粕ヲ主肥トシテ供用スルモノ、如シ仍テ本試驗ニ於テハ配合法ヲ異ニセル諸種ノ肥料ヲ施シ以テ油粕ト肥効ヲ比較セントス
- 一、供試品種 青大胡瓜
- 一、試驗區別

第一、標準肥料區 (人糞尿區)

肥料名	用量	原肥	追肥			窒素	加里	價額
			一回	二回	三回			
堆肥	一、三〇〇	一、三〇〇	—	—	—	—	—	〇、四七五
大豆粕	一、一〇〇	—	—	—	—	—	—	〇、二三八
人糞尿	一、〇〇〇	—	一〇、〇〇〇	—	—	—	—	〇、三三〇
精過燐酸石灰	〇、一〇〇	—	—	—	—	—	—	〇、二二〇
燐	—	—	—	—	—	—	—	—

第二、大豆粕區

肥料名	用量	原肥	追		
			一回	二回	三回
堆肥	三五,000	三五,000			
大豆粕	二,500	一,500			
人糞	三五,000		七,000		
精過磷酸石灰	〇,000	〇,000		九,000	
藥	三,000	一,000			九,000
價額					
空					〇,四五六
加					〇,二六三
里					〇,三七〇
酸					一,〇四七
素					

第三、油粕區

肥料名	用量	原肥	追		
			一回	二回	三回
堆肥	三五,000	三五,000			
油粕	三,000	二,500			
人糞	三五,000		七,000		
精過磷酸石灰	〇,100	〇,100		九,000	
藥	三,000	二,000			九,000
價額					
空					〇,四九九
加					〇,二五九
里					〇,三七二
酸					一,〇八〇
素					

第四、硫酸安母尼亞區

肥料名	用量	原肥	追		
			一回	二回	三回
大豆粕	一,100	一,100			
硫酸安母尼亞	一,100				
精過磷酸石灰	〇,500	〇,500		〇,200	
藥	三,500	一,500			〇,200
硫酸加里	〇,600		〇,100		
價額					
空					〇,四七〇
加					〇,三五六
里					〇,三三〇
酸					一,〇五三
素					

第五、智利硝石區

肥料名	用量	原肥	追		
			一回	二回	三回
堆肥	三五,000	三五,000			
大豆粕	一,100	一,100			
智利硝石	一,400		〇,400		
精過磷酸石灰	〇,500	〇,500		〇,500	
藥	二,500	一,500			〇,500
硫酸加里	〇,600		〇,100		
價額					
空					〇,四七〇
加					〇,三三〇
里					〇,三三〇
酸					一,〇五三
素					

第六、鯷粕區

肥料名	用量	原肥	追		
			一回	二回	三回
堆肥	三五,000	三五,000			
鯷粕	一,500	一,000			
人糞	二,000		七,000		
精過磷酸石灰	〇,100	〇,100		九,000	
價額					
空					〇,四七〇
加					〇,三五六
里					〇,三三〇
酸					一,〇五三
素					

肥料名	用量	原肥	追肥	回数	價額
硫酸加里	二貫	一貫	一回	一回	〇〇〇・一 <sup>円</sup>
菜灰	二貫	一貫	一回	一回	

一、生育狀況 大体整枝法試験ニ全シ  
 二、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三箇年平均收量	
		本數	重量	本數	重量	本數	重量	本數	重量
第一	標準肥料	一、三五	一、九 <sup>貫</sup> 、三六〇	一、四二	一、四〇〇、八〇	一、〇〇八	一、〇一〇、五〇	一、二九	一、二七、一 <sup>貫</sup> 、二〇
第二	大豆粕	一、七二	一、七六、六〇	一、七四三	一、七八、九一〇	一、一八一	一、一三、九〇〇	一、五四五	一、六、〇〇〇
第三	油粕	一、四五六	一、五七、三三〇	一、七六六	一、八五、九三〇	一、三三九	一、四四、四五〇	一、五七七	一、五、九〇〇
第四	硫酸安母尼亞	二、一四六	二、二八、二〇〇	一、七五七	一、七四、五七〇	一、三九七	一、三七、一〇〇	一、七六七	一、六、六〇〇
第五	智利硝石	一、五五五	一、五五、六八〇	一、六八五	一、六三、六九〇	一、二六	一、二二、三〇〇	一、四四三	一、四六、九〇〇
第六	鱈粕	一、七二八	一、九三、五三〇	一、五九八	一、六〇、九二〇	一、三三五	一、二五、〇〇〇	一、五五〇	一、五九、五〇〇

右表ニヨレバ三ヶ年ヲ通シテ硫酸安母尼亞區ノ收量高位ヲ占ム而シテ鱈粕區之ニ次グト雖モ第一、三、二兩區トノ差異僅少ナルヲ以テ肥料價格ヨリ見レバ收支相償フ第二區ニ劣ルト云フベシ品質ニ於テハ正ニ收量ト正比例シ第四及第六區ハ就中優良ナルニ似タリ要スルニ第四區ノ如キ肥料配合法ヲ講スルヲ

最モ有利ナリト認ム

●甜瓜

耕種梗概

- 一、待肥 豫テ準備セル麥圃中既定ノ株間ニ三月上中旬ノ交八九寸立方ノ植孔ヲ穿テ原肥ヲ投入シ土ト能ク混合セル後小高ク盛土セリ
- 一、播種 四月三十日(大正三年、四年二ヶ年共)
- 一、播種法 待肥ノ上ヲ均ラシ一株七八粒ノ割合ニ種子ノ尖端ヲ下向ニ挿入シ土表直下ニアラシメ尙ホ乾燥セル川砂ヲ丘上面ニ薄ク被ヒ更ニ發芽ヲ保護スルタメ藁帽子ヲ蔽ヒタリ
- 一、間引 大正三年ハ五月十八日、全廿五日、六月九日(大正四年ハ五月廿一日、六月一日、六月廿一日)ノ三回ニ分チテ間引ヲ行ヒ強健ナルモノ一株ヲ殘シタリ
- 一、畦幅 四尺
- 一、株間 三尺
- 一、肥料 (一畝當)



區名	品種名	熟期	種子之狀態	形	實	外皮ノ色澤	肉色	品質	強弱
第一	梨甜瓜	霜晚	淡大粒	長	大	乳白色	白	上	弱
第二	金甜瓜	早	淡大粒	長	大	黃色地ニ綠條斑有	淡黃綠	中	強
第三	銀甜瓜	晚	中粒	長	大	銀青	黃綠	中	強
第四	鳴子瓜	中	中粒	短	中	黃綠地ニ綠條斑有	淡綠	下	全
第五	天津子	晚	小粒	長	大	淡綠地ニ黑綠斑紋有	淡黃	最上	弱
第六	千成	早	小粒	卵形	小	淡黃	純白	上	強
第七	武成	早	乳白色	金甜瓜ニ全シ	大	淡黃	淡黃綠	中	強

備考 金甜瓜ト武士ハ全種異名ナリト認メラル、モ武士ハ一層強健ナリ

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三箇年平均收量	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	梨甜瓜	三四	一、九〇〇	三五	三、〇〇〇	一七、八四〇	二、六〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
第二	金甜瓜	三五	二、八五〇	三六〇	三、五九〇	二七、二六〇	三五〇	二八、二〇〇	二八、二〇〇
第三	銀甜瓜	一七	二、七八〇	三六八	三、七七〇	一五、九四〇	二三五	二二、五〇〇	二二、五〇〇
第四	鳴子瓜	一八〇	一、六〇〇	三九八	三、四四〇	二、五八〇	二八〇	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇
第五	天津子	九〇	九、六〇〇	三〇〇	三、四四〇	—	(2) 一九五	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇
第六	千成	二〇七	一四、三〇〇	八〇〇	三、六、六〇〇	四一六	一八、四二〇	四七八	二二、七三〇

右ノ成績ヲ見レバ年ニヨリ各品種共多少豊凶ノ差アリト雖モ平均收量ヲ案スルニ金甜瓜(武士ハ僅カ一年ナルヲ以テ姑ク措キ)ノ收量最高位ヲ占メ其他ハ殆ンド大同小異ナリ而シテ品質ニ於テハ天津梨甜瓜及ビ千成棗ヲ良好トナスモ天津ノ如キハ形狀醜惡加フルニ性虛弱ナルヲ以テ一般ノ栽培ニ適セズ又梨甜瓜ハ性質稍虛弱ナルモ品質優良世人ノ嗜好ニ適スルヲ以テ千成棗ト共ニ有望種タリ而シテ品質ハ此等ニ比シ遜色アルモ性強健收量饒多ナルハ金甜瓜及武士ニシテ亦種良タルヲ失ハズ

●南 瓜

耕種梗概

- 一、苗 床 茄子ニ全シ(但シ茄子ヨリ床温低カラシムルモノトス)
- 一、播 種 三月廿五日(兩年共)
- 一、播 種 量 一畝當五勺
- 一、床ノ坪數 五勺ノ種子ハ約〇、三坪ノ床面ニ播下セリ
- 一、種子豫措 形狀整正セルモノヲ撰別シ播種前一夜間微温湯中ニ浸漬シタリ



- 一、播種法 概略胡瓜ニ全シ
- 一、假植 四月十日(兩年共)
- 一、待肥 四月廿三日(但シ大正三年ハ五月一日)
- 一、定植 五月七日(大正三年)
- 一、畦幅 五月十五日(大正四年)
- 一、畦間 五尺
- 一、株間 四尺
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥		窒素	磷酸	加量	價額
			一回	二回				
堆肥	10,000	10,000			0.37			
大豆粕	1,000	1,000			0.16			
人糞	10,000				0.11			
精過磷酸石灰	0.500		1,000					1.00
葉灰	1,500	1,500						

- 一、追肥 五月廿八日、六月十四日(大正三年)
- 六月三日、六月廿一日(大正四年)
- 一、中耕土寄 全上

一、摘心 五月十八日各株共本葉五枚目ニテ摘心シ腋枝ノ發生スルヤ強健ナル四枝ヲ殘シテ其他ヲ基部ヨリ剪去シ各枝蔓ニ元花着生セシヲ以テ其受精花謝後顆實ノ茶椀大ニ發育セシ時其二節上ニテ再ビ摘心ヲ行ヒ其後亞枝ノ發生ヲ見バ結顆セル節及ビ之ニ隣レル節ヨリ伸長セシモノハ悉ク摘除シ落顆ヲ防グニ勉メタリ其他甲折部ヨリ發生セシ腋芽ハ其稍伸長スルヤ直ニ截去セリ

一、敷葉 甜瓜ニ全シ

一、其他ノ手入 病蟲害ノ豫防驅除ハ總ベテ甜瓜ニ準ジ各枝蔓節間ヨリ生ズル根ハ悉ク切斷シ以テ枝蔓ノ徒長及ビ顆實ノ落果ヲ防ギタリ

一、品種試驗 (大正三年度ニテ完結)

一、目的 各種ノ南瓜ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ノ優劣ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品名	種名	原產地	區名	品名	種名	原產地
第一	菊座	座座	東京	第五	早生	早生	東京
第二	縮緬	縮緬	全	第六	名古屋	名古屋	愛知
第三	鹿ヶ谷	鹿ヶ谷	京都	第七	須賀	須賀	神奈川
第四	三毛門	三毛門	福岡	第八	ハツバード	ハツバード	米國

一、生育狀況 生育良好特記スルコトナク近年稀ナル豊作ヲ得タリ  
一、特性 (大正三年度調査)

區名	品種類名	熟期	四本枝蔓ノ第一雌化着節數(平均)		實之	部	品質
			外皮ノ狀態	大小			
第一	菊座	早	五	扁圓	皺縮少ク縱溝深シ	稍小	赤 褐
第二	縮座	中	四	扁圓	皺縮多ク縱溝稍深シ	中	全
第三	鹿ヶ谷	晚	六	扁圓	皺縮中縱溝淺シ	大	全
第四	三毛門	中	四	扁圓	皺縮無ク縱溝淺シ	全	黃褐地ニ淡褐斑紋
第五	早生	最早	三	扁圓	皺縮少ク縱溝深シ	小	赤 褐
第六	名古屋	稍晚	五	扁圓	皺縮多ク縱溝中	大	赤 褐地ニ青條斑
第七	須賀	晚	七	全	皺縮多大縱溝中	全	赤 褐
第八	ハツバード	全	五	短紡綫	皺縮縱溝共ニ無シ	全	濃綠地ニ黑條斑アリ

一、收量 (一畝當)

區名	品種類名	大正元年度		大正二年度		大正三年度		三ヶ年平均		大正三年度採收期
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	
第一	菊座	一四	四九、六八〇	一六八	五、八四〇	二六四	七、九六八	一五二	六、一五九	自七月二十日 至九月八日
第二	縮座	八	四、七三〇	六	四、六四〇	二〇四	六、八三六	二八	五、三三九	全

區名	品種類名	大正元年度		大正二年度		大正三年度		三ヶ年平均		大正三年度採收期
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	
第三	鹿ヶ谷	五	四、九〇〇	六	四、一五〇	一三五	六、八八八	八六	五、六八九	自七月廿四日 自九月八日
第四	三毛門	五	四、一八〇	一〇二	五、六〇〇	一五〇	七、五〇〇	一〇三	五、九四六	自七月二十日 自九月八日
第五	早生	四	五、一一〇	一七四	四、五三〇	二四〇	七、七四〇	一八六	五、六九〇	全
第六	名古屋	四	三、〇〇〇	六〇	四、七、一九〇	一六	八、九〇〇	九〇	五、〇五五	全
第七	須賀	一	一	七	六、四、五〇	二六	九、六七六	二〇	八、五二四	自七月廿四日 自九月八日
第八	ハツバード	三六	三、〇〇〇	四八	四、八三〇	二二	一〇、九三九	七六	三、四三六	自七月三十日 自九月八日

右表ニヨレバ平均收量ノ饒多ナルハ須賀「ハツバード」及ビ菊座ノ三種ニシテ三毛門、早生、名古屋ノ三種互ニ相伯仲シテ之ニ亞ギ縮座及ビ鹿ヶ谷ノ二種最低位ニアリト雖モ「ハツバード」ノ如キハ大正三年度ニ於テ異例ノ收量ヲアゲタルヲ以テ平均收量上位ニ至リシモノニシテ本種ハ形狀醜惡世人ノ嗜好ニ投セザルヲ以テ鹿ヶ谷ト共ニ經濟的栽培ニハ不利益ナラン而シテ須賀南瓜ハ形狀偉大栽培容易ニシテ收量亦最高位ニ在リト雖モ品質不良且ツ顆面ノ瘤(皺縮)過大ナルヲ以テ世人ノ嫌忌ヲ招キ是亦有望ト云フベカラズ總ジテ南瓜ハ徒ニ收量ノ多額ナルヲ以テ強チ利益多シト謂フ能ハズ須ク品質優良ニシテ形狀世人ノ嗜好ニ適スルモノタラザルベカラズ此目的ニ向テ有望ナルハ縮座及ビ菊座ノ二種ニシテ名古屋之ニ亞グ而シテ早生、南瓜ハ形狀矮小ニ失スルモ早時ノ採收ニ適シ都會附近ノ栽培ニ供サバ蓋シ有利ナラン其他三毛門ハ顆面滑澤一般人士ノ喜バザル所ナリト雖モ栽培容易ニシテ收量不少加フルニ貯藏運搬ニ堪ユルヲ以テ輸出向栽培品種トシテ有望ナリ本縣古河町附近ニ栽培スル俗稱「ベッコ」ナル南瓜ハ三毛門種ニシテ盛ニ東北地方ニ搬出シツ、アリ

二、肥料配合法試験

- 一、目的 南瓜栽培上最モ有利ナル肥料配合法ヲ知ラントスルニアリ
- 一、供試品種 縮緬
- 一、試験區別

第一、標準肥料 (人糞尿區)

肥料名	用 量	原 肥	追 肥	
			一 回	二 回
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
人糞尿	50,000	1,000	1,000	15,000
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	2,500	1,500	1,000	
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	0,500	0,500		
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	2,500	1,500	1,000	

第二、大豆粕區

肥料名	用 量	原 肥	追 肥	
			一 回	二 回
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	0,500	0,500		
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	0,500	0,500		
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	0,500	0,500		

第三、油粕區

肥料名	用 量	原 肥	追 肥	
			一 回	二 回
堆肥	10,000	10,000		
油粕	2,000	2,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	2,500	1,500	1,000	
堆肥	10,000	10,000		
油粕	2,000	2,000		
人糞尿	18,000	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,500	0,500		
藥 灰	2,500	1,500	1,000	

第四、硫酸安母尼亞區

肥料名	用 量	原 肥	追 肥	
			一 回	二 回
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
硫酸安母尼亞	0,850	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,650	0,650		
藥 灰	2,500	1,500	1,000	
堆肥	10,000	10,000		
大豆粕	1,000	1,000		
硫酸安母尼亞	0,850	1,000	0,500	
精過磷酸石灰	0,650	0,650		
藥 灰	2,500	1,500	1,000	

第五、鹽粕區

肥料名	用 量	原 肥	追 肥
堆肥	10,000	10,000	
鹽 粕	10,000	10,000	
硫酸加里	0,100		0,100

肥料名	用	量	追肥		總素	價
			一回	二回		
鹽粕		一、四三〇	〇、八三〇	〇、〇〇〇	〇、三二七	〇、三二七
人糞		一、八、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、二六七	〇、二六七
精過磷酸石灰		〇、二、三〇〇	〇、二、三〇〇	〇、〇〇〇	〇、三三三	〇、三三三
藥		三、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

第六、米糠區

堆肥	米糠	人糞	藥	硫酸加里	追肥		總素	價
					一回	二回		
〇、〇〇〇	四、〇〇〇	二、七〇〇	一、〇〇〇	〇、一、一〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、三三七	〇、三三七
二、〇〇〇	二、五〇〇	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、一、一〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、二六八	〇、二六八
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、一、一〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、二六八	〇、二六八
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、一、一〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、二六八	〇、二六八

一、生育狀況 大正三年度迄ハ品種試驗ト略ボ其揆ヲ一ニスルト雖モ大正四年度ハ稀有ノ旱魃ニ際會シ爲是全年ノ收量ニ甚大ノ打撃ヲ被ムレリ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三個年平均收量	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	標準肥料區	一七四	四八、六五〇	一九二	六四、三六〇	八四	四三、三四〇	一五〇	五三、七九〇

第	區	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三個年平均收量	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第二	大豆粕區	一四二	四八、六五〇	一六三	六三、二四〇	九六	四八、九七〇	一三四	五三、二九〇
第三	油粕區	一五六	五九、一六〇	一九八	七四、二四〇	七六	四三、三三〇	一四四	五八、八四〇
第四	硫酸安母尼亞區	一三八	四八、四九〇	三三六	七、七〇〇	一〇八	六四、三〇〇	一五四	六、四四〇
第五	鹽粕區	一三八	五九、六六〇	一九二	六四、七九〇	二四	六〇、四九〇	一四八	六〇、三三〇
第六	米糠區	一	一	二〇四	七八、二一〇	九六	六〇、四四〇	一五〇	六九、三三〇

前表ニヨレバ米糠區ノ收量最高位ヲ占メ硫酸安區及ビ鹽粕區之ニ亞ギ標準肥料區最低位ニアルヲ知ル而シテ品質ニ於テハ累年其質ヲ異ニシテ殆ンド揆一スル所ナキニ似タレドモ油粕區ノ風味就中佳良ナルガ如シ然レドモ油粕區ハ肥料ノ價額甚ダ不廉ニシテ且收量亦高位ニアラザルヲ以テ第六米糠區ノ如キ肥料配合法ヲ講スルヲ寧ロ適法トナスニ似タリ

西瓜

耕種梗概

一、待肥 豫定セル圃地麥隴中既定ノ位置ニ大正三年ハ三月二日、大正四年ハ三月十二日原肥ヲ施シ土ト克ク混合シ小高ク盛土シ置ケリ

一、播種 大正三年ハ四月十七日、大正四年ハ四月廿二日温床中ニ鉢播シ全三十日發芽揃ヒシ所ヲ靜ニ本圃ニ移植シ爲念五月上旬更ニ追播シタリ

一、間引 大正三年ハ五月十八日、全廿五日、六月九日、大正四年ハ五月廿五日、六月一日  
 六月十六日ノ三回ニ間引キ最モ強勢ナルモノヲ一株一本立トナシタリ

一、畦幅 六尺

一、株間 五尺

二、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥		窒素	磷酸	加里	價額
			一回	二回				
堆肥	三、〇〇〇	三、〇〇〇	!	!	〇、四八	!	!	!
大豆粕	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、七〇	!	〇、三三	!	!	!
人糞尿	二、五〇〇	!	!	!	〇、三三	!	!	!
精過磷酸石灰	〇、六〇〇	〇、六〇〇	!	!	!	!	!	!
葉灰	二、八〇〇	二、〇〇〇	〇、八〇〇	!	!	!	!	!

一、追肥 大正三年ハ六月二日、六月廿二日、大正四年ハ六月五日、六月廿七日

一、中耕土寄 全上

一、敷藁 六月上旬及下旬ノ二回ニ行ヒ全圃ニ敷設シタリ

一、手入 西瓜ハ幼苗中摘心ヤラル、ヲ好マザルモノナレバ摘心ハ一切施スコトナク唯結果セル節ヨリ發生スル側芽ハ勉メテ除去シ以テ其落果ヲ防ギ又時々花粉ノ媒助ヲ爲シ其他病蟲害ノ豫

防驅除ハ甜瓜ト全様怠ラズ行ヒタリ

一、收穫 西瓜ハ花謝シテ三十五日(早生)乃至四十日(晩生)ヲ經過スレバ果肉既ニ成熟シテ採收シ得ルモノナレバ一番成ニハ花粉媒助日數ヲ記シタル寒冷紗札ヲ果梗ニ貼付シテ採收期ヲ過マラザラシメ其後ハ結果部ノ卷鬚稍々枯色ヲ呈スルヲ度トシテ收穫シタリ

一、品種試驗

一、目的 内外數多ノ西瓜ヲ蒐集栽培シテ其生育狀態收量及ビ品質等ヲ比較研究シ以テ優良ナル品種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品名	種名	原產地	區名	品名	種名	原產地
第一	赤早生		内地	第六	ハルバアト、ナチー		米國
第二	アイス、グリーン		米國	第七	トム、ソトソン		全
第三	マウンテン、スキー		全	第八	プリンセス		ルウマニヤ
第四	スリート、サイベリアン		露國	第九	スリート、ハート		米國
第五	コールス、アロー		米國	第十	黒部		富山

一、生育狀況 大正三年度ハ發育頗ル良好ナリシモ大正四年度ハ早魅ノタメ落果甚タシク爲是其收量及ビ成熟期ニ著シキ變動ヲ來セリ

一、特 性

區 名	品 種 名	熟 期	元花附著 節數(雌花)	葉ノ 大小	種 子		外 皮 ノ 色		部 部		品 質
					種 子	類 形	厚 薄	肉 色			
第 一	赤 早 生	早	九一六	小	中	球 大形	淡 黃 綠	稍 厚	鮮 紅	中	
第 二	アイス、クリーム	稍 早	一〇一八	中	中	全 大形	淡 綠 地ニ 綠	全 上	淡 紅	上	
第 三	マウンテン、スキー	中	一五二五	稍 小	中	網 綠 地ニ 濃	淡 綠 地ニ 濃	全 上	鮮 紅	中	
第 四	ス井冈山、サイベリアン	稍 早	一四一八	中	中	深 綠 地ニ 濃	深 綠 地ニ 濃	最 薄	黃 紅	上	
第 五	コールス、アーリー	稍 晚	一六一四	全	大	深 綠 地ニ 濃	深 綠 地ニ 濃	稍 厚	淡 紅	下	
第 六	ハルバート、チネー	最 晚	二二一六	大	中	長 楕 圓	長 楕 圓	稍 薄	鮮 紅	最 上	
第 七	トム、ワトソン	最 晚	一五一六	全	大	長 楕 圓	長 楕 圓	全 上	鮮 紅	上	
第 八	プリンセス	稍 早	一五一九	小	中	球 大形	全 上	薄	紅	中	
第 九	ス井冈山、ハート	稍 晚	一七一六	大	中	長 楕 圓	全 上	厚	全 紅	下	
第 十	黒 部	晚	一七一六	大	中	長 楕 圓	全 上	稍 薄	淡 紅	中	

一、收 量 (一畝當)

區 名	品 種 名	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三個年平均收量	
		個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量
第 一	赤 早 生	七〇	七、二八〇	八七	九、二七〇	六五	六、〇八〇	七四	八、一五〇
第 二	アイス、クリーム	六五	七、一〇〇	六二	八、九六〇	六〇	六、三三〇	六三	七、四八〇

區 名	品 種 名	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三個年平均收量	
		個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量
第 三	マウンテン、スキー	一〇一	八、九七〇	一〇一	一三、三三〇	一三〇	一七、七四〇	一〇八	一三、三三〇
第 四	ス井冈山、サイベリアン	一三五	九、〇〇〇	九二	八、〇六〇	一〇五	七、九三〇	一〇七	八、五一〇
第 五	コールス、アーリー	八四	七、四〇〇	八三	九、八六〇	八五	八、五五〇	八四	八、六二〇
第 六	ハルバート、チネー	七〇	五、八三〇	一一二	一三、三七〇	一〇一	八、七二〇	九二	九、〇七〇
第 七	トム、ワトソン	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	九	一、〇〇〇	九	一、〇〇〇
第 八	プリンセス	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇
第 九	ス井冈山、ハート	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇
第 十	黒 部	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇

前表ニヨレバ年ニ依リ多少豊凶アリト雖モ三個年ヲ通ジテ收量ノ饒多ナリシハ「マウンテン、スキー」ニシテ平均收量遙ニ他品種ヲ凌グリ而シテ「トム、ワトソン」及ビ「ハルバート、チネー」ノ二種之ニ次ギ「アイス、クリーム」ノ收量最モ劣ルト雖モ西瓜ハ徒ニ收量ノ多キヲ以テ貴シトスベカラズ其品質及ビ熟期亦大ニ重ヲナス而シテ此点ニ於テ有望ナルハ赤早生「アイス、クリーム」及ビ「ス井冈山、サイベリアン」ノ三種ニシテ「ハルバート、チネー」及ビ「トム、ワトソン」ノ二品種ハ品質良好ナルモ極メテ晩生ナルハ一ノ缺點トス其他品質前諸種ニ稍々遜色アルモ收量多ク且ツ栽培容易ナルハ「マウンテン、ス井冈山」ナリ

●菜豆

耕種梗概

- 一、整地 播種前鍬ニテ町疇ニ耕耘均平セリ
- 一、播種 五月一日(兩年共) 一畝當四合
- 一、播種量 既定ノ畦幅ニ作條ヲ設ケ無肥料ニテ一株四五粒宛ニ點播シ四五分ノ厚サニ被土セリ
- 一、間引及補植 大正三年ハ五月廿二日、大正四年ハ五月十八日一株二本立トセリ
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺二寸
- 一、肥料 (一畝當)
  - 堆肥 一五〇〇〇
  - 人糞 一〇、〇〇〇
  - 精造燐酸石灰 〇、三〇〇
  - 灰 一、五〇〇

肥料名	用	量	室	素
堆肥		一五〇〇〇	價	〇、一四〇
人糞		一〇、〇〇〇	加	〇、一五〇
精造燐酸石灰		〇、三〇〇	里	〇、一七〇
灰		一、五〇〇	額	〇、四四三

- 一、施肥 五月廿二日(兩年共)
- 一、中耕 五月廿二日、六月六日(兩年共)

- 一、支柱建 六月四日(兩年共)
- 一、敷藁 六月十六日(大正三年) 六月廿二日(大正四年)
- 一、手入 病害豫防ノタメニ回藥劑ヲ撒布シタリ

一、品種試驗 (大正三年度ニテ完結)

一、目的 軟莢用菜豆ニ供セントタメ廣ク各品種ヲ蒐集栽培シ其收量及ビ品質ヲ比較シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	アトリエスト、ヤヤイアント	米國	第七	アリコ、ボーレ	佛國
第二	ストリンケレス	全	第八	デユ、モン、ドール	米國
第三	ロンケ、フエロウ	全	第九	ケンタツキ、ウオング	全
第四	パオンチフル	英國	第十	(一名、オールド、ホームステッド)	全
第五	ヌ、アル、アルトラ	英國	第十一	エキストラ、アーリー	內地
第六	イムブルーアト	米國		シツクス、ウヰーク	北海道
	ゴールデンワックス	臺灣		巨大尺五寸	
	臺灣大莢	臺灣			

一、生育狀況 第七區「アリコ、ボーレ、デユ、モン、ドール」ハ種蠅幼蟲ノ蝕害ヲ被ムリテ大半發芽セザリシタメ大正三年度ハ之ヲ試驗ニ加ヘズ、尙ホ六月下旬ヨリ各種ヲ通ジテ炭疽病ノ發生ヲ見シ

ヲ以テ直ニ豫防法ヲ行ヒ之レヲ防止セリ  
一、特 性

區名	品 種 名	色 澤	種 子 之 部	形 狀	蔓 有 無	花 色	莢 形 狀	莢 之 色 澤	部	品 質	熟 期
第一	アーリーエスト グライアント ロングフェロウ	濃黄 紫色地 紫斑	中	楕圓	無	白地 微紫 紫斑	細長	綠	中	軟	稍上
第二	バオンチフル	淡黄	稍大	扁楕圓	全	第一 白	扁直	淡綠	大	稍軟	中
第三	ヌ、ブル、アルトラ	濃黄	中	楕圓	全	全	扁直	綠	中	稍硬	全
第四	イムブルーアド ゴールドテンソックス	白色地 淡紫斑	全	全	全	全	細直	黃綠	全	軟	全
第五	臺灣大莢	濃紫斑	全	長楕圓	有	全	扁直	綠	大	全	全
第六	アリコ、ボーレ デユ、モン、ドール	茶 褐	全	短楕圓	全	紫紅	細直	綠	中	全	中
第七	ケンタツキ ウオンダー	全	小	長楕圓	全	白	細直	綠	中	全	全
第八	エキストラ、アーリー シックス、ウヰーク	乳 白	大	扁楕圓	全	全	細長	全	大	稍硬	稍上
第九	大莢白菜豆	灰 褐	中	長楕圓	全	全	狀長	全	大	稍硬	晚
第十	巨大尺五寸										
第十一	巨大尺五寸										

一、收 量 (一畝歩)

區 名	品 種 名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	三ヶ年平均	大正三年度 採收期
第一	アーリーエスト、グライアント、ストリンダレス	一五、八〇	二一、四〇	三三、九〇	一六、六六八	自六月廿二日 至八月六日

第 二	第 三	第 四	第 五	第 六	第 七	第 八	第 九	第 十	第 十 一
ロンガフェロウ	バオンチフル	ヌ、ブル、アルトラ	イムブルーアド ゴールドテンソックス	臺灣大莢	アリコ、ボーレ デユ、モン、ドール	ケンタツキ ウオンダー	エキストラ、アーリー シックス、ウヰーク	大莢白菜豆	巨大尺五寸
11,000	8,800	19,800	10,100	—	8,300	3,150	20,300	21,200	33,100
10,700	11,700	—	—	18,300	—	17,200	19,700	21,600	22,700
21,025	10,995	17,100	—	5,800	—	28,430	28,395	34,435	29,620
14,258	14,000	18,450	10,300	(4) 25,350	(5) 25,207	29,000	33,938	29,783	34,833
全	全	全	全	自七月七日 至八月六日	自七月七日 至八月六日	自七月四日 至八月六日	自七月六日 至八月六日	自七月六日 至八月六日	自七月六日 至八月六日

備考 表中(1)(2)(4)トアルハ試験ノ回数ヲ示スモノニシテ之ナキモノハ三ヶ年ノ平均收量ナリ

以上ノ事實ヲ綜合スルニ無蔓種中收量品質共ニ優レタルハ「アーリーエスト、グライアント、ストリンダレス」及ビ「ロングフェロウ」ノ二種ニシテ品質稍劣ルモ收量ノ饒多ナルハ「ヌブルアルトラ」ナリ一般ニ無蔓種(矮性種)ハ有蔓種ニ比スルニ收量著シク少キノ短所アレドモ性早生ナルヲ以テ價額不廉收利少カラズ加フルニ支柱ヲ建立スルノ要ナキヲ以テ却テ利潤多シトス而シテ蔓生種中收量品質共ニ卓越スルハ臺灣大莢「ケンタツキ、ウオンダー」巨大尺五寸及ビ「アリコ、ボーレ、デユ、モンドール」ノ四種ニシテ就中品質ノ最モ良好ナルハ「アリコ、ボーレ、デユ、モン、ドール」ナリト雖モ該種ハ性稍々虚弱ニシテ殊ニ種蠅幼蟲ノ侵害ヲ被リ易キヲ以テ該蟲多キ土地ハ寧ロ臺灣大莢及ビ「ケンタツキ、ウオ



ンダー」ノ如キ性質強健收量多ク加フルニ品質優良ナル品種ヲ選ブノ安全ナルニ如カズ大莢菜豆ハ栽培容易收量亦饒多ナルモ莢部巨大ニ失スルノミナラズ品質劣等ニシテ市場ニ歡迎セラレズ

### ●菜豆

#### 耕種梗概

- 一、整地 菜豆ハ乾燥地ニ於テ發芽著シク不良ナルヲ研知シ得タリシヲ以テ秋季叮嚀ニ整地ノ上發芽生育保護ノ目的ニテ豫メ大麥ヲ二尺畦ニ播種シ置キタリ
- 一、播種 五月一日(兩年共)
- 一、播種量 一畝當約一升
- 一、播種法 豫テ準備セル麥隴中ニ既定ノ株間ニ一株四五粒宛ニ播種シ五六分ノ厚サニ被土シタリ但シ鳥鼠害豫防ノタメ薄ク「コールタル」ヲ種子ニ塗付セリ
- 一、間引及補植 大正三年ハ五月廿二日、大正四年ハ六月一日
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺五寸
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用	量	厚	肥	二	委	肥
堆肥		15,000		15,000			0.15
人糞		10,000					0.15
精過磷酸石灰		0,300		0,000		10,000	0.15
葉灰		1,500		1,500			0.15
							0.15

### 一、品種試驗

一、目的 各品種ヲ蒐集栽培シ以テ本縣ノ風土ニ適スルヤ否ヤヲ驗セントス

#### 一、試驗區別

區名	品名	區名	品名
第一	ピース、アツシユ、ライマ	第一	アーヴィー、レピヤサン、ボール
第二	ニュー、ウオンダー、アツシユ、ライマ	第二	アイデヤル
第三	英國ライマ	第三	カリフォルニア、ライマ

一、生育狀況 大正二年ハ蝶蝸及ビ種蠅ノ蝕害ヲ被ムリ發芽不良殊ニ第二及四ノ兩區ハ甚シカリシタメ該區ノ試驗ヲ廢止シタリ大正三年ハ發芽良好ナリシモ八月中下旬暴風雨ニ數回遭遇シテ倒伏セシヲ以テ直ニ應急ノ策ヲ講セシモ爲是收量上ニ多少影響ヲ來セリ、大正四年ハ斑葉病及菌核病等發生セシヲ以テばるとい合劑及ビ硫黃華ヲ撒布シテ之ヲ防止セリト雖モ爲是生育不良收量ニ減耗ヲ

來セルモノ、如シ  
一、特 性

區 名	品 種 名	種 子 之 部 狀	莖 之 有 無	花 色	莢 之 部 狀 色 澤				
第一	ピース、アツシユ、ライマ	乳白地ニ 淡青色	大	短極形	無	白	廣 扁	綠	大
第二	ニュー、ウオランダ アツシユ、ライマ	全 上	全	極平	全	白	全	綠	大
第三	英國 ライマ	淡地ニ 紫褐色	小	短粗厚	有	淡紫	全	全	全
第四	アーリー、レピヤサンポール	乳白青 味少シ	中	扁形	全	紅	細長丸シ	淡紫褐	小
第五	アイテヤル	全 上	全	平扁	全	白	廣 扁	綠	大
第六	カリフォルニヤ、ライマ	全 上	全	上	全	全	全	全	全

備考 莢部ノ特性ハ未熟時種子ハ乾實ノ調査ナリ又品質ニ於テハ軒輕甚ダ少ク唯英國ライマ最モ劣等ナリ

一、收 量 (一畝當)

區 名	品 種 名	大正二年	大正三年	大正四年	三ヶ年平均收量
第一	ピース、アツシユ、ライマ	四、八〇	五、六〇	四、八四	五、〇九
第二	ニュー、ウオランダ アツシユ、ライマ	—	四、九〇	四、二八	(1) 四、六三 (2) 一、三六六
第三	英國 ライマ	九、七七	二、〇七	九、〇〇	六、九五

前表ニヨレバ第三英國ライマノ收量最高位ヲ占メ第六「カリフォルニヤ、ライマ」及ビ第五「アイテヤル」之ニ順次シ第四「アーリー、レピヤサンポール」最低位ニ在リ而シテ品質ニ於テハ英國ライマ最モ不良トス本縣ノ氣候ハ一般ニ菜豆莢實ノ成熟期ニ際シ降雨多ク爲ニ熟期不揃同一品種中先熟ノモノハ莢中發芽ヲ來スガ如キコトアルヲ以テ完全ニ菜豆ノ栽培ヲ望ムハ困難ナリ

二、播種期試験

- 一、目的 菜豆栽培上播種ノ適期ヲ驗知セントス
- 二、供試品種 カリフォルニヤ、ライマ
- 三、試験區別

區 名	豫 定 播 種 期	實 施 播 種 期
第一	四月上旬(温床中ニ播種五月 中旬本圃定植ス)	四月十日(大正三年) 四月五日(大正四年)
第二	五月初旬(直 播)	五月一日(兩年共)
第三	五月中旬(直 播)	五月十四日(大正三年) 五月十五日(大正四年)

備考 第一區ノ本圃移植日ハ大正三年ハ五月十八日、大正四年ハ五月十三日トス

一、收 量 (一畝當)

區 名	試 驗 區 別	大正三年		大正四年		二ヶ年平均	
		容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量
第 一	移 植 區	10.3	3.3	7.5	2.9	8.9	2.8
第 二	五 月 上 旬 播	5.3	1.6	6.6	0.5	6.0	1.8
第 三	五 月 中 旬 播	6.8	2.2	7.6	2.4	7.2	2.3
		平均一斗重量		平均一斗重量		平均一斗重量	
		0.3		0.3		0.3	

右表ニヨレバ一旦温床中ニ播種育苗ノ後本圃ニ移植セシモノ、收量最モ多シト雖モ其手數頗ル煩雜ナルヲ以テ勞力ノ多寡ニヨリ大ニ考慮ヲ要スベキ問題トス次ニ五月中旬播ハ二ヶ年共五月上旬播ニ比シ成績優良ナルヨリ察スレバ直播ノ場合ハ殊更早播ノ必要ナキモノ、如シ

- 一、施 肥 兩年共四月十五日(原肥) 六月一日(大正四年ハ六月十日)
- 一、中 耕 六月一日(麥刈後) 六月六日(大正四年ハ六月十日、六月十六日)
- 一、支 柱 建 六月四日有蔓種ニノミ支柱ヲ建立セリ
- 一、敷 葉 大正三年ハ六月十六日、大正四年ハ七月七日
- 一、手 入 菜豆ト全シク炭疽病ノ發生ヲ來セシヲ以テ硫黃華撒布或ハ石灰ボルドウ合劑等ヲ灌注豫防シタリ
- 一、收 穫 莢實乾枯セシモノヨリ順次採收シ乾燥シテ脱粒セリ

●葱 頭

耕 種 梗 概

- 一、苗 床 日當良好ナル畑地ヲ選ビテ耕耘シ土壤ヲ充分細碎シタル後幅四尺長サ適宜ノ冷床ヲ東西ニ長ク設ケテ地上三四寸ニ盛り上ゲ苗床十坪ニ付完熟堆肥二十五貫匁、精過磷酸石灰四五百匁、糞灰一貫匁餘ヲ投ジテ十分土ト混合シ然ル後人糞尿十貫匁餘ヲ表面ニ撒布シテ播種ノ準備ヲナセリ
- 一、播 種 種 九月十五日(二個年共)
- 一、播 種 量 一畝當六匁
- 一、播 種 法 苗床ノ整地ヲ了ヘテヨリ數日後ニ床面ヲ「レーキ」ニテ能ク搔キ均ラシ約五寸ノ間隔ニ眞直ナル板ヲ以テ二分餘ノ深サニ播條ヲ設ケ其中ニ密ニ失セザル様條播シ薄ク被土ヲ行ヒ表面ヲ輕壓シ尙ホ撒水シテ覆葉ヲ施シタリ
- 一、苗床ノ手入 發芽ヲ催サバ覆葉ヲ除キ發芽揃後苗ノ二寸内外ニ生育シタル時ニ一回密生部ヲ間引キ尙ホ一回苗ノ三四寸ニ伸長セル時間引ヲ行ヒ兩年共十月五日十月十七日ノ二回ニ分チテ稀釋セラル人糞尿ヲ施用シ以テ其發育ヲ扶ケタリ其施肥量ハ苗床十坪ニ付合計人糞尿十貫匁トス
- 一、苗床ノ坪數 六匁ノ種子ヲ約二坪半ノ床面ニ播下セリ
- 一、定 植 大正三年度ハ三月六日、大正四年度ハ十一月十三日

一、定植法 豫テ耕耘施肥シ置キタル畑地既定ノ位置ニ發育良好ナル苗ノミヲ撰ビテ葉根共ニ全長ノ約三分ノ一ヲ切り去リ稍淺目ニ眞直ニ植付ケタリ

一、畦幅 一尺五寸  
 一、株間 五寸  
 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	追肥			價額
		一回	二回	三回	
堆肥	30,000	10,000			0.002
大豆粕	1,500				0.000
人糞尿	30,000	10,000			0.000
精過磷酸石灰	0,500	0,500			0.000
木灰	1,100				0.000

一、施肥 十二月五日(原肥) 三月十七日、四月廿二日 (大正三年)  
 九月十六日(原肥) 十二月九日、三月十六日、四月廿三日 (大正四年)  
 一、中耕 三月十七日、四月廿二日、五月五日 (大正三年)  
 十二月九日、三月十六日、四月廿三日 (大正四年)  
 一、手入 五月中旬、六月上旬ノ二回ニ球ノ周圍ヲ搔土シテ常ニ球ノ半バ以上ヲ地上ニ露出スルニ勉メ尙ホ五月下旬、六月中旬ノ二回ニ根頭部ヲ輕ク捻曲シテ球ノ肥大生長ヲ促シタリ  
 一、收穫 大正三年ハ七月三日、大正四年ハ七月八日莖葉ノ枯凋セシヲ見計リ採收シ頭部ヲ

二寸餘殘シテ切り去リ秤量ノ後二三日陽乾セリ

一、品種試驗

一、目的 各種ノ葱頭ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ノ優劣ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	在來黃色種	內地	第五	エロウ、グロリア、タンパース	米國
第二	在來赤色種	全	第六	シルバ、スキン	伊國
第三	在來白色種	全	第七	(一)名、ホワイホルチユガル レッド、ウキザース	米國
第四	ブライズ、テーカー	米國		フ井ールド	米國

一、生育狀況 大正三年度分ハ「ブライズ、テーカー」「シルバ、スキン」及ビ「レッド、ウキザース」「フ井ールド」ノ三種々子延着ノタメ播種期遅レ從ツテ生育不良ナリキ又大正四年度分ノ在來黃色種及ビ「ブライズ、テーカー」ノ二種他種ヨリモ發芽生育稍不良ナリシモ其後々種ハ生長ヲ恢復シタリ總シテ當年冬季ハ寒氣烈シカリシタメ成熟期ニ際シ抽花スルモノ甚ダ多キヲ加ヘタリ

一、特性

區名	品名	熟期	球ノ形状	球ノ外皮	球ノ大小	肉質及肉色	品質
第一	在來黄色種	早	扁圓	黄褐	中	稍密、白ニ	中
第二	在來赤色種	全	全	赤褐	大	稍粗、紫ニ	下
第三	在來白色種	中	全	白	全	微紫、白	上
第四	ブライズ、テーカー	晩	稍圓	黄褐	全	最密、白ニ	全
第五	エロウ、グローブ、タンバース	全	全	全	稍大	密、白ニ	上
第六	シルバー、スキン	全	扁圓	白	大	純最密	極上
第七	レッド、ウキザース、フ井ールド	中	全	紫赤	全	紫稍粗、白	中

一、收量 (一畝當)

區名	品名	大正三年度		大正四年度		二個年平均	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	在來黄色種	一、四六七	四、三六〇	一、三六〇	二、六九〇	一、四二四	三、四七〇
第二	在來赤色種	一、四六七	四、八〇〇	一、三七〇	三、五五〇	一、四一九	四、一七五
第三	在來白色種	一、四六七	四、九八〇	一、四二〇	二、三八〇	一、四四四	三、九〇〇
第四	ブライズ、テーカー	一、三七三	三、八二〇	一、三八〇	四、〇五〇	一、三七七	四、一三〇
第五	エロウ、グローブ、タンバース	一、四〇五	四、四〇〇	一、三五〇	四、二六〇	一、三七八	四、五三〇
第六	シルバー、スキン	一、三九五	三、八九〇	一、三八〇	四、六二〇	一、三八八	四、二六〇
第七	レッド、ウキザース、フ井ールド	一、三七三	三、七三〇	一、三八〇	四、六二〇	一、三七三	四、三三〇

二、直播對移植試驗

一、目的 本試驗ニ於テハ直播移植ノ利害ヲ明ニセントス

一、供試品種 在來黄色種

一、試驗區別

第一、直播法ニ倚ル(豫テ準備セル圃地ニ既定ノ畦幅ニ作條ヲ穿テ原肥ヲ施シ少シク覆土シテ種子ヲ一様ニ條播シ更ニ細碎シタル土ヲ篩ヒカケ乾燥ヲ防グタメ藁ヲ蔽ヒ發芽後直ニ除藁セリ又床播ト同様ニ回許リ間引ヲ行ヒ其儘越年セシメ翌春三月十二日五月一日ノ二回ニ分テ更ニ間引ヲ行ヒテ株間ヲ一定シタリ)

第二、移植法ニ倚ル(耕種梗概ニ準ズ)

一、生育狀況 大正三年度ハ直播區ノ生育良好ナリシニ反シ全四年度ハ直播區ノ生育特ニ不良ナリキ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正三年度		大正四年度		二個年平均	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	直播法ニ倚ル	一、四八〇	五、四七〇	一、四〇〇	三、〇二〇	一、四四〇	三、八八五
第二	移植法ニ倚ル	一、四八〇	五、四〇〇	一、四〇〇	三、七〇〇	一、四四〇	三、八八五

### 三、平畦對揚畦比較試驗

(大正四年開始)

一、目的 葱頭栽培上平畦及ビ揚畦ノ利害得失ヲ明ニセントス

二、供試品種 エロウ、グローブ、タンパース

三、試驗區別

第一、平畦ニス(耕種梗概ニ準ズ)

第二、揚畦ニス(既定畦幅ニ繩ニテ條線ヲ附シ其線上ニ原肥ヲ一樣ニ施シ條間ノ土ヲ覆ヒ二畦分

合シテ三寸餘ニ小高ク盛り上ゲタリ)

一、生育狀況 概シテ品種試驗ニ全ジ

二、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	個數及重量	總收量	中以上品	中以下品	抽花量	平均一個重量
第一	平畦ニス	重個數	一、三三〇	二、七〇〇	一、九〇〇	三、八〇〇	二、九〇
第二	揚畦ニス	全	一、三六〇	二、九〇〇	一、九〇〇	三、八〇〇	二、七〇

### 四、播種期對移植期試驗

(大正四年開始)

一、目的 本試驗ニ於テハ葱頭ノ播種及ビ移植ノ適期ヲ驗知セントス

二、供試品種 エロウ、グローブ、タンパース

一、試驗區別

區名	播種期	移植期	區名	播種期	移植期
第一	八月廿五日	十一月四日	第六	九月十五日	十一月廿三日
第二	八月廿五日	十一月十三日	第七	九月十五日	十二月初三日
第三	九月五日	十一月四日	第八	九月廿五日	十一月十三日
第四	九月十五日	十一月十三日	第九	九月廿五日	十一月廿三日
第五	九月十五日	十一月十三日	第十	九月廿五日	十二月初三日

一、生育狀況 播種期及ビ移植期ノ早キ區ホド生育良好寒害ニ堪ヘ且ツ草勢一般ニ強健ナラシモ

抽花歩台ハ遲播移植區ニ比シ甚ダ多キ缺點アルガ如シ

二、收量 (一畝當)

區名	個數及重量	總收量	中以上品	中以下品	抽花量	平均一個重量
第一	重個數	一、四〇〇	一、三〇〇	一、一〇〇	三、四〇〇	三、〇〇
第二	全	一、四〇〇	一、三〇〇	一、一〇〇	三、四〇〇	三、〇〇
第三	全	一、四〇〇	一、三〇〇	一、一〇〇	三、四〇〇	三、〇〇
第四	全	一、四〇〇	一、三〇〇	一、一〇〇	三、四〇〇	三、〇〇
第五	全	一、四〇〇	一、三〇〇	一、一〇〇	三、四〇〇	三、〇〇



一、中 耕 全上

一、手 入 各種ノ害蟲驅除ハ絶エズ行ヒ又腐敗病其他ノ病害ニ犯サレシモノハ直ニ被害株ヲ拔キ採リ石灰ヲ以テ局部ヲ消毒シ他株ヘ傳染スルヲ防ギタリ

一、收 穫 球頭褪色ヲ始メ堅ク結球シタルモノヨリ採收セリ

一、品種試驗 (秋播)

一、目的 汎ク各品種ヲ蒐集培養シ其生育收量等ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ於テ秋播ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	サットンズ、アブリル	英國	第七	ヘンダソンス、スプリング	米國
第二	サットンズ、イムベリアル	全	第八	ヘンダソンス、サムマア	全
第三	ブレコース、フ	佛國	第九	ヘンダソンス、サムマア	全
第四	サットンズ、ラアイル	英國	第十	サクセツシヨ	北海道
第五	サットンズ、テンダー	東	第十一	札 札	米國
第六	サットンズ、クルー	京	第十二	ヘンダソンス、キング オータム、キング パンダーゴ	全

一、生育狀況

大正三年度及全四年度兩年共定植後抽花スルモノ多ク殊ニ第八區及第九區ニ於テ

甚ダシカリシタメ兩年ノ收量ニ著シキ影響ヲ及ボセリ

一、特性

區名	品名	熟期	球狀	葉部	結球之	外葉多	栽植距離
第一	サットンズ、アブリル	早	圓錐	濃綠	小	易	少
第二	サットンズ、イムベリアル	全	圓錐	稍淡綠	中ノ小	稍難	中
第三	ブレコース、フ	稍早	圓錐	綠	小	易	少
第四	サットンズ、ラアイル	早	圓錐	稍淡綠	全	易	中
第五	サットンズ、テンダー	全	圓錐	濃綠	稍大	全	中
第六	中野 中生	中	扁圓	濃綠	全	稍難	全
第七	ヘンダソンス、スプリング	全	扁圓	濃綠	全	全	全
第八	ヘンダソンス、サムマア	晚	扁圓	濃綠	全	全	全
第九	ヘンダソンス、サムマア	全	扁圓	濃綠	全	全	全
第十	札 帆	最晚	扁圓	稍淡綠	全	全	全
第十一	ヘンダソンス、キング	全	扁圓	濃綠	全	全	全
第十二	パンダーゴ	全	扁圓	濃綠	全	全	全

一、收量 (一畝當)



區名	品名	明治四十五年	大正二年度	大正三年度	大正四年度	平均收量	大正四年度	試驗年數
第一	サツトンス、アブリル	二二、七四〇	—	五三、六四〇	四三、六八八	一六六	九四%	自六月廿一日至六月廿二日
第二	サツトンス	一七、五二〇	四四、一六〇	五九、七七五	四八、六六〇	一六八	九八%	六月廿一日
第三	ブレイムバリアル	一九、三三〇	六四、〇〇〇	五七、〇〇〇	四六、七九三	二二〇	八〇%	七月二日
第四	サツトンス、ラディル	—	—	—	—	—	—	—
第五	サツトンス、テンダ	一六、三三〇	—	六七、九六〇	五二、二二二	一八五	九〇%	六月廿一日
第六	中野 早生	—	—	—	—	—	—	—
第七	中野 中生	—	—	—	—	—	—	—
第八	中野 晩生	—	—	—	—	—	—	—
第九	ヘンダソンス	—	—	—	—	—	—	—
第十	ヘンダソンス	—	—	—	—	—	—	—
第十一	ヘンダソンス	—	—	—	—	—	—	—
第十二	ヘンダソンス	—	—	—	—	—	—	—

前表ニヨレバ年ニ由テ多少豊凶ノ差アリト雖モ要スルニ早生種中、中野早生ノ收量最高位ヲ占メ「テンダ」エンド、ツル」之ニ亞ギ「アブリル」最モ低位ニ在リ而シテ中晩生種ニ在リテハ中野中生ノ收量就中他ニ超越シ「オータム、キング」及ビ「アーリー、スプリング」之ニ順次スト雖モ此二種ハ栽培稍容易ナラザル傾キアリ又「サクセツション」ノ收量著シク少キハ大正二、四兩年度ニ著シク抽花株アリシニ

依リ其平均收量ヲ減耗セシメシモノニシテ本種及「アーリー、サムマア」ノ如キハ品質優良栽培容易ナル良種ナリ其他札幌以下ノ三種ハ性頗ル晩生ナルヲ以テ春播ニスルヲ却テ有利トス

二、假植回数試験

一、目的 甘藍ノ幼苗中假植回数ノ多少ハ其結球狀態及ビ收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスカラ驗知セントス

一、供試品種 ヘンダソンス、サクセツション (秋播)

一、試験區別

- 第一 一回假植(發芽揃後約十日ヲ經テ假植ス)
- 第二 二回假植(第一回假植後約三週間ヲ經テ更ニ一回假植ヲ行フ)
- 第三 三回假植(第二回假植後約三週間ヲ經テ尙ホ一回假植ヲ行フ)

一、假植期 一回十月四日、二回十月廿七日、三回十一月十五日(大正三年度)

一、生育狀況 概シテ品種試験ニ全ジキモ大正四年度ハ抽花歩合甚ダシク殆ンド其大半ニ涉リシヲ以テ不得已全年ノ試験ヲ廢止シタリ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	明治四十五年度	大正二年度	大正三年度	三ヶ年平均收量
第一	一回假植	七三、〇〇〇	一六八、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一四七、〇〇〇

第一	二回假植	1,200	67,410	1,740	61,400	1,930	67,410	1,660	65,410	3,940	91%
第二	三回假植	1,180	90,000	1,440	52,410	1,930	74,310	1,560	72,310	4,570	84%
第三	一回假植	1,180	90,000	1,440	52,410	1,930	74,310	1,560	72,310	4,570	84%

前表平均收量ヲ按スレバ一見直ニ三回假植ヲ有利トスルニ似タレドモ該區ハ明治四十五年度ニ於テ異例ノ高收ヲアゲタルヲ以テ平均收量ヲ多額ナラシメタルモノナルコトヲ察知シ得ベク加之三回假植ハ手数ヲ要スルコト甚ダシク到底大栽培家ノ應用シ能ハザルコトナリト信ゼラル反之一回假植ハ最モ手數ヲ要セザルモ本縣ノ如キ晚秋本圃ニ定植スルコト困難ナル地方ニアリテハ翌春定植時迄ニ苗著シク徒長シテ栽植ニ不便ヲ感スルコト少カラザレバ是亦良法ト稱シ難ク又二回假植ハ其中庸ヲ得テ最モ良法ナルモノ、如ク要スルニ假植回数ノ多少ハ晚秋ノ温度ニヨリテ斟酌スベシ即チ晚秋温暖ニシテ冷氣容易ニ來ラザルガ如キ年ニアリテハ假植ヲ頻繁ニシテ其徒長ヲ抑制スベク反之冷氣早來ノ年ニハ其回数ヲ減ジテ差岡ナキガ如シ尙ホ試驗ヲ重ネテ之ヲ確定セン

### 三、定植期試驗

- 一、目的 秋播甘藍ノ定植適期ヲ知ラントス
- 一、供試品種 ヘンダソンス、サクセツション
- 一、試驗區別
- 區名 豫定々植期 實際定植日
- 第一 十二月初旬 十二月五日
- 第二 二月下旬 二月廿七日

- 第三 三月上旬 三月十三日(雨天ノタメ遅レタリ)
- 第四 三月中旬 三月二十日(全上)
- 一、生育狀況 假植回数試驗ト畧ボ同一ニシテ抽花多カリシタメ大正四年度ノ試驗ヲ廢止シタリ
- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		二ヶ年平均		收量
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	
第一	十二月上旬植	1,500	99,400	1,850	66,290	1,675	82,845	84%
第二	二月下旬植	1,680	84,600	1,850	68,680	1,765	76,640	83%
第三	三月上旬植	1,680	59,800	1,850	83,870	1,765	71,835	82%
第四	三月中旬植	1,680	59,800	1,850	69,630	1,765	64,715	80%

### 四、磷酸成分増減試驗

- 一、目的 甘藍栽培上磷酸成分ノ増減ハ其結球歩合及ビ收量ニ如何ナル影響アルカラ驗知セントス
- 一、供試品種 ヘンダソンス、サクセツション(秋播)
- 一、試驗區別
- 第一、標準肥料
- 第二、磷酸二割五分減(標準肥料中ヨリ精過磷酸石灰四貫二百五匁ヲ減ズ)

第三、磷酸二割五分増(標準肥料ニ精過燐石灰四貫二百五匁ヲ増加ス)  
 第四、磷酸五割増(全上八貫四百十三匁増加)

一、生育狀況 定植期試験ト全ジ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		二ケ年平均收量	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	標準區	一七	五七、四〇	一八	九八、八〇	一六	七六、〇〇
第二	磷酸二割五分減區	一五	五三、二〇	二〇	一〇一、〇五	一七	七二、一五
第三	全上二割五分増區	一五	五四、〇〇	二六	九二、五五	一八	七三、〇七
第四	全上五割増區	一五	六三、八〇	二二	九三、四五	一六	八三、三三
							結球歩合
							四五%
							八二%
							八八%
							九三%

前表ニヨレバ磷酸成分ノ増減ハ直ニ著シク其結球歩合及ビ收量ニ影響スルモノトセザルガ如シ尙試験ヲ繼續研究セン

### 五、春播甘藍品種試験

一、目的 本試験ニ於テハ春播ニ適スル甘藍良品種ヲ撰擇セントス

一、試験區別

區名	品種名	區名	品種名
第一	中野早生	第五	ヘンダソンス、サグセツシヨシ
第二	中野中生	第六	札
第三	ヘンダソンス、アーリー、スプリング	第七	ヘンダソンス、オータム、キング
第四	ヘンダソンス、アーリー、サムマア	第八	パンダーゴ

一、生育狀況 二ケ年ヲ通ジテ成熟期ニ至リ著シキ早魃ニ遭遇セシタメ幾分結球ヲ促進シタル感ナキニ非レドモ蚜蟲ノ發生ニ加フルニ腐敗病ヲ醸シ收量ニ多少減收ヲ來セリ大正四年ハ病害激甚ニシテ成績調査シ難キヲ以テ除外セリ

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正二年度		大正三年度		二ケ年平均收量		採收期
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	
第一	中野早生	二六	三三、二〇	一八	三九、二〇	二二	五二、〇五	自八月十四日
第二	中野中生	—	—	二六	五四、七三	(1) 二六	(1) 四七、六三	自八月十八日
第三	ヘンダソンス、アーリー、スプリング	—	—	一九	三三、四〇	(1) 一九	(1) 三三、四〇	自八月十八日
第四	ヘンダソンス、アーリー、サムマア	二〇	六九、三六	二六	四六、五〇	二三	五七、九六	自八月二十日
第五	ヘンダソンス、サグセツシヨシ	二二	九一、〇〇	二六	五三、七三	二四	七一、二八	自八月十八日
第六	札	二二	七七、二六	二六	四〇、四〇	二四	六八、八四	自八月十八日
第七	ヘンダソンス、オータム、キング	二四	七九、〇〇	二六	六三、五〇	二五	七一、三〇	自八月十四日
第八	パンダーゴ	二四	九〇、七〇	二〇	六七、三三	二二	七八、八〇	自九月四日
								全
								全

前表ニヨレバ一般ニ早生種ハ本縣ノ風土ニ於テ春播ニ適セザルモノ、如ク春播ニ於テ相當ノ成功ヲ望マバ第四區「アーリー、サムマア」以下ノ晚生品種ヲ撰ブヲ可トスルガ如シ尙ホ試験ヲ重テ確メントス

### ●瓜哇薯

- 耕種梗概
- 一、整地 三月十二日鍬ニテ町疇ニ圃地ヲ耕耘セリ
  - 一、栽植 三月廿七日(大正三年) 三月廿五日(大正四年) 一畝當四貫五百匁
  - 一、種薯豫措 種薯ノ大サ一個十五匁内外ノモノハ縦ニ扁平部ニ並行シテ切半シ小ナルモノハ單ニ其下端ノ一部ヲ截切シ各切斷面ニハ木灰ヲ塗抹シテ腐敗ヲ防ギタリ
  - 一、栽植法 既定ノ間隔ニ畦條ヲ劃シ所要ノ株間ニ種薯ノ切斷面ヲ下伏ニシテ配置シ其側方ニ原肥ヲ施シ厚ク被土セリ(約一寸五分位ニ被土ス)
  - 一、畦幅 二尺
  - 一、株間 一尺
  - 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用	量	原	肥	追	肥	價	加	構	窒
堆肥		二五、〇〇〇		二五、〇〇〇			〇、二五			
人糞		一五、〇〇〇		一五、〇〇〇			〇、一七			
精過磷酸石灰		〇、〇〇〇		〇、〇〇〇			〇、二五			
菜灰		二、〇〇〇		二、〇〇〇			〇、三〇			
										〇、五

- 一、追肥 五月五日(大正三年) 五月七日(大正四年)
- 二、中耕及土寄 五月五日、五月十九日(大正三年) 五月七日、五月廿二日(大正四年)
- 一、摘花 自五月下旬至六月中旬
- 二、手入 疫病ノ發生ヲ慮リ五月六日ニ三斗式石灰ボルドー合劑ヲ全廿一日ニ二斗五升式全合劑ヲ各撒布豫防シタリ
- 一、收穫 七月十日(大正三年) 七月十日、七月廿七日、七月廿九日ノ三回(大正四年)

### 一、品種試驗

- 一、目的 蔬菜用ニ供スル多クノ瓜哇薯品種ヲ蒐集栽培シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良品種ヲ選出セントス
- 一、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	アーリー、ローズ	米國	第八	ダコタ	不詳
第二	モンロー、シードリンク	不詳	第九	アーリー、ピユティ オア、ヘブロン	米國
第三	ブライド、オア、アメリカン	米國	第十	スノー、フレイク	米國
第四	アーリー、グードリッチ	不詳	第十一	赤薯	神奈川
第五	パーバンクス、シードリンク	米國	第十二	アメリカン、ウオンドー	米國
第六	五郎	神奈川	第十三	ルーラル、ニューヨーカー第二	全
第七	ブライズ、テーカー	米國			

七六

一、生育狀況 大正三四兩年共ニ生育良好特記スルコトナシ  
一、特性

區名	品名	熟期	草勢	葉澤	薯	之	部	品質
第一	アーリー、ローズ	早	強	粉	扁楕圓	外皮粗	肉色粗密	上
第二	モンロー、シードリンク	晚	全	稍淡綠	長楕圓	外皮色澤	微	下
第三	ブライド、オア、アメリカン	全	中	全	全	深淺	精	中
第四	アーリー、グードリッチ	全	全	全	全	深淺	微	上
第五	パーバンクス、シードリンク	全	全	全	全	深淺	精	中
第六	五郎	晚	強	全	長楕圓	外皮粗	微	上
第七	ブライズ、テーカー	全	全	全	丸楕圓	外皮色澤	精	全

一、收量 (一畝當)

區名	品名	大正二年度	大正三年度	大正四年度	三ヶ年平均收量
第一	アーリー、ローズ	四、七、六	四、三、〇	三、四、〇	四、〇、七
第二	モンロー、シードリンク	四、八、三	五、〇、九	四、八、九	四、〇、七
第三	ブライド、オア、アメリカン	四、三、八	五、一、七	六、一、八	五、〇、八
第四	アーリー、グードリッチ	三、六、八	三、七、四	三、六、八	三、七、〇
第五	パーバンクス、シードリンク	三、一、〇	二、七、七	三、七、三	三、〇、六
第六	五郎	四、四、八	五、五、五	七、三、三	五、七、五
第七	ブライズ、テーカー	五、四、四	三、九、〇	六、〇、〇	五、一、三
第八	ダコタ	四、八、〇	四、五、五	六、四、三	五、二、七
第九	アーリー、ピユティ オア、ヘブロン	一	四、四、五	四、八、三	四、三、七

七七

第十	スノー、フレーク	六、二八	二九、五〇	五、七〇	二九、七五	六、四〇	三、四〇	六、一五八	三〇、〇六五	四、九
第十一	赤 薯	五、二〇	三九、五〇	三、四〇	三六、二〇	五、一六〇	三、五〇	四、五七五	三六、九〇	八、七
第十二	アメリカン、ウオング ルーラル	—	—	二、八五	三六、二五	六、八四〇	五、九三〇	四、八三〇	四、四九	九、三
第十三	ニュー・ヨーカ第二 ルーラル	—	—	—	—	四、五五	五、四三〇	四、五五(1) 五、四三	—	—

備考 表中(1)(2)トアルハ試験年数ヲ示ス

前表ノ事實ヲ綜合スルニ三ヶ年ヲ通ジテ「ブライド、オブ、アメリカン」ノ收量最高位ヲ占メ「アメリカン、ウオング」ノ「アーリー、ピユテイ、オブ、ヘブロン」等之ニ順次シ「スノー、フレーク」最モ收量少シ而シテ「ルーラル、ニュー・ヨーカ第二」ノ收量亦甚ダ多シト雖モ僅々一ヶ年ノ成績ナレバ未ダ違ニ事實ト斷定スベカラズ總ジテ赤色種ハ收量ニ於テ白色種ニ及バザルモノ多キモ品質ハ一般ニ良好ナリ就中「アーリー、ピユテイ、オブ、ヘブロン」ヲ以テ最良トス要スルニ性質稍々晩生ナルノ缺点アレドモ收量饒多品質亦優良ナルハ「アメリカン、ウオング」ニシテ「ルーラル、ニュー・ヨーカ」亦有望ナルモノ、如シ尙ホ試験ヲ繼續スベシ

### 二、除 薬 試 験

- 一、目 的 瓜哇薯新芽ヲ除薬スルノ利害ヲ明ニセントス
- 一、供試品種 アーリー、ローズ
- 一、試験區別

第一、全ク除薬セス

第二、一株四芽ヲ残ス

第三、一株一芽ヲ残ス

一、除薬日 五月六日

一、生育状況 概シテ品種試験ニ全シ

一、收 量 (一畝當)

區 名	試 験 區 別	大正二年度 個數 重量	大正三年度 個數 重量	大正四年度 個數 重量	三ヶ年平均收量
第一	全ク除薬セス	五、一六 三、七〇	六、三三 四、三三	六、八五 四、一五	四、〇四三 三、七〇
第二	一株四芽ヲ残ス	四、四四 三、三〇	四、一五 三、三五	四、五七 三、六六	四、四一 三、三三
第三	一株一芽ヲ残ス	三、三五 二、六〇	三、五五 三、九〇	三、四九 三、一〇	三、四一五 三、八〇

前表ニヨレバ三ヶ年ヲ通ジテ全ク除薬セザルモノ、收量最高位ヲ占メ除薬ノ程度多キニ從ヒ彌々其收量ヲ遞減スルヲ知レリ而シテ平均一個ノ重量ハ其收量ト全ク反比例スルヨリ察スレバ比較的大薯ヲ得ンニハ除薬スルヲ可トスルモ中以上薯ノ絶体量ハ第一區ニ多キヲ以テ殊更努力ヲ費シテ除薬スルハ徒勞ニ屬スルモノト認ム

### 三、栽 植 期 試 験

- 一、目的 春作瓜哇薯ノ栽植適期ヲ知ラントス
- 二、供試品種 アーリー、ローズ
- 三、試驗區別

區名	栽植豫定期	實施栽植日
第一	三月中旬栽植ス	三月十七日 (大正三年) 三月十六日 (大正四年)
第二	三月下旬栽植ス	三月廿七日 (大正三年) 三月廿五日 (大正四年)
第三	四月上旬栽植ス	四月六日 (大正三年) 四月五日 (大正四年)

一、生育狀況 概シテ品種試驗ニ全ジキモ大正四年春季ハ例年ニ比シ氣候寒暖定マリナク氣温ノ變動甚ダシカリシタメ早植區即チ第一區ニ於テ發芽前種薯ノ腐敗セシモノ不尠爲メニ全年度該區ノ收量ニ多少ノ減耗ヲ來セリ

- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正三年度		大正四年度		二ヶ年平均收量	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	三月中旬栽植	三,三九〇	三八,〇五五	四,一四〇	二二,五七七	三,七六五	三〇,六六六
第二	三月下旬栽植	四,七四〇	三五,七〇〇	五,〇八九	三〇,九〇六	四,九二二	三三,三三三
第三	四月上旬栽植	四,八三〇	三六,〇四五	五,六七〇	三五,二四四	五,二五〇	三五,六四五
							七,七九〇

#### 四、種薯大小比較試驗

一、目的 種薯ノ大小ハ其生産上ニ幾許ノ影響ヲ及ボスカ併セテ經濟上ノ得失ヲモ研究セン

- 一、供試品種 アーリー、ローズ
- 二、試驗區別

- 第一、平均一個二十匁ノ種薯ヲ用フ(一畝當約十一貫匁)
- 第二、全上十五匁(全上八貫百匁)
- 第三、全上十匁(全上五貫四百匁)
- 第四、全上八匁(全上四貫五百匁)
- 第五、全上五匁(全上二貫八百匁)

- 一、生育狀況 發育良好特記スルコトナシ
- 二、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	個數及總收量		類別收量			平均一個ノ重量	種薯量差引收量
		個數	重量	大	中	小		
第一	平均二十匁種薯區	七,九〇〇	三〇,六〇〇	二,七五五	一四,四五五	七,一〇〇	六,七	四一,八〇〇
第二	全十五匁種薯區	七,二七五	二五,七〇〇	一,五七五	三,三七五	二,三二五	七,一	四三,六八〇
第三	全十匁種薯區	五,七八〇	二〇,八八〇	一,四二五	二,〇,六〇〇	七,二〇〇	六,八	四三,三〇〇

### 五、種薯切斷法試驗

一、目的 本試驗ハ大薯ヲ種用ニ供スル場合ニ於テ之ヲ切斷スルニ如何ナル方法ヲ以テスベ

キカラ驗知セントス

一、供試品種 アーリー、ローズ(平均一個十  
五匁ノモノ)

二、試驗區別

第一、縦ニ扁平部ニ並行シテ切半ス

第二、縦ニ扁平部ニ直角シテ切半ス

第三、縦ニ扁平部ニ並行シテ斜ニ切半ス

第四、縦ニ扁平部ニ直角シテ斜ニ切半ス

第五、横ニ中央ヨリ切半ス

一、生育狀況 前試驗ニ大体全シ

一、收量 (一畝當)

第 四	全 八 匁 種 薯 區	ク	六、八八五	一、五九〇	三、二一〇	二、一七五	六、九	四三、四五五
第 五	全 五 匁 種 薯 區	ク	四七、七五〇	三、七二五	一八、七九五	六、二五五	七、四	四三、一五〇
			四七、八五〇	二、〇三〇	一六、八三〇	六、九〇〇		

區 名	試 驗 區 別	個數及 重量	總 收 量	類 別 收 量			平均一個ノ 重量
				大	中	小	
第 一	縦ニ扁平部ニ直角シテ切半ス	個數 五、五九五	五、五九五	一、七七〇	二、二五〇	一、五七五	八、四
		重量 四六、八七五	二六、〇五五		一四、〇六七〇	六、一五〇	

第 二	縦ニ扁平部ニ直角シテ切半ス	ク	五、七七五	一、五〇〇	二、一五五	一、七二五	八、〇
第 三	縦ニ扁平部ニ並行シテ斜ニ切半ス	ク	四六、三三五	二、五四五	一、七八〇	五、九七〇	
第 四	縦ニ扁平部ニ並行シテ斜ニ切半ス	ク	四二、〇九五	二、一三〇	一、五八〇	一、五七五	七、六
第 五	縦ニ扁平部ニ直角シテ斜ニ切半ス	ク	四六、一五〇	二、一七五	一、八七〇	二、二五〇	七、二
	横ニ中央ヨリ切半ス	ク	四四、三七〇	一、九八三〇	一、八〇四五	二、二五五	七、二
			四九、五三〇	一九、〇八〇	一、二七五	三、三七五	七、〇

### 六、種薯截切可否比較試驗

一、目的 本試驗ハ小薯ヲ種用ニ供スル場合ニ其一端ヲ截切スルノ可否ヲ確メントス

一、供試品種 アーリー、ローズ(平均一個五  
匁ノモノ)

一、試驗區別

第一、全ク截切セズ丸ノ儘ヲ用フ

第二、種薯ノ下端(母株ニ附着セシ部分)ヲ一部分僅ニ削ル

一、生育狀況 發育可良特筆スルコトナシ

一、收量 (一畝當)

區 名	試 驗 區 別	個數及 重量	總 收 量	類 別 收 量			平均一個ノ 重量
				大	中	小	
第 一	全ク截切セズ	個數 二、七三六	二、七三六	一、三四三	二、三九四	一、七二〇	五、五
第 二	種薯ノ下端ヲ削ル	個數 四、七八八	四、七八八	一、一五二	八、〇二八	五、五五六	五、五
		重量 二五、七八八	一一、五五六	八、六七六	一、九八〇	五、五二六	



●牛 蒡

耕種梗概

一、整地 三月十二日(大正三年)ハ三月廿一日(曩ニ荒耕耘ヲナセシ圃地ヲ再ビ叮嚀ニ深耕均平シタリ)

一、播種 四月九日(大正三年) 四月八日(大正四年)

一、播種量 一畝當ニ合五勺

一、播種法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ穿チ原肥ヲ施シテ稍厚ク被土シ鋤ニテ輕ク土表ヲ均ラシテ小高キ揚畦トナシ之ニ條播シテ薄ク細土ヲ覆ヒ更ニ其上ヲ鋤ニテ輕壓シタリ

一、畦幅 二尺

一、株間 七寸

一、肥料引 一回 五月五日 二回 五月廿八日 三回 六月廿三日 (大正三年) 一回 五月八日 二回 五月廿一日 三回 六月四日 (大正四年)

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	一回	二回	三回	價額
堆肥	三、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫				〇、三三
大豆粕	一、〇〇〇貫	一、五〇〇貫				〇、一八
人糞	三〇、〇〇〇貫		八、〇〇〇貫	一〇、〇〇〇貫	三、〇〇〇貫	〇、七六
木灰	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫				一、四六

- 一、追肥 五月廿八日、六月廿三日、八月五日 (大正三年) 五月廿七日、六月三十日、八月六日 (大正四年)
- 一、中耕 全上
- 一、手入 九月十五日(大正三年) 九月十九日(大正四年) 十二月十九日(大正三年) 十二月十七日(大正四年)
- 一、收穫 十二月十七日(大正四年)

一、品種試驗

(大正三年度ニテ完結)

一、目的 數多ノ品種ヲ蒐集栽培シテ其收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ優良ノ品種ヲ撰擇セ

ントス

一、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	東京大長(瀧ノ川)	東京	第五	札幌	北海道
第二	大浦	千葉	第六	堀川	奈良
第三	砂川	東京	第七	水戸	茨城
第四	梅田	埼玉	第八	獨逸	東京?

一、生育狀況 生育良好特記スルコトナシ

一、特性

區名	品名	根之形狀	根之長短	根之細太	根之肉質	品質
第一	東京大長	細長	甚長	細	中空少密	上
第二	大砂	紡(不正) 細長	中長	太	中空少密	中
第三	梅川	全	全	太	中空少密	全
第四	札田	全	全	細	中空少密	全
第五	堀川	全	全	太	中空少密	上
第六	水戸赤	全	全	全	中空少密	中
第七	獨逸	全	全	全	中空少密	全
第八	獨逸	全	全	全	中空少密	上

一、收量 (一畝當)

區名	品名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	三年平均收量
第一	東京大長	三〇,三六〇	四四,二六〇	六一,六五〇	四二,〇八六
第二	大砂	五一,四七〇	三七,九八〇	四九,五〇〇	四六,三二六
第三	梅川	四一,三四〇	三五,七〇〇	空,〇〇〇	四六,六九〇
第四	札田	七〇,九七〇	五九,九三〇	五八,八八〇	四四,九二六
第五	堀川	四九,七八〇	四一,〇六〇	五七,六〇〇	四九,四八〇
第六	水戸赤	四〇,一六〇	一	五九,六七〇	四九,九一五
第七	獨逸	一	一	六四,五三〇	六四,五三〇
第八	獨逸	一五,一九〇	四五,〇〇〇	五八,〇五〇	三九,四一三

前表ニヨレバ年ニヨリ多少豊凶アリト雖モ品質優良收量亦少カラザルハ東京大長及ヒ札幌ノ二種トス  
 獨逸白ハ品質良好ナリ而シテ其平均收量少キハ大正元年度ニ於テ異例ノ少收量ナリシヲ加算平均セシ  
 ニヨル尙ホ水戸赤莖ハ僅ニ一ヶ年ノ栽培ニテ其特性審カナラザルモ性質強健當地方ノ風土ニ適合シ收  
 量少カラザル良品種ナルガ如シ

一、播種期試驗 (大正四年開始)

一、目的 春播牛蒡ノ播種適期ヲ知ラントス

一、供試品種 東京大長

一、試驗區別

區名 豫定播種期 實施播種期  
 第一 三月二十日 三月廿一日  
 第二 四月五日 四月八日  
 第三 四月十五日 四月十六日

一、生育狀況 夏季旱魃ノタメ抽花歩合多ク殊ニ早播區ホト甚タシカリキ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	本數	總重量	中以上品	中以下品	收量順
第一	三月廿一日播種	六五	四七,九六〇	五,六八〇	二,二八〇	一

第 二	四月八日播種	七五	四七、五五〇	三七、九九〇	九、六五〇
第 三	四月十六日播種	七五	四三、六九〇	三、五〇〇	二、一九〇

● 薑

耕種梗概

- 一、整地 十月下旬豫メ土地ヲ町疇ニ耕起シ發芽ヲ過マラシメザルタメ大麥(竹林種)ヲ二尺畦幅ニ播種培養シ置キタリ
- 一、栽植 五月二日(大正三年)
- 一、種薑量 一畝當約四貫五百匁
- 一、栽植法 麥隴中ニ作條ヲ設ケ之ニ種薑ヲ既定ノ株間ニ配置シ其傍ニ原肥ヲ施シ一寸有餘ニ被土セリ
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺二寸
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用 量	原 肥	追 肥		價 加 機 窒	額 里 酸 素	一 四 一 六
			一 回	二 回			
堆肥	50,000	10,000	10,000	10,000	0,393	0,393	0,393
大豆粕	1,500	1,000	0,500	0,500	0,238	0,238	0,238
人糞尿	10,000	1,000	8,000	2,000	0,351	0,351	0,351
精過磷酸石灰	0,500	1,000	0,500	1,000	0,160	0,160	0,160
木灰	1,000	1,000	1,000	1,000	0,160	0,160	0,160

- 一、追肥 六月廿三日、七月十六日(大正三年)
- 一、中耕土寄 全上
- 一、敷藥 七月十九日畦上ニ麥稈ヲ敷キテ過乾ヲ防ギタリ
- 一、手入 「ネマド」ノ蝕入セシ株ハ直ニ抜キ採リテ他株ニ傳染スルヲ防ギタリ(但シ被害株根部ハ收量ニ加算セリ)
- 一、收穫 十一月十四日(大正三年)

一、品種試驗

數品種ヲ蒐集栽培シテ本縣ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

- 一、試驗區別
- 區名 品種名 原產地
- 第一 金 時 靜 岡

第二 小 蓋 愛 知  
 第三 中 蓋 全  
 第四 大 蓋 清 國 (現今愛知)

一、生育狀況 生育良好特筆スルコトナシ  
 一、特性及收量 (一畝當)

區名	品種名	根		之部		用途	收量	
		大小	外皮ノ色	肉色	纖維多寡		辛味多寡	根ノ重量
第一 金	時	細	赤	黃	多	最	40,900	3,400
第二 小	中	中	深紅	灰黃	中	中	40,000	3,750
第三 中	全	全	芽際紅	黃	中	全	45,600	3,800
第四 大	太	少	全	灰黃	多	稍弱	45,400	3,200

里 芋

耕種梗概  
 一、整地 前年十一月上旬町嚙ニ圃地ヲ耕耘シテ豫メ大麥ヲ二尺五寸畦ニ播種シ置キタリ  
 一、栽植 四月廿七日 (大正三年) 四月十六日 (大正四年)

一、種芋量 一畝當約三貫匁(但シ品種ニヨリ多少増減アリ)  
 一、栽植法 豫テ準備セル麥隴中ニ畦條ヲ劃シ種芋ノ粗皮ヲ剝キタルモノヲ一定ノ株間ニ芽ヲ上向ニ配置シ其側ニ原肥ヲ覆ヒ稍厚目ニ被土シタリ

一、畦幅 二尺五寸  
 一、株間 一尺五寸  
 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥	價額
堆肥	30,000	10,000	10,000	0.35
大豆粕	1,500	1,000	0.500	0.35
人糞尿	10,000	1,000	0.500	0.35
精過磷酸石灰	0.350	1	0.350	0.35
木灰	1,000	1,000	1	0.35

一、追肥 六月二十日、七月十六日 (大正三年) 六月廿二日、七月十五日 (大正四年)  
 一、中耕及土寄せ 全上  
 一、敷薬 七月十九日 (大正三年) 七月十五日 (大正四年)  
 一、手入 六月下旬ヨリ七月上旬ニ涉リ頻出スル萌葉ヲ除去シテ土ヲ覆ヒ其伸出ヲ阻止スベ

ク努メタリ

一、收穫

十一月十七日 (大正三年)  
十二月十二日 (大正四年)

一、品種試驗

(大正三年度ニテ完結)

一、目的 子芋及ビ親芋用ノ各品種ヲ網羅培養シテ其生育收量及ビ品質等ヲ比較調査シテ  
當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品名	種類	原產地	區名	品名	種類	原產地
第一	土垂	垂	埼玉	第七	團子	來	東京
第二	早生	生	東京	第八	赤	黑	茨城
第三	早生	赤	不詳	第九	赤	釋	不詳
第四	多	田	全	第十	八	頭	全
第五	島	芋	東京	第十一	店	ツ	全
第六	豐	後	全	第十二	ズ	イ	石川

一、生育狀況 土垂、豊後、唐芋、團子ノ四種ハ發芽不良缺損不尠就中團子ニ多カリシヲ以テ之  
ヲ品種試驗ヨリ削除シタリ發芽後ハ各種共生育良好ナリシモ唐芋最モ不良ナリキ

一、特性

一、收量 (一畝當)

區名	品名	種類	葉部		子芋之部 (親子共)		用途	
			葉ノ大 小及形	柄ノ細太 長短	子芋ノ形 狀	子芋ノ多 少		
第一	土垂	垂	橢圓形	中	中	多	中	子芋用
第二	早生	生	橢圓形	稍長	多	多	下	全上
第三	早生	赤	橢圓形	太	稍多	中	稍上	全上
第四	多	田	橢圓形	全上	全上	最多	中ノ下	全上
第五	島	芋	全上	全上	全上	多	全上	全上
第六	豐	後	橢圓形	中	中	中	全上	全上
第七	團子	來	橢圓形	細	全上	最少	全上	全上
第八	赤	黑	橢圓形	中	中	中	全上	全上
第九	赤	釋	橢圓形	太	中	少	全上	全上
第十	八	頭	橢圓形	細	中	最少	全上	全上
第十一	店	ツ	橢圓形	全上	中	最少	全上	全上
第十二	ズ	イ	橢圓形	太	中	最少	全上	全上



第 二	斜 植 區	六〇、八〇〇	六三、八〇〇	六四、三四〇	四六、六三〇	一七、七〇〇
第 三	橫 植 區	六七、四〇〇	六九、〇〇〇	六八、三〇〇	五〇、五三〇	一七、六九〇
第 四	倒 植 區	五八、六〇〇	六四、四四〇	六一、六二〇	四五、五四〇	一六、〇〇〇

右ノ成績ニ依レバ二個年ヲ通ジテ第一、第三兩區ノ收量就中多ク第四區最モ劣レリ即チ種芋ヲ栽植スルニ當リ芽ヲ上向ニスルカ否ラザレバ橫向ニスルヲ最モ得策トシ斜植倒植共ニ不利益ニシテ殊ニ倒植ハ發芽ニ長時日ヲ要スルノミナラズ缺損株ヲ多ク生ジ收量少キヲ常トスルヲ以テ殊更奇ヲ好ムベカラズ

### 三、直植對移植試驗

(大正四年開始)

一、目的 種芋ヲ其儘栽植スルト一旦之ヲ發芽セシメテ栽植スルト孰レガ有利ナルカヲ驗知セントス

一、供試品種 多田芋

一、試驗區別

第一、種芋其儘栽植ス

第二、發芽芋ヲ定植ス四月五日温床中ニ種芋ヲ一旦栽植シテ發芽ヲ促シ五月十三日之ヲ本圃ニ定植シタリ

一、生育狀況 前試驗ニ全ジ

### 一、收 量 (一畝當)

區 名	試 驗 區 別	總 重 量	内		收 量 順	缺 損 數
			子 芋 重 量	親 芋 重 量		
第 一	種 芋 區	七〇、五六〇	四八、三六〇	二二、二〇〇	一	一
第 二	發 芽 芋 區	六九、五六〇	五二、二〇〇	一七、三六〇	一	一

### 四、種芋親子比較試驗

(大正四年開始)

一、目的 種芋用トシテ親子何レヲ佳トスルカヲ驗知セントス

一、供試品種 甲、子芋用 多田芋

乙、親芋用 八ッ頭

一、試驗區別

甲 (第一、子芋ヲ種用ニ供ス)

(第二、親芋ヲ種用ニ供ス)

乙 (第一、子芋ヲ種用ニ供ス)

(第二、親芋ヲ種用ニ供ス)

一、生育狀況 概シテ前試驗ニ全ジ

一、收 量 (一畝當)

區名	試驗區別	總重量	內子芋重量	親芋重量	缺損數	收量額
甲 第 二	子芋ヲ種用ニ供ス	五七、九六〇	三、六八〇	二〇、六〇〇	二	三
乙 第 一	親芋ヲ種用ニ供ス	八九、五三〇	五、一〇〇	三九、四〇〇	一	一
丙 第 二	子芋ヲ種用ニ供ス	三〇、七二〇	七、一〇〇	三三、五三〇	一	四
丁 第 一	親芋ヲ種用ニ供ス	八八、三〇〇	五、三〇〇	三五、八八〇	一	二

### ●玉蜀黍

#### 耕種梗概

- 一、整地 播種前町寧ニ圃地ヲ耕耘均平シタリ
- 二、播種 四月廿七日(大正三年度) 四月三十日(大正四年度) 一畝當六合
- 三、播種量 能ク充實セル粒子ヲ選別シ鳥鼠害豫防ノタメ「コールドール」ヲ塗抹シテ播種セリ
- 四、種子豫措 一定ノ畦幅ニ淺ク作條ヲ穿テ無肥料ニテ一株四五粒宛ニ点播シ六七分ノ厚サニ被土セリ
- 五、畦幅 二尺五寸
- 六、株間 一尺五寸

#### 一、間引及補植

大正三年度ハ五月二十日、大正四年ハ五月十九日一株二本立トナセリ

#### 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用 量	原 肥	二 番 肥	價 加 換 空	額 里 酸 葉	0.194
堆肥	15,000	15,000	1			0.194
大豆粕	0.500	0.500	1			0.170
人糞	10,000	1				0.180
精過燐酸石灰	0.500	0.500				0.170
灰	1,000	1,000				0.170

#### 一、施肥

五月廿七日(原肥) 六月十九日(追肥) (大正三年度) 五月廿二日 (大正四年度)

#### 一、中耕土寄

五月廿七日、六月十九日、七月二日 (大正三年度) 五月廿二日、六月十九日、七月四日 (大正四年度)

#### 一、手入

根際ヨリ叢生セシ蘗芽ハ勉メテ除去シ又頂端ヨリ抽出セン雄穂ハ之ヲ折リ曲ゲテ受精作用ヲ容易ナラシメ一ニ風害ヲ避クルノ用ニ供セリ

#### 一、品種試驗

一、目的 少食用軟顆穗用トシテ諸種ノ玉蜀黍ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及品質等ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

#### 一、試驗區別



區名	品名	種名	原產地	區名	品名	種名	原產地
第一	甲	州	山梨	第五	ゴールデン、パンナム		米國
第二	ロンゲ、フエロウ		米國	第六	エキストラ、アーリー		全上
第三	ハウリング、モツブ		全上	第七	エロウ、フレント、コーン		不詳
第四	カントリー、セントルマン		全上		アーリー、アイオワ		

一、生育狀況 大正三年度ハ生育良好特記スルコトナキモ大正四年度ハ早魃ノタメ一時發育ヲ中止シ爲是收量品質ニ著大ナル影響ヲ被ムレリ

區名	品名	種名	草勢	顆粒之部		品質	收量			三箇年平均
				長短	顆粒大小		二年	三年	四年	
第一	甲	州	丈ヶ最高	長大	中	上	三、五二〇	三、一〇三	三、六六〇	三、四〇九
第二	ロンゲ、フエロウ		中	細長	大	上	三、八六〇	三、三〇二	三、三六〇	三、九八〇
第三	ハウリング、モツブ		高	太ク	大	中	三、九八〇	三、七〇七	三、三〇〇	三、九八〇
第四	カントリー		中	中長	大	下	二、九七〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三三〇
第五	セントルマン		矮	(不整)	中	上	二、八八〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三三〇
第六	ゴールデン、パンナム		最矮	短	大	上	二、九七〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三三〇
第七	エキストラ、アーリー		全上	ハ一〇	大	中	二、九七〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三三〇
	エロウ、フレント、コーン		全上	ハ一〇	大	下	二、九七〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三三〇
	アーリー、アイオワ		全上	ハ一〇	大	下	二、九七〇	二、八〇〇	二、八〇〇	三、三三〇

前表ニヨレバ品質收量共ニ秀絶スルハ甲州ナリト雖モ本種ハ性質頗ル晩生ニシテ市價低落ノ曉辛フジ

ヲ採收シ得ルニ過キサレバ收利却テ少キヲ常トス反之「ロンゲフエロウ」ハ前種ノ缺点ヲ補ヒ得テ早收ニ適シ加フルニ收量饒多顆粒ノ形狀顆粒等ニ至ルマデ能ク整止シテ品質亦優良ナルヲ以テ頗ル有望ナリ而シテ「ゴールデン、パンナム」ハ性頗ル早熟ニシテ品質亦良好ナルヲ以テ前種ニ次グノ良種タルベシ又「ハウリング、モツブ」「エキストラ、アーリー、エロウ、フレント、コーン」ノ二種モ亦多少栽培スルノ價值アリ

### ●落花生

耕種梗概  
 一、整地 四月上旬町寧ニ圃地ヲ耕耘均平シタリ  
 一、播種 四月廿三日(二ヶ年共)  
 一、播種量 一畝當 大粒種ハ六合、小粒種ハ四合(但シ内質量ヲ示ス)  
 一、播種法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ南北ノ方向ニ穿テ原肥ヲ施シテ少シク被土シ其上ニ所要ノ株間ニ一株三四粒宛播トシ七八分ノ厚サニ覆土セリ但シ鳥害ヲ避クルタメ種子ノ表面ニ少シク「コーンタル」ヲ塗付シタリ  
 一、畦幅 二尺(但シ芻落花ハ二尺五寸)  
 一、株間 一尺五寸(芻落花ハ二尺)

一、間引及補植 大正三年ハ五月廿二日、六月十日ノ二回ニ大正四年ハ六月九日一回ニ行ヒ一株ニ本立トセリ

一、肥料 (一畝當)

肥料名	原	肥	價
堆肥	15000		0.060
精過燐酸石灰	0.000		0.147
灰	20000		0.165
			0.260

一、中耕土寄

六月十日、七月一日、七月十七日(租シ留落花ハ二回)(大正三年) 六月九日、六月廿七日、七月九日 (大正四年)

一、收穫

十一月四日 (大正三年) 十一月十一日 (大正四年)

一、乾燥

自十一月五日至十一月十五日(第一回乾燥)(大正三年) 自十一月十二日至十一月二十日(大正四年)

一、洗滌

自十一月十六日至十一月廿二日(大正三年) 自十一月二十一日至十一月廿四日(洗滌後ノ乾燥)(大正三年) 十一月廿一日(大正四年)

一、品種試驗

(大正三年度ニテ完結)

一、目的 各種ノ落花生ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較シ以テ其優劣ヲ驗知セン

一、試驗區別

第一、立落花生

第二、小粒落花生

第三、匍落花生

一、生育狀況

晩秋少シク鳥害ヲ被ムリシモ大事ニ至ラザリキ

一、特性

區名	品種名	草勢	葉澤	部	内實ノ色澤	品質	
第一	立落花生	直立	濃綠	中	大	淡褐色粒	一
第二	小粒落花生	全上	淡綠	大	濃	小	二
第三	匍落花生	匍	線	小	淡	大	三

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	三ヶ年平均	子實ト内實トノ比例
第一	立落花生	6,300	4,800	5,500	5,533	6.3%
第二	小粒落花生	2,700	5,000	8,300	5,333	7.3%
第三	落花生	9,000	5,000	10,000	8,000	6.3%

備考 右ハ何レモ乾燥重量ニシテ又子實トハ莢付ノ儘、内實トハ莢ヲ去リタルモノヲ指示ス尙ホ  
子實一貫匁ニ對スル内實重量ハ大正二、三兩年間ノ調査ヲ平均シタルモノナリ

右ノ成績ニヨレバ品質ニ於テハ立落花生ト匏落花生トハ大ナル逕底ナク殆ンド相伯仲ノ間ニ在リ小粒  
落花生最モ劣レリ而シテ收量ニアリテハ匏落花生最高位ヲ占ムルノミナラズ蔓(莖葉)ノ量モ亦最多ク  
其肥料トシテノ價值少カラザルヲ以テ本種ハ就中有望ナリ唯枝葉ノ蕃衍甚タシキヲ以テ採收ニ聊カ勞  
カヲ要スルノ缺点アルノミ而シテ本種ニ亞グハ立落花生ニシテ匏匏ノ度合少キヲ以テ前種ニ反シ採掘  
ニ甚ダ便ナリ又小粒落花生ハ搾油其他特別ノ用途アル場合ノ外一般ノ栽培ニ適セズ

### 二、播種期試驗 (大正四年度開始)

一、目的 播種期ノ早晚ハ落花生ノ收量品質ニ影響スルコト大ナリ仍テ本試驗ニ於テハ落花  
生播種ノ適期ヲ驗知セントス

一、供試品種 立落花生

一、試驗區別

區名	播種豫定期	實施播種期
第一	四月中旬(十五日)	四月十五日
第二	四月下旬(廿五日)	四月廿三日
第三	五月上旬(五日)	五月五日

一、生育狀況 大正四年播種當時ハ例年ニ比シ氣候低温ナリシタメ發育遲緩ナリシガ其後七月ニ

一、收量 (一畝當)  
入リ稀有ノ旱魃ニ際會シテ生育上多大ノ打撃ヲ被ムリシヲ以テ全年ノ收量上不尠減耗ヲ來セリ

區名	試驗區別	發芽始	發芽揃	開花始	總重量(乾物)	内實ノ量	收量順
第一	四月十五日播	五月十六日	六月三日	六月廿八日	二、五九〇	八、九〇〇	三
第二	四月廿三日播	五月十七日	六月六日	七月一日	二、三〇〇	八、二〇〇	二
第三	五月五日播	五月廿四日	六月六日	七月一日	一、四、九六〇	一〇、七六六	一



### 耕種梗概

- 一、苗床 葱頭ニ全シ
- 一、播種 四月六日(大正三年) 四月九日(大正四年)
- 一、播種量 一畝當四勺
- 一、播種法 大体葱頭ニ全シ
- 一、床ノ坪數 四勺ノ種子ハ約二坪ノ床面ニ播下セリ

一、床中ノ手入 五月上旬全下旬ノ二回ニ間引キテ苗ノ發育ヲ均一ナラシメ尙雜草ノ除去ニ勉メ間引ノ都度條間ヲ「ホー」ニテ中耕シタリ

一、假 植 大正三年ハ六月十三日大正四年ハ六月十五日冷床中ニ八寸畦一寸株間ノ割合ニ眞直ニ植エ付ケタリ

一、假植中ノ手入 大正三年ハ六月廿一日、七月一日、七月十四日、大正四年ハ六月十九日、六月廿七日、七月七日ノ三回ニ分チテ水ニテ倍量ニ稀釋セシ人糞尿ヲ施與シ全時ニ中耕ヲ行ヒタリ肥料ノ分量ハ一回分十坪ニ付水ヲ混セザル人糞尿五貫匁ヲ用ヒタリ

一、本圃整地 大正三年ハ七月十日、大正四年ハ七月廿一日、甘藍跡地ヲ町嚙ニ耕耘均平セリ

一、定 植 七月廿九日(大正三年) 八月十一日(大正四年)

一、畦 幅 三尺—二尺五寸—二尺

一、株 間 三寸

一、苗ノ選擇 各品種ニ就キ苗ハ眞直ニシテ葉色ノ濃淡ニ失セザル中庸ナルモノニシテ且ツ分蘖ノ微ナキ(但シ分蘖種ハ例外)發育良好ナルモノ、ミヲ選ビタリ

一、作畦及栽植法 豫テ整地シ置キタル圃地ノ既定距離ニ東西ニ長ク深サ七寸(短莖種ハ四寸)幅五寸餘ノ整然タル溝畦ヲ穿チ更ニ其底部ヲ淺ク耕シテ原肥ヲ投ジ鍬ニテ土ト克ク混和シ然後選別シタル苗ノ粗皮ヲ剝ギタルモノヲ一株一本宛ニ溝畦ノ南側ニ接シテ眞直ニ立テカケ根ヲ全部北側ニ配置シテ根元ヲ揃ヘ鬚根ノ隠ル、マデ土ヲ被ヒ以テ其倒伏セサル様植付ケタリ

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用 量	追 肥			窒 素	磷 酸	加 里	價 額
		一回	二回	三回				
堆肥	10,000	10,000			0.10			0.10
大豆粕	1,500	0.500			0.10			0.10
人糞	3,000	1,000			0.10			0.10
木灰	1,100	0.500			0.10			0.10

一、追 肥 八月二十日、九月十六日、十月十四日 (大正三年) 八月廿三日、九月十六日、十月十五日 (大正四年)

一、七 寄 肥 八月二十日、九月十六日、十月十四日、十一月三日、十二月一日 (大正三年) 八月廿三日、九月十六日、十月十五日、十一月五日 (大正四年)

一、土 寄 法 第一回追肥後畦間ノ土ヲ鍬ニテ細碎シ僅ニ肥料ノ隠ル、程度ニ薄ク土ヲ覆ヒ其後此上(溝中)ニ第二回追肥ヲ施シテ前全樣薄ク土ヲ覆ヒ尙ホ第三回追肥後ニ前回ヨリモ稍々厚ク土寄ヲ行ヒ曩ニ穿チタル溝畦ノ八分通りヲ埋メ終レリ恁クテ第四回目ハ葉ノ莖ヨリ分岐セル部分マデ土ヲ覆フニ止メ第五回目ハ畦間ノ土ヲ寄セ高ク盛リ上ゲタリ

一、收 穫 一月十五日(大正三年) 一月十四日(大正四年)

一、品 種 試 驗 (大正三年度ニテ完結)

一、目 的 現今知名ノ葱ヲ蒐集栽培シ其生育收量及品質ノ良否ヲ比較研究シ以テ本縣ノ風土

ニ適スル良種ヲ選擇セントス

一、試験區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	東京根	東京	第五	岩	埼玉
第二	千住	全上	第六	水戸薄	茨城
第三	金澤	石川	第七	九條	京都
第四	下仁	群馬			

一、生育狀況

定植後ハ早魃ノタメ活石遲延シタリ其後八月下旬頃ト十月中下旬頃トノ二回露菌病發生セシヲ以テ直ニ豫防劑ヲ撒布シテ之ヲ防除セリ

一、特性

(但シ發育中庸ナルモノニ就テ調査セリ)

區名	品名	種名	分蘗多少	草丈	軟化部ノ長サ	軟化部ノ太サ(周)	品質	備考
第一	東京根	深住	少	二五〇	一、四〇	〇、三〇	上	
第二	千住	全	全	二四〇	一、三〇	〇、二五	最上	
第三	金澤	全	全	二二〇	〇、九〇	〇、二七	最上	
第四	下仁	田澤	全	一、五〇	〇、六〇	〇、二五	全	葉葱用
第五	岩	槻	最	一、七〇	〇、六〇	〇、二六	中	葉葱用
第六	水戸薄	赤	多	二二〇	〇、八〇	〇、三三	全	莖部紅色軟化部粗硬
第七	九條	條	全	二二〇	〇、七五	〇、二〇	上	葉葱用

一、收量 (一畝當)

區名	品名	種名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	平均收量
第一	東京根	深住	七九,〇〇〇	六九,五〇〇	七二,〇〇〇	七三,一七〇
第二	千住	全	五二,五〇〇	六七,三〇〇	五二,四〇〇	五七,〇七〇
第三	金澤	全	四七,〇〇〇	四三,九〇〇	三七,六〇〇	四二,八七〇
第四	下仁	田澤	四三,八〇〇	二六,七〇〇	二六,一〇〇	三三,二〇〇
第五	岩	槻	四三,八〇〇	六三,五〇〇	四三,九〇〇	五〇,七六〇
第六	水戸薄	赤	一	八二,五〇〇	九五,七八〇	(2) 八九,一四〇
第七	九條	條	一	六八,七〇〇	六八,五五〇	(2) 六七,六五〇

備考 (2) トアルハ試験年數ヲ示ス

以上ノ事實ヲ綜合スルニ軟白部用ノ太葱ニアリテハ東京根深及ビ千住ノ兩種ハ品質優良收量亦饒多ナリ金澤ト下仁トハ前者ニ劣ルヲ認ム而シテ葉葱用トシテ品質收量並ビ優レタルハ九條ナリ又水戸薄赤ハ品質前種ニ劣ルモ栽培容易ニシテ收量ノ多額ナル前記諸品種中本種ノ右ニ出ツルモノナキヲ以テ品質ヲ問ハザル場合ニハ水戸薄赤ヲ選ブテ最モ得策トス

一、空素成分増減試験

一、目的

葱栽培上空素成分ノ多寡ハ其生産上ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ研究セントス

一 供試品種 千住太葱  
一、試驗區別

第一、標準肥料(耕種梗概ニ準ズ)

第二、窒素二割五分増加

第三、窒素五割増加

第四、窒素二割五分減

備考 増加窒素分ハ硫酸安母尼亞ヲ用ヒ之ヲ追肥トシテ施與セリ

一、生育狀況 大正三年度ハ概略品種試驗ト全一ナルモ大正四年度夏季ハ旱魃ノタメ生育ヲ中止シ從ツテ定植ヲ後ラシ且ツ其後ノ發育モ亦例年ニ比シ遲緩ナリ加フルニ露菌病ノ發生甚ダシク數回ぼると一合劑ヲ撒布シ辛フジテ之ヲ防除セリ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總收量		二個年平均收量	收量順
		大正三年度	大正四年度		
第一	標準肥料區	五,000	五,300	五,150	一
第二	窒素二割五分増加區	四,900	五,700	五,150	二
第三	窒素五割増加區	四,800	五,000	四,900	三
第四	窒素二割五分減區	五,700	五,200	五,450	四

### 三、葱苗乾燥試驗

一、目的 定植ノ際葱苗乾燥ノ利益ヲ明ニセントス

一、供試品種 甲、東京根深 乙、九條

一、試驗區別

第一、無乾燥區(耕種梗概ニ準ズ)

第二、乾燥區(大正三年度ハ七月廿七日ハ晴大ニ日間、大正四年度ハ八月八日ヨリ十日ニ至ル三日間(但シ十日ハ雨天)陽乾シタリ)

一、生育狀況 一般ニ乾燥區ハ活着稍遲レタリ其他前試驗ニ全ジ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總收量		二個年平均收量	備考
		大正三年度	大正四年度		
甲第一	無乾燥區	七,300	五,200	六,250	外觀稍劣
甲第二	乾燥區	八,300	四,600	六,450	全上稍良
乙第一	無乾燥區	七,300	六,700	七,000	全上稍劣
乙第二	乾燥區	七,900	六,000	六,950	全上稍良

# ●胡蘿蔔

耕種梗概

一、整地 六月下旬七月上旬ノ二回ニ圃地ヲ耕耘シ土塊ヲ細碎均平シタリ  
七月二十日 (大正三年度)  
七月十六日 (大正四年度)

一、播種量 一畝當四合(但毛無種)

一、播種法 一定ノ畦幅ニ作條ヲ切リテ原肥ヲ施シ少シク被土シ鍬ニテ輕ク表面ヲ均ラシ之ニ密ニ失セザル様條播シ薄ク細土ヲ篩ヒカケ乾燥ヲ防ギ一ニ雨水ノタメ種子ノ流失セザルヤウ薄ク覆藁ヲ成シタリ

一、畦幅 一尺五寸

一、株間 六寸(發芽後數回ニ間引キテ一定ノ株間トス)

一、間引 八月十四日、八月廿五日、九月九日 (大正三年度)  
八月十三日、八月廿七日、九月八日 (大正四年度)

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	追肥		加量
		一回	二回	
堆肥	10,000 <sup>貫</sup>	1	1	0,318
米糠	1,500	1	1	0,195
灰	1,000	1	1	0,319

人糞	木灰	價額
10,000	1,000	1,000 <sup>圓</sup>

一、追肥 八月二十日、九月廿八日 (大正三年度)  
八月十八日、九月廿五日 (大正四年度)

一、中耕 全上

一、收穫 十二月十二日 (大正三年度)  
十二月八日 (大正四年度)

## 一、品種試驗

(大正三年度ニテ完結)

一、目的 内外各品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較シ以テ當地方ノ風土ニ適ス

ル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	札幌大	札幌	第六	オックス、ハート	米國
第二	金時	大阪	第七	サットンズ、アーリー、セム	英國
第三	三寸	東京	第八	モーリス、ロンケ、オレンジ	佛國
第四	東京大	全京	第九	タンパース	米國
第五	サットンズ、チヤンピオン、スカレット、ホーン	英國			

一、生育狀況

播種後早魃ノタメ發芽遲延シ且ツ一旦發芽セシモノト雖モ枯損少カラザリシガ就

中金時ニ於テ著シ其後十月一日朝ノ暴風雨ニ邂逅シ損傷ヲ被ムリ爲ニ收量ニ影響ヲ來セリ

區名	品種名	葉ノ多少	根之長短	肉質	品質	
第一	札幌大長	多	長圓錐	濃黃赤	稍長	中上
第二	金時	中	全	深紅	稍長	中上
第三	三寸	少	鈍圓錐	黃赤	短	中
第四	東京大長	中	棒狀	濃黃赤	長	全上
第五	サツトンス、チャンピオン、スカイレット、ホーン	極少	圓筒	全	稍短	中
第六	オツクス、ハート	多	鈍圓錐	全	全	全
第七	サツトンス、アーリー、ゼム	全	全	黃赤	甚短	中
第八	モーリス、ロンゲ、オレンジ	全	棒狀	濃黃赤	長	中
第九	タンパース	全	圓錐	黃赤	中	稍上

一、收量(一畝當)

區名	品種名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	三箇年平均
第一	札幌大長	四七、七五〇	五一、六〇〇	四九、〇〇〇	四六、一三〇
第二	金時	三三、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三七、〇〇〇	三六、三三〇

第	第	第	第	第	第	第
三	四	五	六	七	八	九
三寸	東京大長	サツトンス、チャンピオン、スカイレット、ホーン	オツクス、ハート	サツトンス、アーリー、ゼム	モーリス、ロンゲ、オレンジ	タンパース
三、七〇〇	三、五、二〇〇	四七、〇〇〇	二八、三〇〇	五八、三〇〇	四一、四〇〇	—
四、二五〇	四、六〇〇	二五、一〇〇	五五、〇〇〇	六四、二五〇	五七、二五〇	七、四〇〇
五、〇〇〇	五、七〇〇	三、二五〇	八、九、二五〇	九三、〇〇〇	八〇、三〇〇	八、九、〇〇〇
四、一〇〇	四、六、二九〇	三、六、一〇〇	五、七、四九〇	七、三、〇〇〇	五、九、六〇〇	八、〇、四〇〇
三、三〇〇	三、九、〇〇〇	三、三、〇〇〇	五、七、四九〇	七、三、〇〇〇	五、九、六〇〇	八、〇、四〇〇
三、三〇〇	三、九、〇〇〇	三、三、〇〇〇	五、七、四九〇	七、三、〇〇〇	五、九、六〇〇	八、〇、四〇〇

前表ニ依レバ收量ニ於テ本邦種ハ一般ニ洋種ノ豊産ナルモノニ比シ著シク遜色アリ然レトモ由來其細長ナル形狀ハ邦人ノ嗜好ニ投ジ市場ノ歡迎スル所ナルヲ以テ單ニ收量ノ多寡ヲ以テ良否ヲ定メ難シ本邦種中品質收量並ビ優レタルハ札幌大長及ビ東京大長ノ二種ニシテ就中札幌ヲ有望トス金時ハ色澤良好ナルモ品質收量共ニ前二種ニ劣ル三寸ハ其原種洋種ナルヲ以テ形質洋種ニ類シ品質優良且ツ早生ナルヲ以テ年數回ニ播種ヲ試ミ得ルノ利アリ唯其收量ノ多カラザルハ一ノ缺點トス洋種中「モーリス、ロング、オレンジ」ハ形狀本邦種ニ彷彿スルモ其他ハ一般ニ本邦種ト形質ヲ異ニシ根形短太ナルヲ以テ栽培容易且ツ調理ニ際シ根端ノ截去セラル、部分少ク加フルニ馥郁タル香氣ハ本邦種ノ遠ク及バザル所ナリ就中「アーリー、ゼム」ハ收量饒多品質亦良好ナルヲ以テ最モ有望種トス又「タンパース」ハ品質前種ニ一步ヲ讓ルモ多産ナルコト本種ノ右ニ出ツルモノナク實用的栽培品種トシテ推賞スルニ足ル

二、窒素成分増減試驗



- 一、目的 窒素成分ノ多寡ハ胡蘿蔔ノ生産及ビ品質上ニ如何ナル關係アルカラ驗知セントス
- 一、供試品種 東京大長
- 一、試驗區別
  - 第一、標準肥料(耕種梗概ニ準ズ)
  - 第二、窒素二割五分増加
  - 第三、窒素五割増加
  - 第四、窒素二割五分減

備考 増加窒素分ハ硫酸安母尼亞ヲ代用シ専ラ追肥トシテ施與シタリ

- 一、生育狀況 大正三年度ハ品種試驗ニ全ジク全四年度ハ播種前後早魃ノタメ發芽遲延發芽セザル部分多ク七月下旬更ニ一部分播直ヲ行ヒシモ尙欠損部少カラズ其後ノ生育稍々良好ニ赴ケリ

- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三箇年平均	
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量
第一	標準肥料區	六〇,一〇〇	三〇,六〇〇	四八,四八〇	一四,八八〇	三〇,九六〇	九,九六〇	四六,五五〇	一八,四八〇
第二	窒素二割五分増加區	五五,八〇〇	二九,四〇〇	七六,三〇〇	二七,八四〇	四〇,六〇〇	一三,四四〇	五七,六〇〇	二三,五〇〇
第三	窒素五割増加區	六二,二〇〇	三二,八〇〇	七八,七〇〇	三〇,五〇〇	三七,二〇〇	七,九二〇	五五,七〇〇	二二,四一〇
第四	窒素二割五分減區	四九,三〇〇	二八,二〇〇	八三,五〇〇	三〇,七三〇	三八,二〇〇	一一,〇〇〇	五七,〇〇〇	二二,六四〇

前表ニヨレバ年ニヨリ成績區々ナルヲ以テ尙ホ試驗ヲ繼續シテ判定セン

### 三、刺戟肥料試驗

- 一、目的 胡蘿蔔栽培上刺戟肥料加用ノ効果ヲ確メントス

- 一、供試品種 東京大長

- 一、試驗區別

- 第一、無加用區(耕種梗概)
- 第二、一畝當鹽化マンガン百匁ヲ加用ス
- 第三、全上二百匁ヲ加用ス
- 第四、全上硫黃華二百匁ヲ播種前ニ加用ス

- 一、刺戟劑加用日
  - 第二區 八月廿五日、十月三日ノ二回ニ分施ス(大正三年度)
  - 第三區 八月廿八日、十月二日(大正四年度)
  - 第四區 八月廿五日、十月三日、十月廿五日ノ三回ニ分施ス(大正三年度)
  - 七月十五日(大正三年度)
  - 七月十五日(大正四年度)

- 一、生育狀況 概略前試驗ニ全ジ

- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正三年度	大正四年度	二箇年平均	備考			
第一	無化用區	八五,三〇〇	四〇,〇〇〇	五一,八〇〇	一九,〇〇〇	六八,五七〇	三九,五〇〇	

第 二	鹽化マンガン百匁加用區	五、九三〇	二八、六七〇	六四、六〇〇	二二、四〇〇	六、七〇〇	二六、〇四〇
第 三	鹽化マンガン二百匁加用區	九、二〇〇	四四、五三〇	四六、二〇〇	三、八〇〇	六九、一〇〇	三六、一七〇
第 四	硫黃華二百匁加用區	六、三三〇	三三、〇〇〇	四六、〇〇〇	三、四〇〇	五五、六七〇	二七、七〇〇
全	大正四年ニ甚數早害ヲ受ケ收量ヲ減シタリ						

● 蘿 蔔

耕種梗概

- 一、整地 七月中旬下旬ノ二回ニ圃地ヲ深耕均平シタリ
- 一、播種 八月一日(大正三年)大形種 八月十九日(大正三年)中小形種  
八月十一日(大正四年)大形種 八月廿三日(大正四年)中小形種  
一畝當一合二勺(但シ大形種ハ八勺)
- 一、播種法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ切り原肥用人糞尿ヲ先ヅ溝底ニ施シ然ル後他ノ配合セル原肥ヲ一定ノ株間ニ点々配置シ其側傍即チ人糞尿ノ上ニ少シク間土シ其上ニ一株十粒餘宛ニ点播シ細碎シタル土ヲ三四分ノ厚サニ覆ヒタリ
- 一、畦幅 二尺五寸(大形種) 二尺(中小形種)大正三年度  
大正四年度ハ全部二尺トナセリ
- 一、株間 二尺(大形種即チ聖護院、但シ大正四年度ハ一尺五寸トセリ)一尺二寸(中形種即チ宮重)一尺(小形種即チ練馬尻細)

一、間引  
八月十日、八月十五日、八月廿二日、八月卅一日(八月一日播)大正三年度  
八月十六日、八月二十日、八月廿七日、八月六日(八月十一日播)大正四年度  
八月廿一日、九月五日、九月十日、九月六日(八月十八日播)大正三年度  
八月廿八日、九月一日、九月八日、九月十四日(八月廿三日播)大正四年度

一、肥料  
(一畝當)

肥料名	用量	原肥	追	肥	窒素	磷酸	加里	價額
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	—	—	〇、四五〇	—	—	—
大豆粕	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	〇、二八六	—	—	—
人糞	三三、〇〇〇	〇、七〇〇	八、〇〇〇	—	〇、一四〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
菜灰	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	—	—	—	—	—

以上煮食用種

肥料名	用量	原肥	追	肥	窒素	磷酸	加里	價額
堆肥	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	〇、三五〇	—	—	—
米糠	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	〇、二五九	—	—	—
人糞	三三、〇〇〇	六、〇〇〇	八、〇〇〇	—	〇、三三六	—	—	—
菜灰	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	—	—	—	—	—

以上漬物用種又ハ淺漬及煮食兼用種

一、追肥 八月廿二日、九月十六日、十月十日（八月一日播）大正三年度  
八月廿八日、九月十八日、十月十五日（八月十一日播）大正四年度  
九月七日、九月十九日、十月六日（八月十九日播）大正三年度  
九月八日、九月廿七日、十月六日（八月廿三日播）大正四年度

一、中耕 全上

一、手入 九月上中旬ノ乾風多キ交ハ間引ノ序ニ幼苗ノ根際ニ土ヲ寄セテ倒伏ヲ防ギ其他各種害蟲驅除ハ怠ラズ行ヒタリ

一、收穫 十二月二日（大形種）十二月十日（中小形種）大正三年度  
十二月二日（各種共）大正四年度

### 一、下葉摘除試験

（大正三年度ニテ完結）

一、目的 長形種蘿蔔ヲ栽培スルニ方リ其根部ノ稍々發育セシ頃其外葉數枚ヲ掻キ取ル時ハ根部ノ發育肥大ヲ扶クルニ効アリト唱道スル者アリ仍テ本試験ハ掻葉ノ有効ナルカ又効果アリトセバ幾何程度ニ成スベキカヲ驗知セントス

一、供試品種 宮重尻細

一、試驗區別

區名	掻葉回数	掻葉時期
第一	全ク掻葉セズ	—
第二	一回掻葉ス	十月十一日
第三	二回掻葉ス	十月十一日、十月廿五日

### 第四

三回掻葉ス

十月十一日、十月廿五日、十一月九日

一、生育狀況 大正三年播種前後ハ稀有ノ旱魃ナリシタメ發芽甚ダ不揃ナリシガ八月廿九日朝來ノ風雨ニ遭遇シテ全部發芽セシモ劇雨ナリシユヘ土中ニ埋没セラレシモノ不揃從ツテ被害些少ナラザリシモ風企ギテ應急ノ手入ヲ施シ辛フジテ枯死ヲ免レタリ又十月一日朝ノ驟雨ニ邂逅シ是亦生育上著大ノ打擊ヲ被ムリタリ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度 根ノ重量葉ノ重量根ノ重量葉ノ重量	大正二年度 根ノ重量葉ノ重量根ノ重量葉ノ重量	大正三年度 根ノ重量葉ノ重量根ノ重量葉ノ重量	三個年平均	本數
第一	更ニ掻葉セズ	一七三、二六〇 實	二六、六三〇 實	一四九、九五〇 實	一八四、三七五 實	一、七五〇 實
第二	一回掻葉ス	一六四、五〇〇 實	二七、七五〇 實	一四九、二五〇 實	一三二、五〇〇 實	一、六一五 實
第三	二回掻葉ス	一三三、八六〇 實	二四、三八〇 實	一五一、五〇〇 實	一〇〇、八三五 實	一、五八、六六八 實
第四	三回掻葉ス	一三三、四四〇 實	二八、二六〇 實	一一五、〇〇〇 實	一〇一、七五〇 實	一、六三、四〇〇 實

右表ニヨレバ年ニヨリ多少掻葉ノ有効ナルコト無キニ非レドモ要スルニ其効果顯著ナラザルノミナラズ掻葉ニハ不揃手數ヲ要スルヲ以テ殊更下葉摘除ノ勞ヲ採ルノ必要ナキモノト認ム

### 二、煮食用蘿蔔一要素多量試験

一、目的 煮食用蘿蔔栽培上肥料三成分中特ニ一成分ヲ多量ニ施ス時ハ其生育收量ニ如何ナ

ル差異アルヤヲ驗知セントス

- 一、供試品種 聖護院
- 一、試驗區別

第一、標準肥料(耕種梗概ニ準ズ)

第二、窒素五割増加(増加窒素分ハ硫酸安母尼亞ヲ用ヒタリ)

第三、磷酸五割増加(増加磷酸分ハ精過磷酸石灰ヲ用ヒタリ)

第四、加里五割増加(増加加里分ハ硫酸加里ヲ用ヒタリ)

備考 各增加成分ハ追肥ニ施用シタリ

- 一、生育狀況 大正三年度播種後ハ早魃ノタメ發芽著シク不揃ナリシガ其後ノ降雨ノタメ全部發芽揃トナレリ爾後ノ生育ハ大体前試驗ト全ジ大正四年度ハ晩秋温暖ナリシタメ腐敗病發生シ各區共被害少カラズ

- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三箇年平均	
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量
第一	標準肥料	一七、六〇〇	一六、九七〇	一六、三三〇	三〇、九二〇	二四、一七〇	三六、九〇〇	一八〇、三三〇	二八、二六〇
第二	窒素五割増	一六、〇〇〇	一六、一〇〇	一八、五三〇	三三、三三〇	二七、八〇〇	五二、〇〇〇	二〇八、四二〇	三六、八四〇
第三	磷酸五割増	二四、〇七〇	一八、二七〇	一六、八三〇	二五、一七〇	二四、〇六〇	三三、一八〇	一八二、四一〇	二五、三三〇
第四	加里五割増	一〇、〇一〇	一七、四六〇	一八、三三〇	二五、五三〇	二九、八六〇	三九、二〇〇	一七〇、八八〇	二七、四一〇

右ノ成績ニヨレバ三ヶ年ヲ通ジテ第二窒素五割増區ノ收量最高位ヲ占ムルト雖モ其増量ハ標準區ニ比シ大ナラズ肥料代價ニ比セバ却テ不利トナル又第三磷酸五割増區ノ如キモ大ナル軒輕ナク第四區最モ劣ルヲ以テ結局標準區ノ如キ肥料配合法ヲ適當ト認ム

### 三、澤庵用蘿蔔肥料配合法試驗

- 一、目的 澤庵用蘿蔔ノ肥料トシテ一般ニ米糠ヲ用ユルモノ多キガ如シ仍テ本試驗ハ之ニ代

フルニ他ノ肥料ヲ以テセバ其收量及品質ニ如何ナル影響アルカラ驗知セントス

- 一、供試品種 練馬尻細

- 一、試驗區別

#### 第一、標準肥料

肥料名	用量	追肥			總價
		一回	二回	三回	
堆肥	一〇、〇〇〇				〇、三三〇
米糠	一、五〇〇				〇、二五〇
人糞	三、三〇〇				〇、三九六
灰	三、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一、三三六

#### 第二、大豆粕區

肥料名	用量	原肥	追肥		
			一回	二回	三回
堆肥	10,000	10,000			
大豆粕肥	1,500	1,500			
人糞	3,000	3,000			
精過磷酸石灰	0,300	0,300			
葉灰	3,000	3,000			
硫酸加里	0,000	0,000			
空素					
加里					
價額					
空素					
加里					
價額					
空素					
加里					
價額					

第三、荒粕區

肥料名	用量	原肥	追肥		
			一回	二回	三回
堆肥	10,000	10,000			
荒粕肥	0,000	0,000			
人糞	3,500	3,500			
葉灰	2,800	2,800			
硫酸加里	0,110	0,110			
空素					
加里					
價額					
空素					
加里					
價額					

第四、骨粉區

肥料名	用量	原肥	追肥		
			一回	二回	三回
堆肥	10,000	10,000			
骨粉	0,211	0,211			
空素					
價額					

第五、精過磷酸石灰區

肥料名	用量	原肥	追肥		
			一回	二回	三回
人糞	3,000	3,000			
硫酸安母尼亞	0,180	0,180			
硫酸加里	0,000	0,000			
灰	3,000	3,000			
空素					
加里					
價額					
空素					
加里					
價額					

肥料名	用量	原肥	追肥		
			一回	二回	三回
堆肥	10,000	10,000			
人糞	3,000	3,000			
葉灰	3,700	3,700			
硫酸安母尼亞	0,260	0,260			
精過磷酸石灰	0,300	0,300			
空素					
加里					
價額					
空素					
加里					
價額					

一、生育狀況 概シテ下葉摘除試験ニ全ジ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度		大正三年度		大正四年度		三箇年平均	
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量
第一	標準肥料	15,180	45,380	20,490	49,000	13,590	53,400	16,415	49,280
第二	大豆粕肥	16,010	46,130	23,040	46,900	14,340	45,900	17,480	49,660
第三	荒粕區	15,860	45,750	23,010	46,550	14,990	48,850	17,280	49,040

第四	骨粉區	一六、七五〇	五、七五〇	一八九、四五〇	四二、四八〇	一四八、九五〇	五九、五四〇	一六七、〇五〇	五二、六〇〇
第五	精過磷酸區	一七、三三〇	四、六三〇	一九三、四六〇	五三、四三〇	一二、二八〇	六二、三三〇	一五〇、六六〇	五三、三〇〇

前表ニヨレバ荒粕區ノ收量最高位ヲ占メ大豆粕區及骨粉區之ニ順次シ精過磷酸石灰區最低位ニアリト雖モ澤庵用蘿蔔ハ徒ニ收量ノ多キヨリモ其外觀及肉質ノ品位ニ重キヲ置クノ要アリ之ヲ既往三箇年ノ成績ニ徴スルニ荒粕區骨粉區標準區ノモノ就中品揃ヒシテ外觀優美ニシテ精過磷酸石灰區最モ不良ナリ而シテ肥料價額ニ至リテハ各區共ニ大ナル逕底ナキヲ以テ以上三區中荒粕區ノ如キ肥料配合法ヲ最モ良好ト認ム

#### 四、追肥回数對施肥期試驗

一、目的 追肥回数ノ多少ト其早晚ハ蘿蔔ノ收量ニ如何ナル差アルカ併セラ適當ノ施肥期ヲ知ラントス

一、供試品種 煮食用種、聖護院・兼用種、宮重尻細  
澤庵用種、練馬尻細

#### 一、試驗區別

- 甲、煮食用種(追肥用人糞尿一畝當二十八貫匁)  
 第一、四回追肥(八月十八日人糞尿六貫匁、九月五日全上七貫匁、九月廿六日全上七貫匁、十月十日全上八貫匁(大正三年)八月廿三日全、九月十日全、九月廿九日全、十月二十日全(大正四年))  
 第二、三回追肥(耕種梗概ニ準ズ)

第三、二回追肥(八月廿五日人糞尿十三貫匁、十月三日全上十五貫匁(大正三年)九月一日全、十月四日全(大正四年))

#### 乙、淺漬及煮食用種、丙、澤庵用種(追肥用人糞尿)

- 第一、三回追肥(耕種梗概ニ準ズ)  
 第二、二回追肥(九月九日人糞尿十貫匁、十月五日全上十六貫匁(大正三年)九月八日全、九月廿九日全(大正四年))  
 第三、一回追肥(九月十九日人糞尿二十六貫匁(大正三年)九月十八日全(大正四年))

備考 各區共原肥用人糞尿ハ耕種梗概ニ準ジテ一定シ糞灰ノ殘部ハ何レモ第一回追肥ノ際ニ施用シ中耕ハ乙及丙ノ一回追肥區ニアリテ大正三年ハ九月二日大正四年ハ九月六日單ニ中耕ノミヲ施シ追肥ト同時ニ第二回目ノ中耕ヲ行ヒタリ

- 一、生育狀況 前記諸試驗ニ全ジ  
 一、收量 (一畝當)

#### 甲、煮食用種

區名	試驗區別	大正三年度		大正四年度		二箇年平均收量	
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量
第一	四回追肥	二六、六〇	三、八七〇	二四、九〇	四、一三〇	三九、七〇	三六、〇〇
第二	三回追肥	一八、三四〇	三、〇八〇	二五、四八〇	三、六三〇	二〇、〇〇	二九、六〇
第三	二回追肥	一九、九七〇	三、八六〇	二五、七五〇	三、七〇〇	二五、三三〇	三〇、一八〇

#### 乙、淺漬及煮食用種、丙澤庵用種

區名	乙			丙			試驗區別	大正三年度 根ノ重量	大正三年度 葉ノ重量	大正四年度 根ノ重量	大正四年度 葉ノ重量	二個年平均 根ノ重量	二個年平均 葉ノ重量
	第一	第二	第三	第一	第二	第三							
一	二	三	一	二	三	一	一回追肥	三三三.一	三七.一	一七八.二	二四.三	二〇〇.七	三〇.七
二	一	二	一	二	三	二	一回追肥	二〇四.三	三七.六	一九三.三	二八.五	一九八.三	二六.〇
三	三	一	三	一	二	三	一回追肥	二〇七.七	一九.七	一八六.〇	二六.七	一九六.九	二二.三
一	二	三	二	一	三	二	一回追肥	二〇八.一	六〇.九	一四八.七	六七.七	一七八.四	六四.〇
二	一	二	三	二	一	三	一回追肥	一六五.四	五三.五	一三三.六	四三.五	一五九.五	四八.三
三	三	一	一	三	二	一	一回追肥	一六五.〇	五三.二	一四〇.六	五九.〇	一五二.八	五五.六

● 蕪菁

- 耕種梗概
- 一、整地 八月上旬鍬ニテ町寧ニ圃地ヲ耕耘均平シタリ
  - 一、播種 八月廿五日 (大正三年) 八月廿三日 (大正四年)
  - 一、播種量 一畝當四勺
  - 一、播種法 蘿葡ニ全シ

- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺
- 一、肥料引 九月一日、九月十日、九月十九日、九月廿六日 (大正三年度) 八月廿八日、九月一日、九月九日、九月十八日 (大正四年度)
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥			窒素	磷素	加里	價額
			一回	二回	三回				
堆肥	10,000	10,000				0.357			
大豆粕	1,000	1,000				0.37			
人糞	20,000	6,000				0.114			
精過磷酸石灰	3,500	3,500				0.17			
灰		1,500	1,000						

- 一、追肥 九月十六日、九月廿八日、十月十四日 (大正三年度) 九月十六日、九月廿九日、十月十五日 (大正四年度)
  - 一、中耕 全上
  - 一、手入 蘿葡ニ全シ
  - 一、收穫 十二月十日 (大正三年度) 十二月三日 (大正四年度)
- 一、目的 蕪菁栽培上肥料三成分中特ニ一成分ヲ多量ニ施ストキハ其生育及ビ收量ニ如何ナ
- 一、一要素多量試驗

ル差アルカヲ驗知セントス

- 一、供試品種 聖護院
- 一、試験區別

- 第一、標準肥料(耕種梗概ニ準ズ)
- 第二、窒素五割増加
- 第三、磷酸五割増加
- 第四、加里五割増加

備考 各區增加成分ハ第二區ハ硫酸安母尼亞、第三區ハ精過磷酸石灰、第四區ハ硫酸加里ヲ以テシ何レモ追肥ニ施用シタリ

一、生育狀況 大正三年度播種當時ハ蘿蔔ト全様早魃ノタメ發芽遲延シタリ又全年十一月一日ノ暴風雨ニ各株倒伏シテ不鈔生育ヲ害セリ大正四年度ハ晚秋白銹病ノ發生ヲ來シ各區共ニ感染生育收量ニ多大ノ影響ヲ及ボセリ

- 一、收量 (一畝當)

區名	試験區別	大正三年度				三箇年平均收量		
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量			
第一	標準肥料	九一、八〇〇	三三、七〇〇	一四二、九六〇	五四、六二〇	一七二、五〇〇	九四、八五〇	三一、八九〇
第二	窒素五割増	一一一、六八〇	三九、四九〇	一四九、五五〇	六六、九〇〇	一七三、〇〇〇	一〇五、九〇〇	四三、四五〇
第三	磷酸五割増	八三、四〇〇	二〇、一〇〇	一四八、五〇〇	五八、八〇〇	一八九、八〇〇	九六、六〇〇	三三、六三〇

第四	加里五割増	八六、五五〇	三三、九五〇	一五三、九〇〇	五九、四〇〇	一七六、七三〇	一三三、九〇〇	一五、七〇〇	三三、九五〇
----	-------	--------	--------	---------	--------	---------	---------	--------	--------

前表ニヨレバ第二窒素五割増區及第四加里五割増區ノ兩區ハ相伯仲シテ收量多ク標準區ノ收量最モ劣レリ而シテ窒素五割増區ハ肥料價格高キヲ以テ或ハ不利ナランモ加里五割増區ハ肥價比較的廉ナルヲ以テ該區ノ如キ肥料配合法ヲ最モ有利トス

### 二、追肥回数對施肥期試驗

- 一、目的 追肥用ノ所定肥料ヲ幾回ニ施用スルヲ利益トスルカ併セテ施肥ノ適期ヲ驗知セントス

- 一、供試品種 聖護院
- 一、試験區別

- 第一、三回追肥(耕種梗概ニ準ズ)
    - 九月九日人糞十貫匁、十月三日全上十四貫匁(大正三年)
  - 第二、二回追肥
    - 九月十日全 十月四日全(大正四年)
  - 第三、一回追肥
    - 九月廿六日人糞廿四貫匁(大正三年)
    - 九月廿四日全(大正四年)
- 備考 各區共糞灰ノ殘部ハ第一回追肥ノ際ニ施シ又第三區ニアリテハ大正三年ハ九月九日大正四年ハ九月十日單ニ中耕ノミヲ行ヒ其後追肥ト同時ニ第二回中耕ヲ行ヒタリ

- 一、生育狀況 前試驗ト略ボ同一ナリ
- 一、收量 (一畝當)



區名	試驗區別	大正三年度		大正四年度		二個年平均收量	
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量
第一	三回追肥	二六、三八〇	五七、九〇〇	八三、〇三〇	一三、一五〇	一〇、七九〇	五、〇四〇
第二	二回追肥	一〇、七五〇	四、六〇〇	八三、四八〇	三、四、八三〇	九、六三〇	三、三三〇
第三	一回追肥	一、五、四五〇	五、七〇〇	五、六、二五〇	一、七、一〇〇	一〇、八五〇	三、六、四三〇

### ●結球白菜

耕種梗概  
 一、整地 七月上旬、八月上旬ノ二回叮嚀ニ圃地ヲ耕耘均平シタリ  
 一、播種 八月十二日(大正三年) 八月十八日(大正四年)  
 一、播種量 一畝當一斗半  
 一、播種法 大正三年ハ八月四日、大正四年ハ八月十三日既定畦幅ニ作條ヲ穿テ原肥用人糞尿ヲ溝底ニ先ツ施シ其上ニ他ノ配合原肥ヲ一樣ニ敷キ少シク被土シ置キテ播種當日一定ノ株間ニ一株十粒内外宛種子ヲ播下シ細碎シタル土ヲ二分余ノ厚サニ覆ヒタリ  
 一、畦幅 二尺五寸  
 一、株間 二尺

一、間引 八月十八日、八月廿七日、九月五日、九月十日 (大正三年度)  
 八月廿五日、九月二日、九月六日、九月十六日 (大正四年度)  
 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥			總價
			一回	二回	三回	
堆肥	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	〇、五九九
大豆粕	一、〇〇〇	一、一〇〇	〇、八〇〇	—	—	〇、三五八
人糞	五〇、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五、〇〇〇	—	—	〇、四三六
精過磷酸石灰	〇、六〇〇	〇、六〇〇	—	—	—	—
葉灰	二、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	—	—	一、四九〇

一、追肥 九月二日、九月十八日、十月五日、十月十九日(大正三年、四回分施)  
 九月七日、九月廿五日、十月廿一日、(大正四年度)  
 一、中耕 全上  
 一、手入 大体ノ手入法ハ蘿蔔ニ全ジキモ第三回追肥頃ヨリ結球ヲ始メ施肥中耕ニ不便少カラザレバ一株宛糞ニテ緩ク結縛シ以テ作業ヲ容易ナラシメ施肥終ヘテ再ビ結束ヲ除去シタリ  
 一、收穫 十二月一日(大正三年度)  
 (大正四年度)

### 一、追肥回数對施肥期試驗 (大正三年度ニテ完結)

一、目的 結球白菜栽培上追肥回数ノ多少ト施肥期ノ早晚ハ其收量上ニ如何ナル影響アルカ

ヲ驗知セントス

一、供試品種 芝罘

一、試驗區別

第一、四回追肥(九月二日人糞尿八貫匁、九月十八日全十二貫匁、十月五日全十二貫匁、十月十九日全十貫匁)

第二、三回追肥(九月九日ニ人糞尿十二貫匁、九月廿八日ニ全上十五貫匁、十月十九日ニ全上十五貫匁)

第三、二回追肥(九月九日ニ人糞尿十八貫匁、十月十日ニ全上二十四貫匁)

備考 第二、三ノ兩區ト雖モ堆肥、大豆粕、藁灰ノ殘部ハ第一區全樣第一回追肥ノ際ニ施シタリ

一、生育狀況 發芽後早魃ノタノ枯損スルモノ不尠仍テ八月廿六日南側ヲ中耕土寄シテ乾燥ヲ阻止シタリ又八月廿九日朝來ノ暴風雨ニテ各葉緣擦傷ヲ被ムリ多少發育ヲ損セシモノ、如シ九月ニ入リテ天候順境ニ進ミシヲ以テ生育頓ニ快復セシモ全月下旬ヨリ十月中旬ニ至ル頻々タル降雨ノタメ腐敗病及ビ白銹病ノ發生ヲ來シ應急ノ手入ヲ施セシト雖モ尙ホ幾分ノ被害ヲ免レザリキ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度		大正二年度		大正三年度		三箇年平均收量	
		重量	株數	重量	株數	重量	株數	重量	株數
第一	四回追肥	九、八〇〇	一九三	一〇、八〇〇	三三六	一六、五六〇	三三六	一三、九八七	三〇八

第	回	追肥		第	回	追肥	
		重量	株數			重量	株數
第二	三	一〇、八〇〇	三三六	一〇、八〇〇	三三六	一六、五六〇	三三六
第三	二	九、八〇〇	三三六	一〇、八〇〇	三三六	一六、五六〇	三三六

右表ニヨレバ三ヶ年ヲ通ジテ三回追肥區ノ收量最高位ヲ占ムルヲ以テ當場ノ如キ肥料配合法ニ於テハ四回以上追肥トシテ分施スル必要ヲ認メス

### 二、肥配合法試驗

一、目的 各種ノ肥料ヲ全成分ニ配合シ以テ結球白菜栽培上最モ有利ナル肥料配合法ヲ知ラントス

一、供試品種 芝罘

一、試驗區別

#### 第一、標準肥料區

肥料名	用量	原肥	追肥			空	價
			一回	二回	三回		
堆肥	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、五九九	〇、五九九
大豆粕	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、三五八	〇、三五八
人糞尿	五〇、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	〇、四三八	〇、四三八
精過磷酸石灰	〇、六〇〇	〇、六〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、九五〇	一、九五〇

第二、人糞尿及錫粕區

肥料名	用量	原肥	追肥			價
			一回	二回	三回	
堆肥	30,000	30,000	10,000			0.597
大豆粕	1,100	1,100				0.356
鯉粕	1,000	1,000				0.356
人糞尿	3,000	8,000	3,000	1,000		0.486
精過磷酸石灰	0,500	0,500			1,000	0.486
葉灰	3,000	2,000	1,000			0.270

第三、大豆粕區

肥料名	用量	原肥	追肥			價
			一回	二回	三回	
堆肥	30,000	30,000	10,000			0.597
大豆粕	3,000	3,000	1,000			0.358
人糞尿	3,000	6,000	8,000			0.358
精過磷酸石灰	0,500	0,500			9,000	0.358
葉灰	3,000	2,000	1,000			0.270

第四、硫酸安母尼亞區

肥料名	用量	原肥	追肥			價
			一回	二回	三回	
堆肥	10,000	10,000	10,000			0.599
大豆粕	2,000	2,000	0,500			0.358
硫酸安母尼亞	1,300	0,500	0,500			0.358
精過磷酸石灰	0,500	0,500			0,500	0.358
葉灰	5,500	2,000	2,000			0.270

第五、智利硝石區

肥料名	用量	原肥	追肥			價
			一回	二回	三回	
堆肥	30,000	10,000	10,000			0.599
大豆粕	2,000	1,100	0,500			0.356
智利硝石	1,800	0,500	0,500			0.356
精過磷酸石灰	0,500	0,500			0,500	0.356
葉灰	5,500	2,500	2,000			0.270

第六、錫粕區

肥料名	用量	原肥	追肥			價
			一回	二回	三回	
堆肥	30,000	10,000	10,000			0.597
鯉粕	2,000	1,000	1,000			0.357
人糞尿	3,000	6,000	8,000			0.357
精過磷酸石灰	0,500	0,500			9,000	0.357
葉灰	4,000	2,800	1,500			0.270

一、生育狀況 大正三年度迄ハ前試験ト全ジキモ大正四年度ハ晚秋温暖ナリシタメ腐敗病ノ發生ヲ來シ各區ニ被害ヲ及ボシタリ

一、收 量 (一畝當)

區 名	試 驗 區 別	大正元年度				大正二年度				大正三年度				大正四年度				重 量 一 株 數
		一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四	
第一	標 準 肥 料	113,800	113,800	113,800	113,800	119,600	119,600	119,600	119,600	187,300	187,300	187,300	187,300	122,650	122,650	122,650	122,650	135,900
第二	人糞尿及鹽粕區	101,700	101,700	101,700	101,700	114,000	114,000	114,000	114,000	199,300	199,300	199,300	199,300	126,200	126,200	126,200	126,200	137,800
第三	大豆 粕 區	114,800	114,800	114,800	114,800	116,100	116,100	116,100	116,100	196,900	196,900	196,900	196,900	101,100	101,100	101,100	101,100	120,000
第四	硫酸安母尼亞區	100,500	100,500	100,500	100,500	117,200	117,200	117,200	117,200	245,700	245,700	245,700	245,700	95,000	95,000	95,000	95,000	127,300
第五	智利 硝 石 區	110,200	110,200	110,200	110,200	110,100	110,100	110,100	110,100	254,100	254,100	254,100	254,100	104,600	104,600	104,600	104,600	129,800
第六	鹽 粕 區	114,000	114,000	114,000	114,000	131,200	131,200	131,200	131,200	310,100	310,100	310,100	310,100	94,900	94,900	94,900	94,900	140,300

右ノ成績ニヨレバ年ニヨリ多少豊凶ノ差アリト雖モ平均收量ニ於テ第五第四ノ兩區收量多ク第二區最モ少シ而シテ之ヲ四ケ年間ノ成績ニ徴スルニ第四及第五區ノ如キ化學肥料ヲ追肥ニ施用セルモノハ人糞尿其他ヲ供用セルモノニ比シ發育良好ナルノミナラズ一般ニ病害ニ犯サル、歩合少キガ如シ加之肥料ノ價額特ニ高價ナルニ非レバ右兩區ノ如キ肥料配合法ヲ有利ナリト認ム

三、肥料反應試驗

一、目 的 反應ヲ異ニスル肥料配合法ヲ行ヒ之ヲ白菜ニ施用シ以テ其生育收量及ビ病害等ニ

及ボス影響ヲ驗知セントス

一、供試品種 芝 栗

一、試驗區別

第一、酸性肥料區

肥料名	用 料	原 肥	追 肥				窒 素
			一 回	二 回	三 回	回	
堆 肥	10,000	10,000					0.500
人 糞 尿	10,000	10,000					0.300
硫酸安母尼亞	1,985						0.300
精造磷酸石灰	1,335						0.300
硫酸加里	0,668	0,668					0.395

第二、中性肥料區

肥料名	用 料	原 肥	追 肥				全 上
			一 回	二 回	三 回	回	
堆 肥	10,000	10,000					
人 糞 尿	10,000	10,000					
智利 硝 石	2,681						0.800
精造磷酸石灰	1,335						0.800
硫酸加里	0,668	0,668					

第三、鹽基性肥料區

肥料名	用量	原肥	追肥			四個年平均
			一回	二回	三回	
堆肥	110,000 <sup>貫</sup>	110,000 <sup>貫</sup>				0,570 <sup>貫</sup>
人糞尿	10,000	10,000				0,140
智利硝石	2,521		0,862 <sup>貫</sup>			0,140
中性磷酸A印	1,570			0,900 <sup>貫</sup>		0,140
炭酸加里	0,556	0,556				0,325
						加里
						0,325

備考 以上ノ内中性磷酸A印ハ百分中磷酸分一七ヲ炭酸加里ハ全加里分四八ヲ含有セリ尙ホ各區共ニ三成分ノ總量ハ全量トス

- 一、生育狀況 概シテ前試驗ニ全ジ
- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度	大正二年度	大正三年度	大正四年度	四個年平均
第一	酸性肥料	187,840 <sup>貫</sup>	173,090 <sup>貫</sup>	210,670 <sup>貫</sup>	99,300 <sup>貫</sup>	142,750 <sup>貫</sup>
第二	中性肥料	89,280	149,760	210,200	143,550	150,700 <sup>貫</sup>
第三	鹽基性肥料	120,960	133,840	234,760	147,960	156,880
						209
						209
						209

前表ニヨレバ平均收量ニ於テ第三鹽基性肥料區ノ收量最高位ヲ占メ第二中性肥料區其次ニ位シ第一酸性肥料區最低位ニアルヲ知ル而シテ病害ニ對スル抵抗力モ殆ソド其收量ニ正比例スルヨリ察スレバ白菜ノ肥料配合ハ稍鹽基性ナラシムルヲ可トスルガ如シ

四、磷酸成分増減試驗

- 一、目的 結球白菜栽培上磷酸成分ノ増減ハ其收量上如何ナル關係アルカヲ驗知セントス
- 一、供試品種 芝罘
- 一、試驗區別
  - 第一、標準肥料(耕種梗概ニ準ズ)
  - 第二、磷酸二割五分減少
  - 第三、磷酸二割五分增加
  - 第四、磷酸五割增加
- 備考 磷酸分ノ増減ハ專ラ精過磷酸石灰ヲ以テシタリ
- 一、生育狀況 概略前試驗ニ全ジ
- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正三年度			大正四年度			二ヶ年平均	
		重量	株數	重	重量	株數	重量	株數	
第一	標準肥料	187,000 <sup>貫</sup>	336	117,200 <sup>貫</sup>	110	150,970 <sup>貫</sup>	313		

第一	磷酸二割五分減	一六、八八〇	三六	一〇六、八〇〇	一八六	一五二、八四〇	101
第二	磷酸二割五分増	二〇四、八八〇	三六	一一二、九八〇	二〇四	一五八、九六〇	110
第三	磷酸五割増	二五〇、七六〇	三六	九八、八六〇	一九三	一七一、七六〇	104
第四							

### 五、病害豫防試験

一、目的 白菜ニ頻發スル病害ハ腐敗病及ビ白銹病ノ二種ニシテ就中前病ノ發生甚ダシク勢猖獗ヲ極ム仍テ本試験ハ該病豫防ニ對シ土壤消毒ノ効果如何ヲ研究セントス

二、供試品種 直隸(本種ハ病害ニ犯サレ易キヲ以テ特ニ選ビタリ)

一、試験區別

- 第一、標準區(無豫防區)
  - 第二、耕耘後播種前反當石灰三十貫匁ヲ畦條下ニ耨キ込ム
  - 第三、全上木灰四十貫匁ヲ耨キ込ム
  - 第四、全上石灰窒素十五貫匁ヲ耨キ込ム
- 備考 木灰ニハ磷酸及ビ加里分ヲ多量ニ含有スレドモ此際單ニ消毒劑ト見テ此二成分ヲ標準肥料ヨリ控除セザリシト雖モ石灰窒素(十七%窒素含有品)ハ所含窒素分量多キノミナラズ窒素分ノ増減ハ他ノ二成分ニ比シ收量上著大ノ影響ヲ來スモノト信ジ其成分量ダケ標準肥料ヨリ控除シタリ、而シテ第二區以下ハ七月廿二日(大正四年ハ七月廿六日)各用劑ヲ

### 圃地ニ耕入セリ

一、生育狀況 大正三年度ハ播種前旱魃ノタメ石灰窒素分解セサリシト見ヘ第四區ニ限リ八月十三日ノ降雨後所々枯損株ヲ生セシヲ以テ八月十八日更ニ一部追播ヲ行ヒテ之ヲ補ヒタリ然レドモ是ガ爲ニ全年第四區ノ收量ニ著シキ減收ヲ來セリ尙ホ十月上旬ヨリ各區ヲ通ジテ白銹病及ビ腐敗病ノ發生ヲ屢シ就中第一區二區ニ多シ又大正四年度ハ晚秋温暖ナリシ結果十月中旬頃ヨリ徐々腐敗病ノ發生ヲ見第一區及ビ第四區ニ特ニ發生多シ

### 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正二年度 重量 株數	大正三年度 重量 株數	大正四年度 重量 株數	三箇年平均 重量 株數	大正三、四 兩年ノ平均 重量 株數
第一	無豫防區	111,700	119,000	126,000	118,900	119,900
第二	石灰加用區	116,000	110,700	131,700	119,100	119,000
第三	木灰加用區	131,000	110,000	105,000	115,300	117,000
第四	石灰窒素加用區	127,800	116,100	111,000	118,000	110,000

(備考 大正三、四兩年平均罹病株數欄中活孤内數字ハ株數ヲ示ス)  
右ノ成績ニヨレバ豫防法ヲ講セシモノハ其否ラザルモノニ比シ効果アルガ如シト雖モ依是全ク病害ヲ避クルコト能ハズ

### 六、平畦揚畦比較試験

- 一、目的 白菜栽培上平畦ト揚畦トノ利害得失ヲ探求セントス
- 二、供試品種 芝罘
- 三、試験區別
  - 第一、平畦ニス(耕種梗概ニ準ズ)
  - 第二、揚畦ニス
- 一、生育狀況 概シテ前試験ニ全ジ
- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正三年度		大正四年度		二個年平均		平均病數
		重量	株數	重量	株數	重量	株數	
第一	平畦	17,770	336	13,100	336	15,435	336	—
第二	揚畦	18,850	336	10,170	336	14,010	336	5.95

● 菠 稜 草

- 耕種梗概
- 一、整地 九月九日(大正三年)

一、播種 九月十六日(全上)

一、播種量 一畝當八合(但シ無稜種ハ五合)

一、播種法 一定距離ニ作條ヲ劃シ原肥ヲ施シ少シク被土シタル上ニ種子ヲ均一ニ條播シ五六分ノ厚サニ細土ヲ覆ヘリ

一、畦幅 一尺五寸

一、株間 五寸(最後ノ間引ニテ株間ヲ一定シタリ)

一、間引 十月十二日、十月廿五日、十一月七日

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥		窒素	磷素	加里	價額
			一回	二回				
堆肥	10,000	10,000	—	—	0.27	—	—	—
人糞	10,000	8,000	10,000	—	0.31	—	—	—
灰	1,500	1,500	—	—	—	—	—	0.95

- 一、追肥 十月十四日、十一月九日
- 一、中耕 全上
- 一、入手 十二月下旬畦上所々ニ笹ヲ立テ、霜除トナシ翌春三月上旬之ヲ撤去シタリ
- 一、收穫 三月十九日(大正四年)

### 一、品種試驗

一、目的 内外數種ノ菠薐草ヲ蒐集栽培シ其生育收量及ビ品質ヲ比較調査シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良品種ヲ選出セントス

#### 一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	日本種	內地	第四	ロング、シーズン	米國
第二	西洋大葉種 (モンストラス、ピロフレイ)	佛國	第五	ノル、フオーク、サホイ	不詳
第三	サホイ、ライブド	全	第六	ビクトリヤ	英國

一、生育狀況 發芽後生育良好ナリシモ冬季寒害ヲ被ムリ殊ニ外國種ハ一般ニ耐寒性弱ク爲ニ缺損株少カラズ就中「ビクトリヤ」ニ甚ダシカリキ

一、特性及收量 (一畝當)

區名	品種名	種子之部		葉之部		品質	收量(根ヲ除ク)
		色澤	稜ノ有無	色澤	形狀		
第一	日本種	暗黃褐	有	淡綠	狹端尖長	平滑	大正元年度 二六、八七〇 大正二年度 三三、四三〇 大正三年度 三三、三三〇 平均 三〇、八八〇
第二	モンストラス、ピロフレイ	全	無	濃綠	廣端稍大	少有	二四、〇〇〇 二六、七〇〇 二九、七〇〇
第三	サホイ、ライブド	黃褐	全	濃綠	鈍中位、葉端稍立ツ	著シ	一〇、六七〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 平均 一〇、二二〇

第四	第五	第六
ロング、シーズン	ノル、フオーク、サホイ	ビクトリヤ
全	暗黃褐	全
全	全	綠
全	全	葉幅稍鈍
全	全	少有
稍劣	稍上	稍劣
一三、五七〇	一三、〇〇〇 一八、〇〇〇 二二、〇〇〇	一八、三三〇 二四、三三〇 (二) 二六、二九〇

(備考) 種子ノ色澤ハ乾燥調製法ノ如何ニヨリ多少相異アルモノナリ又表中(1)(2)トアルハ試驗年數ヲ示スモノニシテ之ナキハ三ヶ年平均收量ナリ)

前表ニヨレバ收量ニ於テ日本種ニ及ブモノナキノミナラズ性質強健栽培亦容易ナレバ實用ヲ主トスル場合ニハ本種ヲ以テ最モ適當トス反之洋種ハ一般ニ收量少ク且ツ性質虛弱ナルノ缺点アリト雖モ或一二種ヲ除ク外ハ概シテ品質優良纖維少ク莖部ノ甘味甚ダ強シ殊ニ「モンストラス、ピロフレイ」ヲ以テ最良トスルヲ以テ特ニ品質ニ重キヲ置カント欲セバ本種ヲ可トス

### 二、刺戟肥料加用試驗

一、目的 本試驗ハ菠薐草ニ於テ刺戟肥料加用ノ効果有無ヲ知ラントス

一、供試品種 日本菠薐草

一、供試肥料 鹽化マンガン及ビ硫黃華

#### 一、試驗區別

- 第一、無加用(標準區)
- 第二、反當鹽化マンガン一貫匁ヲ加用ス(但シ二回分施ス)
- 第三、全上二貫匁ヲ加用ス(三回ニ等分シテ施用セリ)



- 第四、反當硫黃華二貫多ヲ播種五日前ニ施用ス
- 一、刺戟肥料加用日 第二區、十月十四日、十一月九日
- 第三區、十月十四日、十一月九日、十一月三十日
- 第四區、九月九日

- 一、生育狀況 發芽生育良好ナリシモ冬季多少寒害ヲ被ムリ收量ニ幾分影響セリ
- 一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	收量(根ヲ除ク)	區名	試驗區別	收量(根ヲ除ク)
第一	無加用區	三,〇〇〇	第三	全上二貫多加用區	三,〇〇〇
第二	鹽化マンガン一貫多加用區	三,〇〇〇	第四	硫黃二貫多加用區	三,〇〇〇

### ●豌豆

- 耕種梗概
- 一、整地 十月十六日(前年)
- 一、播種 十月廿五日(前年)
- 一、播種量 一畝當五合
- 一、播種法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ穿チ原肥ヲ施用シ少シク被土シタル後所定ノ株間ニ一株三四

粒宛播種シ七八分ノ厚サニ土ヲ覆ヒタリ

- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺五寸
- 一、間引及補植 十一月二十日一株二本立トナシタリ
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	二番肥	總價
堆肥	10,000	10,000	10,000	0.173
人糞	10,000	10,000	10,000	0.189
精過燐酸石灰	0.800	0.800	0.800	0.100
藥灰	1.700	1.700	1.700	0.150

- 一、追肥 三月十一日
- 一、中耕 前年十一月二十日、十二月六日、三月十一日
- 一、霜除 前年十二月五日畦上所々ニ笹ヲ立テ、寒害ヲ避ケ翌春三月四日之ヲ撤去シタリ
- 一、支柱建 四月七日
- 一、收穫 自五月十三日至六月八日(大正三年)

### 一、軟莢用豌豆品種試驗 (大正三年一ヶ年分)

一、目的 軟莢用各豌豆品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適スル良品種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	在來白花莢豌豆	內地
第二	佛國大莢(フレンチ シュガー、ビー)	佛國
第三	米國莢豌豆(アメリカン、メルテンゲ シュガー、ビー)	米國
第四	臺灣大莢	臺灣

一、生育狀況 發芽後生育良好ナリシモ冬季ニ至リ在來種ヲ除ク外概シテ耐寒性弱ク爲ニ多少枯損セシモノアリ

二、特性

區名	熟期	種子之部(熟後)		莢ノ有無	花之色	莢之部		嫩莢(大小)	品質
		性	狀			形	色		
第一	中	圓	滑	有	白	狹ク長直	綠	中	軟
第二	晚	皺縮アリ	淡靑紫	全	赤紫	甚廣長曲ル	全	甚大	全
第三	中	少シク皺縮アリ	淡靑紫	全	赤紫	狹ク長直	全	中	稍硬
第四	晚	皺縮アリ	淡靑紫	全	赤紫	甚廣長曲ル	稍淡綠	甚大	軟

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	收量		合計
		五月	六月	
第一	在來白花莢豌豆	一五、四三五	一〇、〇一三	二五、四四八
第二	佛國大莢	一、九九〇	二、七二五	四、七一五
第三	米國莢豌豆	三、九一五	二、〇四八	五、九六三
第四	臺灣大莢	五、六二五	九、五〇三	一五、一二八

● 蠶豆

耕種梗概

- 一、整地 十月十六日(大正三年)
- 一、播種 十月廿五日(大正三年)
- 一、播種量 一畝當八合(但シ大粒種ハ一升一合)
- 一、播種法 概略豌豆ニ全シ
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺五寸
- 一、間引及補植 十一月二十日一株二本立トナセリ
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	二番肥	窒素	磷酸	加里
堆肥	10,000	10,000		0.17		0.17
人糞	10,000			0.17		0.17
精過磷酸石灰	0,000	0,000			0.17	0.17
葉灰	1,000	1,000				0.17

一、追肥 三月十一日  
 一、中耕 十一月二十日、十二月六日、三月十一日  
 一、霜除 豌豆ニ全ジ  
 一、收穫 大正四年六月廿九日(嫩莢稍黑色ニ變シタルトキ)

一、品種試驗

一、目的 蔬菜用軟實ヲ得ンタメ數種ノ蠶豆ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較調査シ以テ本縣ニ適スル良品種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	早生	內地(地方不詳)
第二	大蠶豆(一名於多福)	京都
第三	一寸	大阪

第四 英國 全上  
 第五 英國 全上  
 一、生育狀況 內國種ハ一般ニ生育良好ナリシモ洋種ハ性虛弱寒害ヲ被ムリ易ク殊ニ「グリーン、チャイアント」最モ甚シ

一、特性

區名	品種名	草勢	種子之部(熟後)	花之色	莢之部(生)	品質	備考
第一	早生	稍低	稍長	淡紫地ノ中央ニ黒斑アリ	短狭	稍劣	
第二	大蠶豆	高	全	大	短廣	稍大	有望
第三	一寸	全	全	甚大	全	稍大	有望
第四	グリーンチャイアント	最高	全	中	長廣	稍大	
第五	マンモス、ボツト	高	長	稍大	長圓	全	有望

(備考) 第四、第五兩區ノ大ナルモノハ一莢四乃至五粒ヲ藏スルト雖モ內國種ハ三粒ヲ藏スルニ過ギズ)

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正二年度	大正三年度	大正四年度	三ヶ年平均收量
第一	早生	10,300	8,800	11,000	10,033

第 二	大 蠶 豆	一五、九〇〇	八、三〇〇	三〇、七〇〇	一一、五〇〇	二七、五五〇	一四、七〇〇	二四、五三三	一一、五三七
第 三	一 寸	一三、九五〇	七、一一〇	三〇、一五〇	一一、〇〇〇	三〇、三七五	一六、六五〇	二四、八五八	一一、九三七
第 四	グライ ン ヂ ャ イ ア ン ト			八、三三〇	三〇、〇〇〇	二〇、一五〇	七、〇〇〇	二四、三三三	五、〇〇〇
第 五	マン ロ ン グ 、 ボ ツ ト			五、九六五	二五、八九〇	三三、七〇〇	一四、七〇〇	二〇、二九七	

前表ニヨレバ收量及ビ品質共ニ他種ニ優レタルハ「マンモース、ロングボット」ニシテ早生之ニ次ギ一  
寸及ビ大蠶豆互ニ相伯仲シテ順次シ「グリーン、ヂャイアント」最モ劣ルヲ知ル而シテ早生ハ收量ニ於  
テ勝ル所アリト雖モ市場ニ於ケル價格ハ他ノ四種ニ及バザルヲ常トス仍テ收量稍少キモ一寸及ビ大蠶  
豆ヲ栽培スルヲ却テ有利トスベク殊ニ前種ヲ有望トスルナリ而シテ寒害少ナキノ地ニアリテハ「マン  
モースロングボット」亦頗ル有望ナリ

一、乾實用蠶豆摘心可否試験 (大正四年開始)

- 一、目的 本試験ニ於テハ乾實採收ヲ目的トスル蠶豆ニ摘心ノ可否如何ヲ驗知セントス
- 一、供試品種 早生蠶豆
- 一、試験區別
  - 第一、全ク摘心ヲ行ハズ(標準區)
  - 第二、五月上旬ノ各莖頂ヲ摘心ス(五月四日實施)
  - 第三、五月中旬全上(五月十五日實施)
- 一、生育狀況 發育良好特記スルコトナシ

一、收 量 (一畝當)

區 名	試 驗 區 別	總 收 量 (乾 實)	平 均 一 升 之 重 量	收 量 順
第 一	全ク摘心ヲ行ハズ	九、六四五	二八、八〇	三
第 二	五月上旬摘心	八、二五〇	二四、四五	一
第 三	五月中旬摘心	八、七二五	三五、六	二

● 草 苽

耕種梗概

第一年(自明治四十四年十二月至全四十五年六月)

- 一、定 植 初年苗ヲ購入十二月十三日、全十四日、全廿五日ノ三回ニ定植シタリ通常九月中下旬ヲ定植ノ定期トナスモ畑地ノ都合上遅延セリ
- 一、畦 幅 二 尺
- 一、株 間 一 尺
- 一、定 植 法 曩ニ耕耘均平シ置キタル畑地ニ作條ヲ穿テ原肥ヲ施シ所要ノ株間ニ苗ヲ一株宛眞直ニ根ヲ擴ゲテ心葉ノ土中ニ埋沒セザル様叮嚀ニ植付タリ

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥		價	加	燐	窒
			一回	二回				
堆肥	10,000	10,000			0.48			
大豆粕	2,000	2,000			0.31			
精過磷酸石灰	0,500	0,500			0.37			
人糞	3,000	2,000	1,000		0.37			
葉尿	10,000		7,000	3,000	1.30			

一、追肥 一月九日(九月下旬)豫定ナリシモ定植遅レタリシヲ以テ從テ追肥モ遅延セリ(三月十五日)

一、中耕 全上

一、敷藁 四月廿五日

一、收穫 自五月九日至六月八日

一、除莠 六月廿一日

一、蔓切 自六月廿一日

一、蔓切 第二年(自明治四十五年七月至大正二年六月)至九月下旬迄數回ニ行ヒタリ

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥		價	加	燐	窒
			一回	二回				
堆肥	10,000	10,000	10,000		0.48			
大豆粕	2,000	2,000			0.31			
人糞	3,000	10,000	10,000		0.37			
精過磷酸石灰	0,500	0,500			0.37			
葉尿	3,000	11,000	1,000		1.30			

一、施肥 六月廿一日(原肥)十月十四日、三月四日

一、中耕 全上

一、敷藁 四月十四日

一、收穫 自五月廿四日至六月十八日

一、除莠 六月廿六日

一、蔓切 大正元年九月廿七日日本場ヨリ當試驗地ニ苗ヲ移植シタリ

一、肥料 自七月至九月下旬迄數回

一、肥料 第二年ト全一ナレバ省略ス

一、中耕 七月八日(原肥)九月廿三日、三月六日(大正三年)全上

一、敷 葉 四月廿九日  
 一、除 葉 六月三十日  
 一、收 穫 自五月廿五日至六月十九日  
 一、探 堀 右試驗終り老衰セル各株ヲ探堀棄却シ豫テ育成シタル新苗ヲ更メテ他圃ニ植付タリ

一、品種試驗 (大正三年度ニテ完結)

一、目的 數多ノ草莓品種ヲ蒐集培養シ其收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適スル優良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品名	原產地	區名	品名	原產地
第一	ジョンズ、アーリー	英國	第五	サー、ジョセフ、マツクストン	全上
第二	ゼラル、サンジー	佛國	第六	レーテスト、オア、オール	全上
第三	ビルモラン	全上	第七	ドクトル、モーレ	佛國
第四	ビクトリア	英國			

二、特性 (大正二年及全三年ノ調査)

區名	品名	形	實	部	草勢	開花始
第一	ジョンズ、アーリー	短圓	小	下	強	四月上旬
第二	ゼラル、サンジー	短圓 (畸形果生シ易シ)	中	中	強	全中旬
第三	ビルモラン	先端圓 (上利形)	小	稍上	強	全
第四	ビクトリア	鈍圓 (德利形)	中	中	稍弱	全
第五	サー、ジョセフ、マツクストン	短圓 (長形果生シ易シ)	全	極上	全	全
第六	レーテスト、オア、オール	長圓 (畸形果生シ易シ)	大	極上	全	全
第七	ドクトル、モーレ	鈍圓	中	上	稍弱	全

一、收量 (一畝當)

區名	品名	明治四十五年	大正二年度	大正三年度	三箇年平均收量	個數	一個最大重量
第一	ジョンズ、アーリー	一、〇一〇	六、四八四	一、〇一九	六、〇七	八、五五六	二、一
第二	ゼラル、サンジー	一、八二〇	三、三〇	四、五四〇	三、三三	三、三四	二、八
第三	ビルモラン	〇、九四	七、一九九	九、四三三	五、五五九	七、四四八	二、〇
第四	ビクトリア	二、二九〇	六、八九〇	九、四一〇	六、一八五	五、八八六	三、三
第五	サー、ジョセフ、マツクストン	一、五七〇	六、五〇九	二、九三三	七、〇〇	七、〇〇八	三、〇
第六	レーテスト、オア、オール	一、五〇〇	一、六〇六	七、〇六七	三、三九二	三、三九三	三、九
第七	ドクトル、モーレ	三、七四六	五、三九六	一、四六五四	七、九三三	八、三三八	二、五

右表ニヨレバ年ニ由テ多少豊凶ノ差ナキニ非レドモ平均收量ニ於テハ「ドクトルモーレ」最高位ヲ占メ

「サー、ジョセフ、バックストン」之ニ亞ギ「ジョンズ、アーリー」及ビ「ビクトリヤ」ハ互ニ相伯仲シテ順次シ「ゼネラル、サンジー」及ビ「レーテスト、オブ、オール」ノ二品種最モ低位ニアルヲ知レリ而シテ品質收量共ニ並ビ優レタルハ依然「ドクトル、モーレ」及ビ「サー、ジョセフ、バックストン」ノ二種ナリト雖モ唯此二種ハ稍晩生ナルヲ欠点トス其他「ジョンズ、アーリー」及ビ「ビクトリヤ」ノ二種ハ收量少カラザルモ品質良好ト稱シ難ク就中「ジョンズ、アーリー」ハ形狀矮小風味劣等上記二品種ニ比シ遙ニ遜色アレドモ性質早生ナルヲ以テ早時ノ採收ニ適ス次ニ「ビルモラン」ハ品質優良ナリト雖モ形狀矮小且ツ年ニヨリ豊凶ノ差著シ尙ホ「レーテスト、オブ、オール」ハ性晩生ニシテ收量亦寡少ナルノ缺点アレドモ風味可良加フルニ頗ル大顆ヲ生ズルノ長所アルヲ以テ品質ニ首位トスル場合ニハ本種ニ如クモノ恐ラク鮮カルベシ、以上ノ事實ヲ綜合スルニ實用種トシテ一般ニ憇適シテ佳ナルハ「ドクトル、モーレ」及ビ「サー、ジョセフ、バックストン」ノ二種ナリ

大正五年四月二十六日印刷  
大正五年四月二十九日發行

### 茨城縣立農事試驗場

(東茨城郡酒門村)

印刷者

吉田政男

水戸市大字常磐神崎六十五番地

印刷所

加納印刷所

水戸市上市泉町千百四番地



1424  
342



終

